第三項　先夫ノ子數名アル場合ニ於テ己レノ子トナスハ其悉皆タルヘク存候處其中ノ幾名ヲ選フモ亦差支ナキ乎

司法大臣指令（三十年十月二十八日）

第一項　迎夫出願ノ際先夫ノ子ノ處置ヲ定メサルモ太政官達第五十八號ノ場合ニ相當スルモノト認ムルトキハ許可ヲ與フヘシ

第二項　實子ナキトキハ先夫ノ子ヲ嗣子又ハ養子ト爲スコトヲ得實子アルトキハ先夫ノ子ヲ養子ト爲スコトヲ得

第三項　意見ノ通

但本件ハ主管ニ付キ當省限リ指令ス

茨城縣知事伺（三十年十月十五日）

前夫ノ子ヲ以テ相續セシムル契約ナキ者ハ相續權ナキハ勿論ニ付テハ後夫ニ子女ナキ場合ト雖モ右契約ナキ限リハ其後夫ヨリノ續柄稱呼モ無之儀ニ付等シク相當相續權ナキ儀ト心得可然哉

內務、司法兩大臣指令（三十年十月十九日）

本年十月十五日第一〇八五號伺前夫子相續權ノ件當然相續權ナキハ伺之通但後夫ヨリ前夫ノ子ト稱スヘキモノトス

滋賀縣知事問答（三十年十月十一日）

一養戶主失踪後遺妻本夫ト離婚ノ上後夫ヲ迎フル場合ノ如キ戶內離婚ニ止マルモノハ其失踪年月ノ長短ニ拘ハラス行政廳ニ於テ許可難相成旨明治二十四年一月埼玉縣伺ニ對シ內務大臣ヨリ御指令有之候處右ハ現今ニ於テモ戶內離婚ニ止マルモノハ此旨趣ニ基キ取扱可申儀ニ候哉果シテ然ルトキハ當初戶內結婚ニ係ルモノト雖トモ夫失踪ニ依リ離婚セントスルトキハ其妻ヨリ裁判所ヘ離婚ノ訴ヲ爲スヘキ筋ニ有之候哉

一長男廢嫡ノ上他家養子トナリ養家ニ於テ擧ケタル男女子ヲ携帶實家ニ復籍廢嫡者復立ノ手續ヲ爲シタル場合ニ於テハ其被携帶者ハ養家ノ男女子ナリト雖トモ父カ嗣子ニ復立セシ以上ハ嫡孫同樣相續權ヲ有スヘキモノニ有之候哉又

獨女子ヲ廢嫡ノ上他ヘ婚嫁セシメタルニ其後故アリ離婚復籍スルニ當リ携帶入籍セシ夫家ノ男女子ハ戸籍登記式ニ據レハ單ニ孫ト額書スヘキモノナリトヽ雖トモ右ハ素ヨリ其家ノ嫡孫ニアラサルヲ以テ當然相續權無之モノト致思考候得共其母カ家督相續爲シタルトキハ是亦其被携帶者ニ於テ自然相續權ヲ占有スヘキモノニ有之候哉

一子女ヲ有スルモノ其子女ヲ實家ニ差置キ分家又ハ他家養子若クハ絶家再興ヲ爲シタル後男女子ヲ擧ケタルモノ曩ニ實家ニ殘セシ子女ヲ引取リタルトキ其子女ノ稱呼及相續權ノ義ニ付明治二十年十月庶第二〇八一號ヲ以テ内務司法兩大臣ヘ相伺候處分家又ハ絶家再興ノ場合ニ於テハ相續權ハ別ニ事故アルニ非サレハ實家ヨリ引取リタル子女ニ屬スルヲ以テ戸籍ニハ該子女ヲ長男女トシ分家等ノ後擧ケタル子女ハ次男女ト記スヘシ又他家ノ養子トナリタル場合ハ相續權ハ養家ノ子女ニ屬スルヲ以テ戸籍ニハ養家ニテ擧ケタル子女ノ次ニ實家ヨリ引取リタル子女ヲ實家長次男女ノ稱ヲ以テ登記スヘキ旨同年十一月二十日御指令相成候然レトモ絶家再興ノ義ハ生家再興ノ場合ヲ除クノ外戸籍上ニ於テハ前戸主ヲ養父ト記シ卽チ他家ノ相續ヲ爲シタルモノニ有之候ニ依リ他家ノ養子トナリタルモノト同樣取扱可然樣被存候得共矢張右御指令ノ通取扱可申義ニ有之候哉果シテ然ルトキハ前記御指令ト同時ニ訓第八五七號ヲ以テ内務司法兩大臣ヨリ戸籍上ノ義ニ付明治十六年四月十八日伺第一項ヲ改正セラレ而シテ其第二項ニ於テ絶家再興ノ場合ニ長男二名アルモ差支ナキヤトアルニ對シ伺ノ通リトアルヲ改正セラレサルニ付前後ノ御指令矛盾致候得共右ハ前ノ御指令ハ後ノ御指令ニ依リ自然改正相成タルモノト見做シ可然候哉

但分家ト雖トモ養家ヨリ分家セシモノハ養家又ハ分家後ニ擧ケタル子女ヲ長男女トシ實家ヨリ引取リタル子女ハ實家長男女ト記スヘキハ勿論ノ儀ニ有之候哉

一十數年以前實弟ニ長女ヲ配シ已ニ男女子數人ヲ擧ケタルモノ此頃ニ至リ其結婚据置ノ義願出ツルモノ之レアリ右ハ叔姪ノ間柄ニシテ現實血續ノモノニ有之ヲ以テ倫理上無論許可難相成モノトハ致思考候得共今之レカ結婚ヲ無效ト

シテ取消サシムルトキハ已ニ擧ケタル子女ハ私生子トナリ自然其子女ノ相續權ニ關係ヲ及ホス而已ナラス叔姪結婚ノ義ハ從來ノ慣行上間々之レナキニアラサルヲ以テ戸籍上ニ於テ已ニ結婚ノ登記アルモノハ其儘不問ニ差置可然乎又ハ如何ナル事情アルニ拘ハラス其結婚ハ不成立ノモノトシ之レカ取消ノ義命令可致筋ニ有之候哉

但血緣ナキモノ卽チ養叔姪ノ間柄ニ於テモ結婚ノ義ハ難相成筈ニ候得共血緣ナキモノニ在テハ事情不得已モノト認ムルモノニ限リ內務大臣ヘ經伺ノ上特ニ許可ヲ與フルヲ得ヘキ義ニモ有之候哉

文書課長民刑局長回答（三十年十月二十日）

第一　御意見ノ通

第二　養家又ハ夫家ヨリ携帶シタル子女ハ其父又ハ母カ嗣子ニ復立シ家督相續ヲ爲シタルニ因リ嫡孫ニ均シキ相續權ヲ占有スヘキモノニ非スト思考ス

第三　絕家再興之場合ハ他家ノ養子ト爲リタル者ト同樣取扱相成可歟

但書御意見ノ通

第四　後段及但書共御意見ノ通但一々經伺ニ及ハサルヘシ

石川縣知事伺（三十年十一月二十二日）

爰ニ男女子數名ヲ有スル戸主アリ家事ノ都合ニ依リ長次三男ニ相續セシメス四男ヲ以テ相續セシメントスルトキハ長男ハ勿論順次次三男ヲモ廢嫡ヲ要スル儀トハ存候得共聊疑議ヲ生シ候ニ付相伺候條至急何分ノ御指揮相成度候也

司法大臣指令（三十年十一月二十九日）

本年十一月二十二日第三兵特第一四九二號伺廢嫡ノ件ハ見込ノ通心得ヘシ

奈良縣知事問合（三十年十一月十八日）

私生子認知ノ權ハ一身ニ專屬スルモノナルヲ以テ死亡ト共ニ消滅ス可キハ勿論ノ義ト存候得共茲ニ在鄕兵召集ニヨリ在營中書信ヲ以テ既ニ正當結婚シタル婦女ノ入籍ヲ促カシ若シ入籍手續前兒子出生候得者自己ノ實子ニ付庶子トシテ引取方其父ニ申越シ而シテ兒子出生後男子死亡シタルモノアリ此場合ニ於テ依賴

ヲ受ケタル父ハ書信ヲ提出シテ明治六年第二十一號布告ニヨリ私生子引取方請願シタルトキハ町村長ハ父ノ請願ヲ以テ子ノ意思ヲ繼續シタルモノト認メ免許ヲ與フルコトヲ得ルヤ

民刑局長回答　(三十年十一月三十日)

本年十一月十八日坤第一六八四號問合私生子ヲ庶子トシテ引取方ノ件ハ其提出シタル書信ヲ正確ナリト認ムルトキハ許可ヲ與フルモ苦シカラサル儀ト思考ス

島根縣知事照會　(三十年十一月十九日)

一子女ナキモノ養子貰受後女子出生セシトキ該女子ヲ以テ養子ノ緣女ト爲スコトヲ得ルヤ

一前項果シテ緣女ト爲スコトヲ得ルモノトセハ女子出生當日ニ出生ト緣女契約トノ屆出ヲ爲スニアラサレハ出生後假令ハ五日ヲ經テ屆出ヲ爲ストキハ出生日ヨリ屆出迄ハ其女子ハ戸籍ニ登錄ナキモ養子ト養兄妹ノ續柄ヲ生セシモノトシ(出生屆ト緣女契約屆ト同時ナルモ)公認シ得サルヤ又ハ出生ハ數日以前ナルモ戸籍ニ登錄ハ屆出ヲ待テ爲スヘキ義ニ付戸籍ニ登錄ナキ內ハ養兄妹ノ續柄ヲ生セサルモノトシ(出生屆ト緣女契約屆ト同時ナレハ)公認シ可然哉

民刑局長回答　(三十年十二月四日)

本年十一月十九日坤第一八四七號照會養子貰受後ニ出生シタル女子ヲ其養子ノ緣女ト爲ス件ハ第一項一旦女子ヲ他家ノ養子ト爲シタル後ニアラサレハ爲スコトヲ得サル儀ト思考ス第二項ハ前項ニテ了解アリタシ

島根縣知事伺　(三十年十二月十七日)

養兄弟姉妹及血緣ナキ叔姪結婚ノ義ハ至重ノ事故アルモノニアラサレハ聽許相成ラサル筈ニ候處其妻トスヘキモノヲ一旦他家ノ養女トナシ義兄弟姉妹又ハ叔姪ノ續柄ヲ斷チシ上ハ其結婚ハ屆出ニテ然ルヘキヤ

家督相續ハ總領ノ男子タルヘキ義ハ明治六年太政官布告第二十八號ノ趣モ有之候處茲ニ長二三男ヲ有スル戸主アリテ二男ヲ他家ノ養子ニ送籍セシ後長男死亡シ其後養家ヨリ二男復籍シ二三男ヲ有スル場合ニ於テハ其相續權ハ二男ニアル

ヘキヤ又ハ二男ハ長男死亡後復籍セシモノニ付長男死亡ノ際相續權ハ自然ニ三男ニ移轉シ三男其相續權ヲ有スヘキヤ

司法大臣指令（三十年十二月二十八日）

第一項　斷緣ノ上ト雖モ其結婚ニ付テハ出願ヲ要ス

第二項　前段見込ノ通

德島縣知事問合（三十年十二月十六日）

玆ニ亡長男ノ遺妻卽婦及長男ノ女子ヲ有セル戸主遺妻ヘ聟養子ヲ爲シ他日長子ニ於テ男子ヲ擧ケタルトキハ該家ヲ相續セシムヘキ口約ヲ爲シ其ノ後養子ハ男子ヲ擧ケ戸主ハ死亡セリ其亡跡相續權ハ養子ニ可有之哉尤右養子セシ當時女孫ノ廢嫡ヲ爲ササリシノミナラス長男ノ遺妻ハ一旦離緣復籍ノ上更ニ養女若クハ養子ノ妻トシテ入籍スルニ非サレハ直ニ遺妻ヘ聟養子トシ入籍シ得ヘカラサルモノナルモ其手續ヲ爲サス入籍シ且既ニ一子ヲ擧ケタルヲ以テ養父生前口約ノ次第モ有之該養子ニ於テ相續權ヲ有スル方ト思考候ヘ共一應及御問合候也

民刑局長回答（三十年十二月二十八日）

本年十二月十六日內三乙第四〇一〇號御問合ノ件戸主死亡跡相續權ハ嫡孫卽チ亡長男ノ女子ニ屬スル儀ト思考ス

岐阜縣伺（二十九年一月十六日）

亡兄弟ノ遺妻其兄弟ト婚姻スルハ都テ不相成筈ノ處亡兄ノ遺妻其弟ト結婚スルモノハ一家ノ浮沈ニ關スル至重ノ事故アル場合ニ限リ二十六年御省訓令民刑第三〇三號ニ依リ特許スヘキ例ト相考候然レハ其兄タルト弟タルトハ悖倫ノ上ニ於テ區別無之候得共前顯特許ノ旨趣ヨリ推考スレハ亡弟ノ遺妻其兄ト婚姻スルモノヽ如キハ如何ナル事情アルモ難差許義ト心得可然哉

指令（二十九年一月二十四日）

一家ノ浮沈ニ關スル等至重ノ事故アルトキニ限リ許可スヘキ義ト心得ベシ

岩手縣伺（二十九年一月二十一日）

失踪戸主ノ孤獨ナル嗣子ハ該失踪者ノ跡相續ヲナスヘキモノナルニ付他家ノ養子ニ吳遣ハスヲ得サル旨明治二十年十一月中愛知縣ヘ御指令ノ趣モ有之候處玆ニ戸主並ニ其長男ニテ嗣子タルモノ失踪シ家ニ在ルハ一女子ノミニシテ生計難相立ニ付他ニ緣組セントスルモノ有之右ハ假令失踪ニテモ嗣子ナルモノ別ニ有

之モノナルニ付縁組ノ儀聞屆可然哉將タ長男復歸セサルトキハ該家ヲ相續スヘキモノナルニ付難聞屆儀ニ可有之哉

指令（二十九年一月三十一日）

親族協議願出ツルニ於テハ前段見込ノ通

鹿兒島縣伺（二十九年二月十二日）

子女ヲ有スル戸主ニシテ養嗣子ヲ爲スニハ該子女ノ廢嫡ヲ要スルモ何等ノ契約ナキモノ養子ヲ爲ストキハ之ヲ要セサル旨從來各縣ノ質疑等ニ相見ヘ候處男子ハ女子ニ先ツテ相續權ヲ獲得スヘキ成例ニ付養子ト養嗣子ニ拘ハラス等シク廢嫡ヲ要セサル筋ニ無之哉若シ養嗣子ニ限リ廢嫡ヲ要スルモノトセハ入籍ト共ニ相續權ノ獲得ヲ公認スル儀ニ付現ニ相續權ヲ有スル女子ヲ排除スルニアラサレハ入籍難相成筋ニ候ヤ

指令

養嗣子ニ非サル養子ヲ爲ス場合ニハ其養子ハ當然相續權ヲ有セサルニ付キ女子ヲ廢嫡スルヲ要セサル儀ト心得ヘシ

靜岡縣照會（二十九年二月十五日）

男女子數人ヲ有スル士族ノ戸主死亡候處其長男素行修マラサル故ヲ以テ改心ヲ見屆候迄廢嫡セス一時遺妻ニ相續爲致度旨親族連署願出候者有之右ハ正當相續權ヲ有スル長男ヲ擱キ遺妻ニ於テ相續スルハ不都合ト存候得共一家ノ經營上追テ長男ヘ相續セシムルノ主旨ニ候ハヽ聞屆不苦候哉

民刑局長回答（二十九年三月九日）

貴見ノ通ニテ然ルヘキ義ト思考致候

福岡縣伺（二十九年二月二十七日）

第一項　戸主不取締ノ爲メ親族ヨリ廢戸主出願許可ヲ得其父（又ハ母）ニ於テ家督ヲ相續シタルモノアリ此場合ニ於テ右被廢戸主ハ長男又ハ獨子タルモ一旦不取締ノ事故ニ依リ廢戸主セラレタルモノニ付其原因消滅更ニ嗣子トナサヽル

限リハ再相續權無之モノト心得可然哉

第二項　前項伺ノ通リニ有之候ハヽ不取締ノ事故消滅セサル內戶主(卽チ父又ハ母)死亡シ他ニ家族無之場合ニ於テモ前項ノ通リ心得可然哉

指令　(二十九年三月十日)

第一項　見込ノ通

第二項　他ニ家族ナキ場合ニ限リ廢戶主ト爲リタル長男又ハ獨子ト雖モ相續權ヲ有スルモノトス

新潟縣伺(內務省ヨリ合議)　(二十九年二月二十四日)

一養家ヨリ直チニ他家ノ養子トナルハ養父母累加スルヲ以テ離緣復籍ノ後ニ非サレハ再ヒ他家ノ養子女トナルヲ得サル義ニ候處茲ニ養子戶主願濟廢家ノ上父母携帶實家ヘ復籍シタルモノ再ヒ他家ノ養子トナラントスルニ依リ携帶ノ養父母ト戶內限リ離緣センコトヲ出願スルモノアリ右ハ携帶ノ養父母ト離緣スルトキハ其養父母ヲ侍養スルモノナキニ至ルヲ以テ無論聞屆クルコトヲ得サル義ト心得可然哉

內務、司法兩省指令　(二十九年三月十日)

第一項　伺ノ通

新潟縣伺　(二十九年二月二十四日)

一私生子ハ男子ニ於テ己ノ子ト認メ婦女原籍地町村長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ引取ルコトヲ得サル處茲ニ妻ノ私生子ヲ養子女ニ貰受ケタル後チ實子ノ故ヲ以テ長ニ男女ニ訂正出願スルモノアリ右ハ認知ノ手續ヲ經サルモノナルモ既ニ養子女トシテ入籍セシメ且實際實子ニ相違ナク又其生母モ男子ト結婚シ送入籍ノ手續ヲ了シタルモノナレハ許可シ差支ナキヤ又ハ改メテ認知ノ手續ヲ經タルモノニアラサレハ許可スルコトヲ得サルヤ

一若シ前項後段ノ通許可スルコトヲ得サルモノナルトキハ之ヲ嫡出トスルニハ其養子女ハ一旦實家ヘ復籍セシメ更ニ男子ニ於テ認知ノ手續ヲナシ之ヲ引取リタル上嫡出トスヘキハ當然ノコトナルモ既ニ養子女トシテ入籍シ且生母モ

正婚シアレハ復籍等ヲ要セス其儘正母現住籍(卽チ男子籍)ノ町村長ニ其男子ヨリ認知ノ手續ヲナサシメ可然ヤ

一妻入籍後擧ケタルモノトナシ屆出タル子女ノ誕辰ヲ入籍前ノ誕辰ニ訂正出願スルモ右ノ屆出ハ詐僞ニ屬スルヲ以テ許可スヘキモノニ非ス其詐僞ノ屆出ヲ取消シ更ニ妻ノ私生子トシ而シテ男子ニ於テ認知ノ手續ヲナシ實子トシテ引取リタル上嫡出トスヘキ例ニ候處茲ニ父ノ死亡跡ヲ相續セントスル長男アリテ戸籍上二男卽チ弟ト位置顚倒シ相續上差支ノ故ヲ以テ母ノ入籍前ノ誕辰ニ訂正出願スルモノアリ(長男ハ母ノ入籍前ニ擧ケタルモノナルニ其當時ヨリ出生ノ屆出ヲナサス入籍後二男出生シタルヲ以テ之ヲ長男トシ屆出後該長男ノ出生屆ヲナサヽルニ心付其屆出ノ年月日ヲ以テ之ヲ二男トシ屆出タルモノナリ)今之ヲ母ノ私生子トナサシムルモ其父死亡後ナルヲ以テ之ヲ認知スルノ男子ナク終ニ嫡出タルノ權利ヲ得ルコト能ハス斯ノ如キモノハ假令當時ノ屆出詐僞ニ出テタルニモセヨ其亡父ニ於テ嫡出トシ屆出置キタルモノナレハ則チ生前ニ於テ認知ノモノタルニハ相違無之ニ付出願ノ通許可シ差支無之哉

內務司法兩省指令　(二十九年三月十日)

第一項　後段伺ノ通

第二項　伺ノ通

第三項　確實ナル證據アリテ妻入籍以前ノ出生トナルモノハ其戸籍ヲ削除シ更ニ相當ノ手續ヲナサシメタル上私生子トシテ妻實家ノ籍ニ編入スヘシ

東京府伺　(二十九年四月十七日)

茲ニ男女子數名ヲ有スル戸主アリ退隱ノ後家事上ノ都合ニ依リ長二三男ニ家名ヲ相續セシメス四男ヲ以テ相續セシメントスルトキハ單ニ嗣子タル長男ノミ廢嫡致シ可然哉

指令　(二十九年四月十七日)

見込ノ通

靜岡縣照會　(二十九年三月二十七日)

一　女子ノ分家又ハ廢家再興ハ家名相續ト同樣出願セシムヘキ筋ナルヤ又ハ屆

出シテ不苦候哉

一　前項廢家再興ノ場合他ヨリ入家シタル母ナルモ一旦生家ヘ復籍セシムルニ及ハサルヤ

民刑局警保局　長回答　（二十九年四月二十一日）

第一項　分家ハ出願ヲ要セサルモ廢家再興ハ出願ヲ要ス

第二項　一旦生家ヘ復籍スルコトヲ要ス

東京府照會　（二十九年四月二十九日）

廢嫡ノ件ニ付テハ本月十七日附御指令ノ次第モ有之候處茲ニ數名ノ男女子アルモ之レニ相續セシメス亡戸主ノ兄弟姉妹ニ相續セシメントスルモノ又ハ男子ヲ措キ女子ニ聟養子ヲ迎ヘ該養子ニ相續セシメントスルモノアリ右養子又ハ兄弟姉妹ハ何レモ家名ヲ繼襲スヘキ相當身分ノ者ニアラサルヲ以テ右御指令ニ依ラス各自廢嫡ヲ要スヘキ筋トハ存候得共一應御意見承知致度候

民刑局長回答　（二十九年五月二日）

亡戸主ノ兄弟姉妹ニ相續セシメントシ又ハ女子ニ聟養子ヲ迎ヘ其養子ニ相續セシメントスル場合ニ於テモ嗣子ト定メタル者ノミヲ廢嫡スレハ其他ノ者ニ付テハ各自廢嫡ノ手續ヲ爲スコトヲ要セサル義ト思考致候

大分縣伺　（二十九年四月三十日）

縣下東國東郡朝來村多田秋太郎妻離別ニ付獨子携帶復籍ノ義別紙ノ通願出ニ依リ取調候處右ハ未タ幼稚ニシテ養育上困難ニ付双方協議ノ上携帶復籍致度段事實止ムヲ得サルモノト認メ候條聽許候樣致度此段相伺候也

指令　（二十九年五月九日）

廢嫡ノ上携帶復籍ヲ聽許シ苦シカラス

鹿兒島縣問合　（二十九年四月一日）

第三項　非戸主ハ嗣子又ハ相續人ニシテ壯年ニ及フモ子女ナキ場合ニ限リ養子ヲ爲スヲ得ル儀ニ候處若シ嗣子又ハ相續人ニアラサル非戸主ニシテ養子貰受

ノ屆出ヲ爲シ取扱吏モ其違法ニ心付カス之ヲ受理シテ戸籍ニ登錄シタルモノヲ發見セシトキハ其養子ハ離縁ノ手續ヲ爲サシムヘキ乎將タ既ニ之ヲ公認セシ上ハ其儘差置キ苦シカラサル哉

民刑局長
警保局長　回答　（二十九年五月十二日）

第三項　養子ノ戸籍ヲ刪除シ生家ニ復籍セシムヘシ

鹿兒島縣問答　（二十九年四月一日）

第一項　本年三月十二日三第六一一號廢嫡ノ要否伺出タル旨趣ハ女子ヲ有スル戸主ニシテ養嗣子ヲ爲スニハ該女子ノ廢嫡ヲ要シ養子（何等ノ契約ナキモノ）ヲ爲スニハ之ヲ要セサル旨從來各縣ノ質義等ニ相見候處男子ハ女子ニ先ツテ相續權ヲ有スル成例ナレハ養子ト養嗣子ノ差別ナク等シク女子ノ廢嫡ヲ要セサル筋ニアラサル乎ノ疑岐ニ有之然ルニ養子ハ當然相續權ヲ有セサルニ付女子ヲ廢嫡スルヲ要セストノ御指令ニテ伺出ノ主旨タル養嗣子ヲ爲ストキ女子ノ廢嫡要否ニ付何等御指令ナキヲ以テ尙ホ疑岐決シ兼ネ候

第二項　養子ハ當然相續權ヲ有セストノ御指令ニ依レハ女子ニ相續權アルモノヽ如ク相見ヘ候得共養子入籍後ハ嫡出子ト等シク權利義務ヲ有シ且男子ハ女子ニ先ツテ相續權ヲ有スル成例ナレハ自然養子ニ推移シ女子ヲ他家ニ婚嫁セシメ又ハ養女ニ遣ハスモ其廢嫡ヲ要セサル筋ナルヤ（但本文ノ通ナルモ養子在籍ヲシテ家督相續セシメサル場合ニ於テハ其廢嫡ヲ要セサル義ニ存候）

民刑局長
警保局長　回答　（二十九年五月十二日）

第一項　女子ヲ有スル戸主養嗣子ヲ爲スニハ其女子ヲ廢嫡スルコトヲ要ス

第二項　養子ヲ爲シタル後ト雖モ相續權ハ尙ホ女子ニ存スルヲ以テ其女子ヲ他ニ婚嫁セシメ又ハ養子女ニ遣スニハ其廢嫡ヲ要ス

千葉縣照會（二十九年四月廿四日）

爰ニ幼稚ノ子女ヲ遺シテ父母失踪シ其子女ヲ養フヘキ親族ナク他人ニ於テ養子女ニ貰請ケ之ヲ養育セントスルモノアル場合ハ其家名ヲ相續スヘキモノナキトキト雖トモ許可シ差支無之哉

民刑局長回答（二十九年五月二十五日）

御問合ノ場合ニ於テハ子女ヲ他家ニ養子女ニ遣ハスコトヲ得サル義ト思考ス

東京府伺（二十九年五月十一日）

華族ノ身分異動等ニ關シ宮內大臣ノ許可ヲ受クルハ畢竟該族ニ對スル取締ニ過キスシテ戸籍面ニ登記ヲ及ホス事件ニ付テハ一般戸籍取扱例ニ依リ町村長郡區長知事ノ許可ヲ受ケシムヘキハ勿論ノ義ト相考候得共華族令第八條並第九條ノ次第モ有之候ニ付念爲一應相伺候也

內務、司法兩省指令（二十九年五月二十六日）

伺ノ通

島根縣照會（二十九年三月三十日）

第一項　士族ニシテ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ本犯一人ヲ除族シ士籍ハ家族ニ於テ襲ハシムル義ニ有之候處除籍分籍後家族襲族ヲ肯セサルモノハ出願セシメタル上平民籍ニ編入スヘキ旨明治十八年六月福島縣伺ニ對シ御省指令ノ趣モ有之候處其戸主ヨリ分籍不屆出又家族ヨリ平民籍編入願ヲ爲サヽル者ノ如キハ市町村長ニ於テ檢事ノ通知ニヨリ直ニ分籍ノ手續ヲナサシメ可然ヤ若シ戸主又ハ親族ノ屆出ニヨリ分籍スヘキ者トセハ戸籍上如何取扱フヘキヤ

第二項　士族ノ妻重罪ノ刑ニ處セラレ夫ヨリ離婚セントスルトキ家女ナラハ離婚ノ上分籍セシメ他女ナラハ生家ヘ復歸シ其生家士族ナルトキハ該家ヨリ分

籍セシムヘキ義ニ候ヤ

第三項　前項ノモノ若シ夫ヨリ離婚ヲナサヽルトキハ第一項ノ通市町村長ニ於テ直ニ分籍ノ手續ヲ爲サシムヘキヤ

但此場合ニ於テハ夫妻ノ緣ハ如何可相成ヤ

民刑局
警保局長回答（二十九年五月二十八日）

第一項　分籍屆出方及家族屆出方若クハ平民籍ニ編入願出方ヲ催告シ其申出ニ依リ處分スヘキモノナリト雖モ尙ホ催告セサルトキハ其旨ヲ本人共ニ告知シ御見込ノ通分籍取計可然

第二項　家女ハ御見込ノ通他女ニシテ生家士族ナルトキハ復歸入籍スルヲ得サルヲ以テ一戸新立シ可然

第三項　妻分籍方ハ第一項回答ノ通又夫妻ハ籍ヲ異ニスルヲ得サルヲ以テ此場合ハ離婚スヘキモノトス但離婚シ難キ事情アルモノハ夫ニ於テ平民籍編入ヲ出願シ夫妻共ニ平民籍ニ入ルハ妨ケナカルヘシト思考ス

鹿兒島縣照會（二十九年五月二十八日）

女子ヲ有スル戸主養嗣子ヲ爲ストキ該女子ノ廢嫡要否ノ儀ニ付本年四月一日三第六一一號ノ一ヲ以テ御照會致候處本月十二日司法省民刑第三七三號御回答ノ趣了承其第二項ニ依レハ養子ヲ爲シタル後ト雖モ相續權ハ尙ホ女子ニ存スル趣ニ候處本縣ニ於テハ明治二十年二月十四日新潟縣伺ニ對スル同年三月二日司法大臣御指令並明治二十三年四月二十二日岡山縣照會ニ對スル同月二十八日司法省民事局回答ニ依リ養子ハ入籍後該家ノ嫡出子ニ等シキ權利ヲ獲得シ義務ヲ有スヘキモノナレハ實男子ノ出生シタルト同シク女子ノ廢嫡ヲ爲サヽルモ自ラ相續權ヲ推移スヘキ義ト解釋シ是迄取扱來リ候ニ付既往ノ分ハ其儘擱キ將來御回答通取扱可然義ニ候哉

警保局
民刑局長回答（二十九年六月十六日）

御見込ノ通ニテ可然存候

三重縣照會（二十九年五月七日）

一茲ニ分家ノ女戸主養子ヲ貰請ケ該戸主ヲ讓リ他家ヘ婚嫁セルモノアリ右ノ場合ト雖モ養母子ノ稱呼ハ依然消滅不致義ト見込可然歟

一前項ニ反シ自然養母子ノ稱呼斷滅スルモノトセハ後事故アリ該養母離縁復籍ノ節其續柄如何相唱可申歟

民刑局長回答（二十九年六月十九日）

養母カ他家ヘ婚嫁スルトキハ養母子ノ縁ハ消滅スルニ付キ後ニ養母カ離縁復籍シタルトキハ其養母カ養祖父母ノ女ナル場合ニ限リ養伯叔母ノ續柄ヲ生シ然ラサル場合ニハ續柄ナキモノト思考ス

大藏省主税局照會（二十九年五月二十三日）

第四項　長男ノ事故ニ依リ廢嫡シ次男繼承權ヲ有シタル後長男事故止ミタルヲ以テ之ヲ復立スルニハ次男ノ廢嫡ヲ要スルヤ

第五項　戸主タル長男ヲ事故ニ依リ廢戸主シ次男幼ナルヲ以テ父再相續ヲ爲シ次男繼承權ヲ有シタル後長男事故止ミ父退隱シ長男再ヒ戸主トナル場合ニハ次男ノ廢嫡ヲ要スルヤ

民刑局長回答（二十九年六月二十九日）

第四項及第五項　次男ノ廢嫡ヲ要ス

大藏省主税局照會（二十九年五月二十三日）

第一項　子女幼少ナリトノ理由ヲ以テ戸主トナリタル寡婦ニ入夫シタル者ハ直ニ相續ヲナシ得サルヤ

第二項　成年ニ達シタル子女ト未成年ナル子女數人ヲ有スル寡婦其子女ニ先チ相續セントスルニハ總テノ子女ヲ廢嫡セサル可ラサルヤ又女子ヲ廢嫡シテ戸主トナリタル寡婦ニ入夫シタル者ハ直チニ相續ヲナシ得ヘキヤ

民刑局長回答（二十九年六月二十九日）

第一項　出願ノ上相續スルコトヲ得但廢嫡ヲ要セス

第二項　前段子女ノ成年ナル場合ニハ寡婦ニ於テ相續スルコトヲ得ス子女ノ未成年ナル場合ニ限リ寡婦ニ於テ直チニ相續スルコトヲ得後段入夫ニ於テ直チ

ニ相續スルコトヲ得

埼玉縣伺（二十九年六月二十三日）

外孫ヲ養子ト爲スコトハ總テ差支ナキ儀ニ有之候處茲ニ分家ノ際本家ヨリ携帶シタル子女ヲ其祖父ニ當ル本家戸主ニ於テ養子トナス儀ハ不相成儀ト相心得可然哉若シ之ヲ養子ト稱スルトキハ本家分家間ハ同姓聯絡スルニ拘ハラス其實父若クハ叔伯父母ニ對シ養兄弟ノ緣義ヲ生シ親族ノ階級上不都合アルノミナラス血緣上祖父ト孫トノ關係ヲ養父子ト稱スルコトハ倫理ニ戻ルノ嫌アリ就テハ嫡孫又ハ承祖孫ト稱シ入籍セシメ可然哉

内務、司法兩大臣指令（二十九年七月一日）

實孫ハ養子ト爲スヘキモノニアラス此場合ハ親族卽チ單ニ孫タルノ廉ヲ以テ入籍セシムヘキモノナリ其入籍ノ上相當相續權ヲ有スル儀ト心得ヘシ

東京府伺（二十九年六月十五日）

他人ヲ養兄姉弟妹等ノ名義ヲ以テ入籍スルヲ得サルハ去明治二十五年九月二十日當廳伺ニ對スル御指令及ヒ同年十月二十七日御省參事官回答ニ依リ明瞭ナルモ茲ニ本年四月中他府縣ニ於テ他人ヲ養弟トシテ入籍シタルモノノ當管内ノ轉籍シタルモノアリ右ハ設令入籍後ノモノト雖モ事實不都合ノモノニ付此際斷緣復籍セシムル義トハ存候得共爲念伺候

内務、司法兩大臣指令（二十九年七月四日）

見込ノ通

東京府伺（二十九年六月二十二日）

一戸主死亡跡嗣子タル養子（他ニ家族アル者）離緣復籍セントスル者アリ右ハ戸主未定中ナルモ事情止ムヲ得サルモノニ限リ養實親族連署出願候ハハ聽許シ不苦哉

内務、司法兩大臣指令

第一項　戸主未定中其養嗣子ハ離緣復籍スルコトヲ得ス

滋賀縣伺（二十九年七月七日）

第一條　玆ニ男女數名ヲ有スル戸主アリ其二男分家又ハ他家養子トナリタル後長男死亡シ相續權三男ニ移轉セル場合ニ於テ二男復歸セシニ依リ更ニ其二男ニ相續セシメントスルトキハ三男嗣子ノ廢嫡ヲ要スヘキモノト思考致候得共三男モ亦死亡シ女子ノミ存在スルカ又ハ男子アルモ庶子ナル場合ニ於テ二男復歸シ相續セントスルトキハ此二男タル素ト廢嫡ノ上送籍セシモノニ非サルニ付生家ヘ復歸セシ以上ハ嫡男ノ出生シタルモノト同樣女子及庶子ニ先タチ相續權ヲ有スヘキヤ又ハ復歸セシ二男ハ曩ニ廢嫡セシト否トニ拘ハラス復歸以前己ニ生家ノ相續權ヲ有スル女子又ハ庶子ヲ廢嫡スルニ非サレハ相續難相成筋ニ有之候哉

第二條　子女ヲ有スルモノ妻携帶分家ノ後一男子ヲ擧ケ尋テ本家ヨリ實長男ヲ引取リ入籍セシメタル場合ニ於ケル相續權等ノ義ニ付明治二十年十月三日付庶第二〇八一號ヲ以テ貴省竝內務省ヘ相伺候處別ニ事故アルニ非サレハ其相續權ハ實家ヨリ引取リタル子女ニ屬スル旨御指令相成候然ルニ其後明治二十四年十一月中京都府ヨリ貴省竝內務省ヘ長女携帶分家ノ後本家相續者タル長男ヲ引取（本家ヲ廢シ）入籍セシメタルトキハ其分家ノ相續權ハ長男女何レニアルヤノ旨伺ヒタルニ長男ハ更ニ嗣子ニ定ムルニ非サレハ分家ノ子女ニ先チ相續權ヲ有セサル旨御指令相成候趣ニテ前記本縣ヘノ御指令ト牴致觸候モ右ハ京都府ヘ御指令ノ通改正相成リタル義ニ有之候哉

指令（二十九年七月三十一日）

第一條　後段見込ノ通

第二條　見込ノ通

秋田縣伺（二十九年七月二十七日）

一長男事故アリ廢嫡シ相續權二男ニ移リタルモノ事故解除ニ依リ長男ヲ繼嗣ニ復立セントスル場合ニハ二男ノ廢嫡ヲモ爲スヲ要スルヤ

內務司法兩大臣指令（二十九年八月六日）

第二項　見込ノ通

東京府伺（二十九年七月十三日）

幼者ノ家ヲ廢スル件ニ付テハ兼テ御指令ノ次第モ有之候處若シ幼者ニ對スル親族一名ノ外無之場合ニ於テハ其一名ノ親族ノミニテ出願候モ事情止ムヲ得サルモノト認ムルトキハ聽許シ不苦哉

内務司法兩大臣指令（二十九年八月十日）

見込ノ通

靜岡縣照會（二十九年六月三十日）

第一項　戸主並ニ家族一家擧テ失踪ノ家アリ幾年ヲ經ルモ他人ヲシテ該家ヲ相續戸主タラシムルヲ得サル義ナルヤ

第二項　前項戸主滿八十歳トナリ戸籍ヲ削除シタル場合ト雖モ該家族ノ所在分明ナラサル限リハ他人ヲシテ相續戸主タラシムルヲ得サル義ニ候ヤ

第三項　前二項親族協議ノ上ハ他人ヲシテ相續セシムルモ差支ナシトセハ屆出ニテ不苦候ヤ又ハ出願許可ヲ要スル義ナルヤ

民刑局長回答（二十九年八月十日）

第一項　戸主死去ノ證ヲ得ス親族協議ノ上願出ツルニ於テハ他人ヲシテ相續戸主タラシムルコトヲ得

第二項　他人ヲシテ相續戸主タラシムルコトヲ得

第三項　後段貴見ノ通

島根縣照會（二十九年七月二十八日）

二　男子ナキ戸主養子（嗣子ト定メス）セシ後長男出生スルトキ家督相續權ノ義ニ付明治二十年二月二十四日新潟縣伺ニ對シ同年三月二日御省指令ノ趣ニヨレハ男子ナキ戸主ノ養子ハ嗣子ニ定メサルモ別段ノ契約アルニアラサレハ自ラ嗣子ノ地位ニ在ルモノナルヲ以テ後ニ實子出生スルモ直チニ實子ヲ以テ嗣子トナスヲ得サル義ニ有之然ルニ本年二月十二日鹿兒島縣知事伺御省指令ニヨレハ子女ヲ有スル戸主ニシテ嗣子ニアラサル養子ヲ爲ス場合ニハ其養子ハ當然相續權ナキニ付女子ノ廢嫡ヲ要セサル義ニ候處右ハ同縣指令ノ如ク單ニ養子ニ貰受ケタルモノニシテ他ニ男女子ナキモノト雖モ該養子ハ相續權ナキモノト心得可然哉

三　男女子數人アル戸主死亡後一家經營ノ都合ニ依リ其長男ヲ廢嫡セス一時遺妻ニ於テ相續方ノ件ニ付本年二月十五日靜岡縣知事ノ照會ニ對シ同年三月九日貴局長回答ノ旨モ有之候處右ハ獨リ遺妻ニ限ラス祖父母又ハ伯叔父母一等ニ於テ一時相續スルトキト雖モ同樣ト心得可然哉

民刑局長回答（二十九年八月十八日）

第二項　鹿兒島縣知事伺ニ對スル指令ノ場合ニ於テハ家ニ子女アルニ付キ養子ハ當然相續權ヲ有セサルモ家ニ子女ナキ場合ニ於テハ養子ハ自ラ嗣子ノ地位ニ在ルモノトス

第三項　遺妻又ハ祖父母ハ一時相續スルコトヲ得ルモ伯叔父母等ハ一時相續スルコトヲ得ス

鳥取縣照會（二十九年八月六日）

玆ニ他ヨリ嫁シタル婦女アリ然ルニ該婦女夫家ニ入籍以前ニ擧ケタル私生子ニシテ出產屆漏ノ者アルヲ發顯セリ右ハ母ノ實家ヘ編入セシムヘキ筋ト存候處若シ其母ノ實家廢絕ノ場合ニ在テハ如何可取扱哉

民刑局長
警保局長　回答（二十九年八月二十七日）

右ハ母ノ現在ノ夫ニ於テ出生屆書ニ連署ヲ爲ス等ノ方法ニ依リ私生子ノ入籍ヲ承諾スル意思ヲ表示シタルトキハ直チニ夫家ノ戸籍ニ編入シ差支ナカルヘシ又若シ現在ノ夫ニ於テ該入籍ヲ承諾セサルトキハ母ノ生家ヲ再興シテ入籍セシメ

可然義ト思考致候

德島縣問合（二十九年八月十三日）

男女私通シ子女ヲ擧ケタル後正婚シ其私通間ニ擧ケタル子女ヲ男子已ノ子ト認メ之ヲ引取ラントスルモノハ一旦庶子トシテ父籍ニ引取リ更ニ嫡出子ニシテ屆出シムヘキ義トハ存候得共或ハ直チニ嫡出子トシテ男子ノ籍ニ引取ルコトヲ得ヘキ義ニモ候哉

民刑局
警保局　長回答（二十九年九月四日）

右ハ明治六年第二十一號布告但書ニ依リ市町村長ノ認可ヲ經直チニ嫡出子トシテ入籍スルコトヲ得ヘキ義ト思考ス

靜岡地方裁判所問合（二十九年九月十二日）

第一條　單身戸主死亡跡相續者無之者ノ遺留財産地所家屋ノ義ハ明治二十年十二月五日司法省民第一三九八號通牒長崎縣知事請訓第三條ノ御指令ニ依レハ成規ノ期限即五ヶ年經過ノ上官設ノ處分可相成旨趣ニ相見候處其後該財産ハ官設ノ處分ニ不相成親族ノ協議ニ任スヘキ旨御指令相成候歟ニ傳承致シ候右ハ現今何レニ御處分相成居候義ニ候哉

第二條　前條ノ財産官沒ヲ爲サヽル事ニ相成候ハヽ六ヶ月相立該家已ニ絶家ニ歸シタル上ハ五ヶ年ヲ待タス其親族等ヨリ分配賣却其他ノ處分ニ關シ出願ヲ爲スニ當リ裁判所ハ認否ノ處分ヲ爲シ可然ヤ

民刑局長回答（二十九年九月十五日）

親族ニ於テ遺留財産ヲ保管セス町村長ニ於テ之ヲ保管スル場合ハ明治二十年十二月五日當省民第一三九八號通牒長崎縣知事請訓第三條ニ對スル指令ノ通五年經過ノ後官ニ沒收スヘキモノナルモ親族ニ於テ遺留財産ヲ保管スル場合ニハ滿五年經過ノ後地方裁判所ノ認許ヲ受ケス親族ノ協議ニ從ヒ之ヲ處分セシムルコトニ決定相成居候

大分縣伺（二十九年九月十六日）

縣下直入郡入田村堀松見（明治二十三年十月生）幼少且ツ生來病弱ニシテ一家ノ生計難相營趣ヲ以テ退隱ノ上同籍內ナル姉ノ配偶者音次郎（明治元年正月生）ニ家督相續爲致度親族協議ノ上出願ノ次第モ有之候處右ハ殊更幼戶主退隱セサルモ家族ニ相當ノ保護者ナキニアラス卽チ實母タス及姉夫音次郎ノ在ルアリ之カ後見人タル以上ハ家政ノ整理上敢テ差支モ有之間敷依テ是等ノ願ハ總テ聽許セサル見込ニ候得共未タ類例モ無之義ニ付別紙戶籍寫相添爲念此段相伺候也

指令

戶主退隱跡相續ノ件ハ出願ノ通事情止ムヲ得サルモノナルニ於テハ聽許シ苦シカラス

東京府照會（二十九年九月十八日）

府下小石川區小日向水道端二丁目七番地亡原田タツ養嗣子鶴吉郎家督相續屆ニ對シ同家親族ノ者ヨリ故障申立タルヲ以テ當時爭議ニ涉ルモノト認メ該屆書受理不致候處今般双方ヨリ別紙ノ通申出候ニ付テハ設令其爭點ハ相續ニアラスシテ緣組ノ解消ニ在リト雖モ其緣組解消ノ上ハ從テ相續權ヲ先ツハ勿論ナルヲ以テ未タ爭議ノ盡キサルモノトシ受理セサル方相當ト存候得共一應御意見承知致度候（別紙關係書類略ス）

民刑局長回答（二十九年十月八日）

右ハ御意見ノ通取扱ヒ可然義ト思考致候

福岡縣伺（二十九年九月二十一日）

第一項　妻子携帶養子トナル者妻子ハ携帶者送入籍ノ部ニ登記シ可然哉

第二項　前項入籍ヲ終ヘタル時ハ妻ハ（婦）ト額書シ（養子某妻）ト肩書シ子ハ（養子携帶子）ト額書シテ肩書ヲ記セス夫（又ハ父）ニ從ヒ入籍ノ事項及年月日ハ共ニ事項欄ニ記載シ可然ヤ

第三項　前記養子戶主トナリタル時ハ妻子ノ事項欄元ノ如ク額書妻ハ（妻）ト記シ子ハ（携帶子）ト記入シ可然ヤ

第四項　前記ノ養子入籍後男子ヲ擧ケタルトキハ長男ト額書シ養家相續ノ權利該長男ニ在リト心得可然ヤ

第五項　若シ又妻子ヲ携帶スルニアラズシテ妻子ト共ニ貰受ケラルヽコトアリトスレハ養父ト其妻子ノ繼拇稱呼如何又妻子ト共ニ貰受ケラレタル養子ニシテ離緣セラルヽ場合其養子ニ於テ離婚ヲ承諾セサルモ尙願出ツルニアラサレハ妻携帶復籍スルヲ得サル義ニ候ヤ果シテ然ラハ養子ノ離緣ハ養子ト其妻トノ離婚ヲモ包含スヘキモノニアラサレハ該養子ニ於テ出願セサル以上ハ夫妻籍ヲ異ニスルノ結果ヲ生スヘク此場合ハ如何處分シ可然ヤ

（内務司法兩大臣指令　（二十九年十月十五日）

第一項、第四項　意見ノ通

第二項　妻ハ婦ト額書シ養子名妻ト肩書スヘク子ハ養子携帶ト額書シ養子名幾男女ト肩書スヘシ

第三項　意見ノ通但子ハ携帶幾男女ト記スヘシ

第五項　前段妻ヲ養女、子ヲ養孫ト稱ス後段養子夫婦ヲ離緣シ若クハ協議離婚ニ因リ養子ノミ離緣スルモ妨ケナシ但此場合ハ出願ヲ要セス

福岡地方裁判所問合　（二十九年九月三十日）

失踪又ハ死亡跡遺留財産ヲ其親族ニ於テ保管スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ協議ヲ以テ賣却交換若クハ質入書入等ヲ爲サントスルトキ不動産ニ付テハ目今都テ管轄始審裁判所ノ認許ヲ受ク可キ旨明治二十一年七月十四日本省第十號ヲ以テ訓令相成居候該訓令ニ付左ノ條項疑問有之候

一　親族ニ於テ遺留財産ヲ保管シ滿五年以上經過シタル場合ト雖モ賣却交換及質入等ヲ爲ストキハ矢張リ裁判所長ノ認許ヲ受ク可キ筋ニ候ヤ又ハ五年以上經過シタル場合ハ認許ヲ受ケス親族協議ノ上之ヲ專行シ得ヘキ筋ニ候ヤ

二　單身戸主死亡シ相續者無之其遺留ノ地所親族保管中其保管難行屆候趣ヲ以テ親族中ノ一名ニ於テ死者墓地ノ營繕及年忌追善等ヲ爲スコトトシ之レニ該地所ヲ讓與致度旨親族協議連署ヲ以テ認許ヲ請フモノ有之右ハ該訓令ニ依リ認許ヲ與フ可キ筋ニ候ヤ

三　單身戸主死亡シ絕家遺留ノ不動産ニ對シ最近ノ血脈ヲ有スル親族ニ於テ該不動産卽チ其遺産ノミ相續致度趣ヲ以テ親族協議連署認許ヲ請フ者有之是

亦該訓令ニ基キ認許ヲ與フヘキ筋ニ候ヤ

民刑局長回答

第一項　死亡又ハ除籍ノ時ヨリ滿五年ヲ經過セシトキハ後段貴見ノ通

第二項第三項　死亡又ハ除籍ノ時ヨリ滿五年經過セサル間ハ認許ヲ與フルコトヲ得ス

高知縣伺（二十九年十月二日）

廢嫡手續ノ件ニ關シ本年四月十七日付ヲ以テ東京府知事ヨリ伺出司法省民刑第四〇九號ヲ以テ御裁令ノ次第モ有之候處長男ヲ廢嫡ノ際四男ヲ嗣子ニ定メス單ニ長男ノ廢嫡ノミニ留メ置キタル時ハ二男ハ繼承權ヲ有スヘキニ付二男ヲ廢嫡スルニアラサレハ四男ニ相續セシメントスルモ不得止義ト心得可然哉

内務司法　兩大臣指令（二十九年十月十九日）

意見ノ通

鹿兒島縣問合（二十九年十月五日）

養子女ヲ有スル戸主退隱シテ養子家督シタル後其養姓ヲ離緣シテ實家ヘ復籍セシメ更ニ現戸主ノ養女トナスハ差支ナキヤ將タ一旦養兄弟トナリシモノニ付血緣ナキモ不相成筋ニ候哉

民刑局長　警保局長　回答（二十九年十月二十日）

右ハ前段御意見ノ通

滋賀縣問合（内務省へ合議）（二十九年十月十日）

一　相續順位ニアラサルモノニシテ死跡相續ヲ爲サントスルトキハ總テ親族ノ協議ヲ要スルハ勿論ナルモ其相續順位ニアルモノト雖モ死跡相續ヲ爲スノ場合ニ在リテハ從來ノ慣例ニ依リ其屆書ニ親族連署ヲ爲サシムル向有之候ニ付死跡相續ノ場合ニ限リテハ相續順位ニアルモノト否トヲ問ハス總テ親族連署ヲ爲サシムル方可然樣存候得共元來相續者タルノ順位ニアルモノハ戸主死亡セシトキハ其家名ヲ繼承スルハ當然ナルヲ以テ丁年以上ノモノヽ

家名相續屆書ニハ親族連署ヲ要セサルモノニ有之候哉右果シテ然ルモノトスルトキハ戸主死亡シ養嗣子ニ於テ其死跡相續ヲ爲サントスルニ當リ其相續上ニ關シ養母其他ノ親族ニ於テ異議申唱ヘ候トモ養嗣子ヨリ差出シタル相續屆書ハ其儘受理シ養母等ニ於テ其養嗣子ノ相續ニ不服アルトキハ別ニ之ヲ司法法衙ニ訴フルカ又ハ其養嗣子カ禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ若クハ放蕩無賴ニシテ一家ノ生計ヲ營ム能ハサルモノトスルトキ廢戸主ノ義ヲ行政廳ニ出願許可ヲ受クルノ外養嗣子ノ相續ヲ差止ムルノ途無之モノニ有之候哉

民刑局長回答（二十九年十一月五日）

第一項　相續順位ニ在ル丁年以上ノ者カ相續ヲ爲ス場合ニ於テモ其屆書ニハ親族ノ連署ヲ要ス

滋賀縣問合（内務省ヘ合議）（二十九年十月十日）

二　戸主死亡シ子女ナク兄妹ノミアル場合ニ在テハ兄妹ト順次相續權ヲ有スヘキ筈ノ處明治二十一年四月十八日福井縣ヨリ貴省民事局長及内務省戸籍課長ヘ戸藉取扱上ノ件ニ付問合中其第三項ニ妻及弟一人ヲ有スル戸主死亡セシトキハ弟ニ相續セシムヘキ筈ナルモ寡婦ニ遺胎ノ徵アルトキハ弟ノ相續ヲ差止ムヘキカ又ハ出生以前ニ付弟相續權ヲ有スルモノナルヤトアルニ對シ同年五月十七日親族ノ協議ニ任スヘキモノトスト回答相成候趣ニ有之就テハ右福井縣問合ノ如キ場合ニ在テハ當然弟ニ相續權ナキモノニ有之候哉

民刑局長回答（二十九年十一月九日）

第二項　弟ニ相續權ナキニ非サルモ寡婦ニ遺胎ノ徵アル場合ニ於テハ親族ノ協議ニ任ス方相當トス

福島縣伺（二十九年十月三十一日）

單ニ婚姻ノ目的ヲ以テ入籍シタル叔伯母ノ夫又ハ姉妹夫等ニシテ其叔伯母又ハ姉妹等死亡セシトキハ其夫ヘ更ニ他ヨリ配偶者ヲ貰受クルコトヲ得サル筋ニ可有之哉

指令（二十九年十一月十一日）

戸主ノ承諾アルニ於テハ更ニ配偶者ヲ貰受クルコトヲ得ル義ト心得ヘシ

鹿兒島縣問合（二十九年七月二十九日）

一　戸主甲ナル者乙ナル妻ヲ迎ヘタルニ乙ニハ丙ナル女子アルヲ以テ其入籍ト共ニ之ヲ養女トナシ其後又丁ナル男子ヲ養子ト爲シタル者アリ此場合ニ於テハ丙ハ丁ニ先ツテ入籍セシ者ナリト雖モ等シク養子ナレハ男子タル丁ニ於テ相續權ヲ有スル義ナルヤ

一　戸主未定中他ヨリ入籍ノ義ハ不相成旨各縣ヘ御指令ノ趣散見候處家族中家名ヲ相續シ能ハサル事情アリ他ヨリ入夫又ハ養子ヲ迎ヘ直チニ家名ヲ相續セシメサルヲ得サル至重ノ事由アリテ親族協議ノ上連署ヲ以テ入籍ノ義出願スル者ニ在テハ特ニ許可スルモ差支ナキ筋ナルヤ

一　前項若シ入籍不相成トスレハ甲ナル者乙(嫁)ニ入夫トナリ家名相續一子ヲ擧ケタル後離籍一旦生家ヘ復歸シ其跡戸主未定中更ニ乙ト再婚家督相續セシメ度旨當人及双方親族連署ヲ以テ願出ツル者ハ前項ト其趣ヲ異ニスルヲ以テ聽許不差支義ニ候哉

民刑局長
警保局長　回答（二十九年十一月十二日）

第一項　相續權ハ丙ニ在ルモノトス

第二項、第三項　入籍ヲ聽許シ差支ナシ

靜岡縣照會（二十九年十一月十三日）

長男(戸主)疾病其他ノ事故ニ依リ退隱シ其父再相續シタル場合ニ於テハ前戸主(長男)事故止ミ又ハ病氣平癒スルモ獨子ニアラサル限リハ該家相續權ナキモノトシ他家養子又ハ相續人ニ送籍シ又之ニ反シテ戸主(父)事故ニテ退隱長男戸主トナリタル後チ父(隱居)事故解ケタルヲ以テ再相續シ長男(戸主)退隱シタル場合ハ獨子ト否トニ關セス該家ノ相續權ハ依然右長男ニ有スル旨內務省ヘ經伺ノ上處分シ來リ候處明治二十四年四月七日大阪府ヨリ御省ヘ伺ニ對シ右兩件共該長男(退隱戸主)ハ更ニ嗣子ト定ムルニアラサレハ該家ノ相續權ナキ旨御指令相成居候趣傳承致候

右果シテ事實ニ候ハヽ右ニ依リ取扱フヘキ筋ニ候哉

民刑局長回答（二十九年十一月十九日）

退隱シタル長男ハ更ニ嗣子ニ定ムルニ非サレハ相續權ナキモノトス但長男ノ外他ニ家族ナキ場合ハ此限ニ在ラサル義ト思考致候

福島縣照會（二十九年十月三十一日）

失踪逃亡者ノ遺留財産ハ親族アルモノハ親族ニ於テ保管スル例ニ有之候處親族ニ於テ保管ヲ肯セサルカ若クハ親族ヨリ保管方町村長ニ保管ヲ請フ場合ハ町村長ニ於テ之ヲ保管シ其處分方ハ總テ親族ナキモノヽ遺産ト同一ニ取扱ヒ可然ヤ

民刑局長回答（二十九年十一月十九日）

右ハ親族ニ於テ保管スルコトヲ肯セサル場合ニ限リ町村長ニ於テ保管ヲ爲シ不動産ノ處分ニ付テハ明治二十一年當省訓令第十號及ヒ第十七號ニ依リ裁判所ノ認許ヲ受クヘキ義ニ有之候

京都府問合（內務省へ合議）（二十九年十月十四日）

第一項　幼年戶主退身スル場合其多クハ尊族親等ノ意思ニ據ルモノニ候右ハ幼者保護ノ爲メニ出願許可ヲ要スヘキヤ

民刑局長警保局長回答（二十九年十一月二十一日）

第一項　出願許可ヲ要ス

京都府問合（二十九年十一月十四日）

第二項　戶主タル兄姉死亡ノ場合ニ於テハ其弟妹ニ相續權歸スル旨去ル二十四年十一月當府伺ヘ御指令相成候處若其弟妹ナシテ相續セシメサル場合ニハ矢張廢嫡ノ手續ヲ要スヘキヤ又ハ去ル二十一年二月鳥取縣伺御指令ニ依リ其義ニ不及候ヤ

第三項　戶主アリ嗣子長男ナシテ相續セシメントス然ルニ該長男目下失踪中次男ナシテ相續セシメントセハ長男ハ己ノ權利ヲ抛棄シタルモノトシテ廢嫡セサルモ不苦ヤ

民刑局
警保局　回答　（二十九年十一月二十一日）

第二項　前段御見込ノ通

第三項　長男ノ失踪後十ケ月ヲ經過セシトキハ之ヲ廢嫡セシ上次男相續ヲ爲スコトヲ得

静岡縣照會　（二十九年十一月二十六日）

未丁年家族ノ所有財産ハ該家ノ戸主ニ於テ管理スヘキ筋ナルヤ又ハ該家在籍ノ父母ニ於テ管理スヘキ筋ナリトセハ該父母ナキモノハ何人ニ於テ管理スヘキ筋ナルヤ

民刑局長回答　（二十九年十二月三日）

前段御見込ノ通

大阪府伺　（二十九年十月十日）

第一條　明治六年第二十八號布告ニ依レハ嗣子ノ順位ハ男子ト女子トアルトキハ男子又男子數人アルトキハ其先ニ生レタル者ナルハ論ヲ俟タサル義ニシテ此原則ハ長男死亡又ハ廢嫡ノ場合嫡孫（長男ノ子）ナク二男以下數男女子アルトキニモ亦之ヲ適用スヘキモノニシテ若シ其順序ヲ越ヘ四男ヲ以テ嗣子ト爲サントスルトキハ二男三男共ニ廢嫡ノ手續ヲ踐マサルヲ得サルモノトシテ取扱來リ候ノミナラス明治二十年三月三十一日附島根縣照會ニ對スル同年四月二十一日附司法省民事局ノ御回答ニ參照スルモ右ニ同一ノ主義ト存候處本年四月十七日東京府ヨリ「男子數人ヲ有スル戸主退隱ノ後家事上ノ都合ニ依リ長二三男ニ相續セシメス四男ヲ以テ相續セシメントスルトキハ單ニ嗣子タル長男ノミ廢嫡致シ可然義ト存候」旨伺出タルニ對シ即日司法省ヨリ「見込ノ通」ト御指令相成候趣ニ據レハ二男以下年齡長少ノ順序ニ拘ラス家事ノ都合ニ由リテハ男女何レニ相續セシムルモ長男ノミ廢嫡シ可然義ニ候得共右ニテハ該布告ノ精神ニ抵觸スル樣考ヘラレ彼是疑義ニ渉リ候如何心得可然哉

第二條　明治二十二年四月二十日愛知縣照會ニ對スル同月二十四日附警保局戸籍課長ノ回答ニ依レハ長男廢嫡又ハ死亡ニ由リ二男嗣子トアルハ相續法ニ依

リ自然相定マル義ニ付屆出ニ及ハサル例ニ有之此例ニ依ルトキハ長男廢嫡又ハ死亡ノトキ二男家ニ在ラサレハ三男ニ於テ其相續權ヲ有スルハ當然ノ順序ニシテ別ニ嗣子ト定ムル屆出ヲ爲スヘキモノニ無之ニ付若シ其後他ヨリ復籍シタル二男ヲ以テ嗣子ト爲サントスルトキハ其既ニ相續權ヲ得タル三男ノ廢嫡ヲ要スルモノト存候處明治二十四年十月二十四日宮崎縣ヨリ「男女子數名ヲ有スル戸主アリ其二男分家又ハ他家ノ養子ト爲リタル後長男死亡シ相續權ハ三男ニ移轉セリ然ルニ二男復籍シタルニ依リ其嗣子ト爲サントスルトキハ相續權ヲ有スル三男ハ勿論其他ノ男女子ハ總テ廢嫡ヲ要スヘキ筋ニ候ヤ」ー伺出タルニ對シ司法內務兩省ヨリ同年十一月廿四日附ヲ以テ「嗣子ト定メタルモノノミ廢嫡スヘシ」ト御指令相成候趣然ルニ右長男死亡ノ場合ニ於テハ前段陳述ノ通リ特ニ嗣子ト定ムヘキモノニ無之ト存候ニ付該御指令中「嗣子ト定メタルモノ」トハ法ニ依リ自然嗣子ト爲リタルモノヲ御指示相成タル義ト心得可然哉

第三條　長二男及長女ヲ有スル戸主アリ二男他ヘ送籍シ長男死亡スルトキハ長女ハ自然繼承權ヲ有スルモノニシテ爾後二男他ヨリ復籍スルトキハ該繼承權ハ男系ノ故ヲ以テ自然其二男ニ移轉スヘキハ勿論ナルモ二男ノ復籍カ戸主卽チ父ノ死亡後ニ係ルトキト雖モ同樣ト相心得可然ヤ

內務司法大臣指令（二十九年十二月十一日）

第一條　男女子數人アル場合ニ於テ長次三男ニ相續ヲ爲サシメス四男ヲシテ相續セシメントスルニハ長二三男共廢嫡スルコトヲ要ス（本條ハ先例ヲ改正セシニ付キ通牒アリ）

第二條　嗣子ト定メタル者トハ嗣子トシテ屆出テタル者ヲ云フ但屆出ヲ爲サヽルモ當然相續權ヲ得タル三男ニ先チ復籍シタル次男ニ於テ相續ヲ爲サントスルニハ三男ヲ廢嫡スルコトヲ要ス

第三條　見込ノ通

大阪府伺（二十九年十月十日）

第四條　妻妾ニ非サル婦女ノ分娩シタル私生子ハ一旦婦女ノ籍ニ編入シ而後男子已ノ子ト認ムルトキハ婦女住所ノ市町村長ノ免許ヲ受ケ庶子ニ入籍スヘキ筈ニ候得共既ニ其婦女ヲ妻ニ娶リタル後其妻ノ私生子ヲ已ノ子ト認ムル場合

ハ該生母タル婦女ノ住所ハ夫在籍地ニ轉シタルヲ以テ同地ノ市町村長ニ請フテ其免許ヲ受ケ直チニ嫡出子ニ入籍ノ手續ヲ爲サシメ來リ候處某縣ニ於テハ父母既ニ籍ヲ同フスル場合ニ在テモ母ノ生家ノ市町村長ニ請ヒ一旦庶子ト爲スニ非サレハ直チニ嫡出子ニ入籍スルヲ得サル旨照會致來候向有之然ルニ父母正婚後直チニ嫡出子ニ入籍スルヲ得ヘキハ民法人事編第六章第三節ノ規定ニ參考スルモ亦明瞭ナル義ニ候要スルニ市町村長ノ免許ヲ受クルハ單ニ父タリ子タルノ分限ヲ確定スルニ止マルモノニシテ其免許ヲ受クルト同時ニ其嫡出子タルト庶子タルトハ父母同籍ニ在ルト否トニ依リ自然相定マル義ト存候得共其ノ免許ハ妻ノ生家ノ在籍地（私生子在籍地）ノ市町村長ニ請フヘキ筋ナルヤ又ハ妻在籍地ノ市町村長ニ請フヘキ義ニ候ヤ

（内務司法）大臣指令（二十九年十二月十一日）

第四條　前段見込ノ通

福岡縣伺（二十九年十月二十九日）

第一項　私生子引受ノ儀ニ付テハ明治六年布告第二十一號但書ノ趣モ有之且ツ事實上其父ノ外他人ハ決シテ何人ノ私生子タルヤヲ認知シ得サルヘク從テ其引受ヲナスニ當リテヤ必ス該私生子ノ父タルモノヨリ私生子在籍（卽母ノ原籍）地ノ市町村長ニ出願其認許ヲ得セシムヘキ義ト心得可然ヤ

第二項　前項意見ノ通リナレハ玆ニ甲ノ長男乙アリ丙女ト結婚其式ヲ擧ケ又社會ニ於テモ之ヲ夫婦ト認メルニ足ル事實アルモ丙ノ送籍未濟從テ戸籍上ニ於テハ夫婦ト認ムルヲ得ス然レトモ乙丙ノ婚儀ヲ擧ケタルハ既往數年ノ前ニ在リテ既ニ丁戊ノ二子ヲ擧ケ成規ニ從ヒ丙ノ籍ニ就籍セシメ其丙ノ入籍ヲ終ヘ二子ノ中ニ先ツ戊ヲ引受ケ嫡出ノ手續ヲ了シ乙男死亡シタリ然ルニ其後丙女ノ實家ニアル殘リ一人卽チ丁ヲ甲ニ於テ引受ケ嫡出屆出テ戸籍上登記公認シタルモノアル場合ニ於テハ其登記ヲ取消可然哉

第三項　前項引用例戊ノ引受及嫡出屆ヲ單ニ甲ヨリ差出シ戊ノ父卽乙男生存中ナルニ係ハラス乙男ノ連署ナク其意志如何ヲ見ルニ足ラサルモノハ假令戸籍上登記ヲ了シタルモ之ヲ適法ト認メ前項同樣登記取消ヲ命シ可然ヤ

内務司法大臣指令

第一項　伺ノ通

第二項　生前已ノ子ト認メタル證據アラサルモノハ伺ノ通

第三項　其意志ニアラサリシコトヲ認ムヘキ證據アル場合ノ外登記取消ヲ命スルヲ得ス

福島縣伺　（二十九年十一月三十一日）

全戸失踪ノ場合ニ於テハ親族又ハ近隣ヨリ届出シムヘキ例ニ有之候處若シ親族無之近隣ノ者届出ヲ肯セサルトキハ届出ニ依ラスシテ町村長限リ戸籍ニ登記シ苦シカラサル筋ニ候ヤ

内務司法大臣指令

無届ニテ本籍地ヲ去リタル者其所在ノ申告ヲ爲ササルコト二十四箇月以外ニ及ヒタル時ハ伺ノ通取扱ハセ苦シカラス

山形縣伺　（二十九年十二月二日）

玆ニ長二三四男ヲ有スル戸主アリ然ルニ四男ヲシテ相續セシムル場合ハ從來順次廢嫡ノ義出願爲致候處右ハ長男ノミ廢嫡シ其他二三男ハ直接相續ニ關係ナキヲ以テ別段廢嫡セサルモ差支無之ヤ

指令　（二十九年十二月十七日）

四男ヲシテ相續セシメントスル場合ニ於テハ長二三男其廢嫡スルコトヲ要スル儀ト心得ヘシ

宮城縣照會　（二十九年十一月十九日）

明治二十四年十一月二十五日京都府伺第一項戸主ナル兄又ハ姉死亡ノ場合其相續權ハ妹ニ歸スヘキ旨御省及内務省ノ御指令有之候處亡戸主ニ對シ血統最近ノ者ヲシテ相續セシムルハ繼承ノ順序ニ有之モ素ヨリ妹ハ當然相續權ヲ有スル者ニ無之ニ付親族協議ノ上妹アル戸主ノ死跡姪ニ繼承セシムルモ廢嫡ノ手續ヲ履行スルノ必要無之樣認メラレ候得共適例モ見ヘサルニ付取扱上差支候間何分ノ

御報相成度候又幼戸主ノ後見ヲ家族タル從弟ニ爲サシメントスルモノ有之然ルニ從來ノ伺定ニ徵スレハ家族ノ後見ハ父母及祖父母（母及祖母ハ夫ナキ場合ニ限ル事ニ相成居候得共丁年以上ノモノニシテ親戚ニ於テモ適任者タルヲ認メ屆出テタル上ハ敢テ之ヲ拒ムヘキモノニ無之筋ト存候得共別段右ニ付テハ例規モ無之ニ付一應御問合候

民刑局長回答（二十九年十二月二十一日）

妹アル戸主ノ死跡ヲ姪ニ相續セシメントスルニハ妹ノ廢嫡ヲ要シ又女子ハ祖母又ハ母ニ限リ後見人タルコトヲ認ムルノ慣例ナルモ男子ニ付テハ制限ナキニ依リ從弟ハ後見人ト爲ルヱ差支ナキモノト思考致候

秋田縣照會（二十九年十一月九日）

本年七月二十七日付秋發甲第三二五號ヲ以テ男子數名ヲ有スル戸主家事上等ノ都合ニ依リ長二男ニ家名ヲ相續セシメスシテ三男以下ヲ以テ相續セシメントスルトキハ單ニ嗣子タル長男ノミ廢嫡スヘキヤトノ伺ニ對シ見込ノ通ト本年八月十一日付ヲ以テ指令相成候處右ハ實子女ニ相續セシメスシテ養子或ハ甥等ヲ以テ相續セシメントスルトキモ此例ニ準シ單ニ嗣子タル長男ノミノ廢嫡ニテ可然義ニ候ヤ將タ實子女中ニ相續セシメスシテ他ノ者ニ相續セシムル場合ハ實子女悉皆ノ廢嫡ヲ要スルモノニ候ヤ

民刑局長
警保局長　回答（二十九年十二月二十五日）

男子數名ヲ有スル戸主長二男ニ家名ヲ相續セシメスシテ三男以下ニ相續セシメントスル場合ニハ長二男共廢嫡スルコトヲ要スルニ付キ（本年十二月十一日民刑局第七二七號通牒參照）實子女ニ相續セシメスシテ養子又ハ甥等ニ相續セシメントスル場合ニ於テハ實子女悉皆ノ廢嫡ヲ要スルハ勿論ノ儀ト思考致候

山口縣伺（二十九年十一月二十六日）

一　茲ニ丁年以上ノ長二男ヲ有スル戸主アリ死亡セリ長男ニ於テ當然家督ヲ相續スヘキ筈ナルモ不得已事故アリテ其跡ヲ相續スルヲ欲セサルニヨリ弟ヲシテ相續セシメントスルトキハ親族協議ヲ以テ長男廢嫡ノ取計ヲナサシメ

可然ヤ

指令（二十九年十二月二十八日）

見込ノ通

島根縣照會（二十九年十二月十日）

戸籍取扱方ニ付本年七月坤第一一四九號照會ニ對シ同年八月民刑第六一九號御回答ノ趣モ有之候處右第一項御回答ノ趣ニヨレハ嗣子タル長男ヲ廢嫡シ二男三男ハ其手續ヲ爲スニ及ハサル義ニ有之右ハ長男ヲ廢嫡スルモ當然次男ニ於テ相續權ヲ有セス隨テ三男ニモ其權ナキニ依リ廢嫡ヲ要セサル義ニ候ヤ果シテ然ラハ左記事項ニヨリ相續スル場合ト雖モ嗣子タル長男ノミヲ廢嫡シ他ハ何レモ其手續ニ及ハサル義ト被存候處如何哉

第一　長二男及長二女ヲ有スル戸主退隱二女ニ相續セシムルトキ

第二　同シク戸主ニシテ長女又ハ二女ニ聟養子ヲ迎ヘ相續セシムルトキ

第三　同上ノ戸主實子ヲ措キ養子（聟養子ニ）貰受ケ相續セシムルトキ

第四　長二三男及孫數人（長男ノ子）ヲ有スル戸主退隱二男ニ相續セシムルトキ

民刑局長回答（二十九年十二月二十八日）

右ハ本年十二月十一日當省民刑第七二七號ノ通牒ニテ御了知相成度此段及回答候

愛知縣伺（二十八年一月十二日）

縣下丹羽郡岩田村「河村サイ」ナル者幼年一家維持難行屆ニ付亡父卽チ母ノ亡夫光太郎實弟同村勝彌弟豐三郎ヲ母ノ後夫ニ貰受家事整理爲致度旨別紙ノ通後見人ヨリ親戚連署願出調査候處事情無餘儀相聞候ニ付許可シ可然哉右ハ亡兄遺妻一且離緣生家ヘ復籍ノ上更ニ結婚スルモノトモ異ルニ依リ一應相伺候條何分ノ御指揮相成度候也

指令（二十八年一月十七日）

叔父ヲ母ノ後夫ニ貰受願ノ件ハ聽許シ苦カラス

和歌山縣伺（二十八年一月十八日）

第一項　幼戸主ノ後見人親族會議ニ於テ改選ノモノハ本人（前ノ後見人）ノ諾否ニ不拘親族連署ノ屆書受理セシメ可然哉

第二項　幼戸主ノ父又ハ祖父ニ於テ自ラ後見セントスルモノハ親族協議ハ勿論後見人屆書ニ親族連署ハ之ヲ要セサルモノト相信候得共母又ハ祖母ニ於テハ

親族協議ノ上連署セシムヘキ義ト相心得可然哉

第三項　幼戸主ノ家族タル伯叔母若クハ姉ヲ親族協議ノ上後見人ト定メ親族連署届出ルモノハ受理セシメ可然哉

指令　（二十八年一月二十六日）

第一項第二項共伺ノ通

第三項伯叔母又ハ姉ハ後見人トナルコトヲ得ス

京部府問合　（二十八年一月三十一日）

長女ノ聟養子已ムヲ得サル事故アリ長女ト離婚シ更ニ次女卽チ養妹ト結婚セントスルトキハ一旦其次女ヲ他家ノ養女ト爲シタル上ハ差支無之旨明治十三年八月岡山縣伺内務省指令ノ趣モ有之候處右ハ假令他家ノ養女ト爲スト雖トモ養妹タルノ關係斷滅スヘキ筈ナケレハ尙ホ不倫ノ嫌アルヲ免レサルノミナラス其養家ヨリ更ニ實家ニ入籍ノ場合ニ於テ戸籍上只養子ノ婦トスルトキハ實父母ニ對シ正當ノ續柄不相見旁穩當ナラサル樣被相考候右岡山縣ニ對スル内務省指令ハ或ハ既ニ無效ニ歸シタルモノニ可有之哉若シ否ラストセハ其取扱方併セテ御回示有之度此段及御問合候也

民刑局長回答　（二十八年二月十二日）

右ハ二女ヲ一旦他家ノ養女ト爲シタル上其結婚ニ付キ出願特許ヲ要スヘキモノトス又戸籍記載方ハ單ニ婦ト額書スルモ實父母トノ關係ハ事由欄ノ記入ニ依リ明瞭ナル義ト思考ス

山口縣伺　（二十八年三月六日）

單身戸主失踪ノ場合ニ於テ其戸主ヲ廢シ跡相續人ヲ定ムル如キハ難相成例ニ有之候處分家等自ラ設立セサルモノニ在テハ勿論戸主ヲ替ル必要無之モ祖先來繼承ノ家筋ニ於テ其儘擱クトキハ遂ニ一家廢滅ニ歸スルヲ憂ヘ親族協議願出ル場合ニ於テハ事情不得已儀ト被相考卽チ別紙出願ノ如キハ縱令單身戸主ト雖モ失踪後十ヶ月經過ノ上聽許可然哉

指令　（二十八年四月一日）

失踪者ノ死亡又ハ除籍ノ日迄ハ相續人ヲ定ムルコトヲ得サル儀ト心得ヘシ

岩手縣伺（二十八年三月二十五日）

玆ニ長女ヲ有スル戸主アリ長男死亡ス依テ長女ヘ婿養子ヲ爲シ孫女ヲ擧ケタルニ其後ニ至リ二男出生セシニ付孫女ハ之ヲ廢嫡シ該二男ヲ以テ豫メ養嗣子ノ相續人ニ取据置度旨出願セシモノアリ右ハ非戸主ニシテ養子ヲ爲スモノニ類シ候得共畢竟該家血統ノ男子ヲ重ンスルノ趣意ニ出テシモノナレハ通常ノ事實ヲ以テ論スヘカラサル樣被考候ニ付聽許可然ト存候

指令（二十八年四月七日）

戸主ノ二男ヲ豫メ養嗣子ノ相續人ニ定メ置クノ件ハ見込ノ通

鹿兒島縣電報伺（三十八年四月五日）

單身戸主死亡シ相續者ノ屆出承認戸籍ニ登記シタルモ屆ニ瑕瑾アリテ出訴シ其戸主廢除セラル然ルトキハ絶家期限ハ戸主廢除ノ日ヨリ起算スヘキヤ又相續中ノ月日ハ控除スヘキヤ將タ裁判確定ノ日ヲ以テ絶家トスヘキヤ

指令（電信）（二十八年四月八日）

裁判確定ノ日ヨリ六ケ月ノ期間ヲ起算スヘシ

茨城縣照會（二十八年四月五日）

長男ニ婦ヲ娶リ一男子ヲ擧ケタル後該長男ハ失踪シ數年ヲ經ルモ音信ナシ然ルニ今般戸主死亡セシニ依テハ孫（失踪セシ長男ノ擧ケタル一男子）ニ於テ相續スルノ外無之場合ニ立至リ候ニ付テハ失踪中ナル長男ノ廢嫡ハ要セサル義ト被存候得共意見ノ通ニテ差支無之候哉

民刑局長回答（二十八年四月二十三日）

右ハ廢嫡ヲ要スル義ト思考ス

岡山縣照會（二十八年四月九日）

長女ノ聟養子若クハ長男ノ妻ノ姉妹ヲ養實父ノ妻ト爲スヲ得サルモ妻ノ實家ノ

妹ヲ養女若クハ養子ノ妻ト爲スハ差支無之哉

民刑局長回答（二十八年四月二十四日）

妻ノ實家ノ妹ハ養女ト爲スコトヲ得ヘシ又養子ノ妻ト爲スニハ特許ヲ要スル義ト思考ス

愛知縣伺（內務省ヨリ合議）（二十八年四月十五日）

縣下三河國渥美郡豐橋町大字本町五十二番戶平民永田「ナカ」ナルモノ父死亡跡ヲ相續シ繼母ノ弟作藏ヲ明治二十五年十二月中親戚協議ノ末入夫ニ貰受クルト雖トモ公然タル送入籍ノ手續ヲ爲ササル以前女子分娩セシヲ以テ私生子ニ屆出タリ然ルニ其女子死亡尙亦姙娠今回叔姪結婚ノ義願出候右ハ倫理上不穩當ニ候得共別紙ノ通一家ノ浮沈ニモ相關シ事實不得止モノニ被考候條願意聞屆可然哉

內務大臣
司法大臣　指令（二十八年四月二十九日）

血緣ノ叔姪ニアラサルニ於テハ伺ノ通

山口縣伺（二十八年四月三十日）

第一條　妻携帶生家ヨリ分家ノ後長女ヲ擧ケ數年ヲ經テ養嗣子ヲ迎ヘ長女ヲ緣女ト定メタルモノ家名ヲ廢シ家族携帶生家ヘ復歸シタル後長男ヲ擧ケ復ヒ妻子長男、長女、養子携帶分家セシモノアリ此場合ニ於テハ相續權ハ依然養子ニアリヤ又ハ養子ノ相續權ハ廢家ト同時ニ消滅スルモノニテ長男ニ於テ相續權ヲ有スルヤ

指令（二十八年五月十七日）

第一條　前段伺ノ通

山口縣伺（二十八年四月三十日）

第二條　長二男或ハ孫ノ遺妻卽チ婦又ハ孫婦ニ養子養孫トシテ夫ヲ迎ヘ其儘結婚セシメ差支無之哉又ハ右遺妻ハ一旦離緣實家ヘ復籍ノ上更ニ養女ト爲スカ又ハ養子孫ノ妻トシテ入籍スルノ外遺妻ノ儘後夫ヲ迎フルヲ得サル哉若シ後段ノ通ナレハ遺妻實家廢絕ノモノハ一旦家名再興又ハ一戶新立セシメ而シテ

廢家名ノ上入籍セシムヘキ義ナルヤ

第三條　前條後段伺ノ通ナレハ右遺妻入嫁ノ戸主トナリ後夫ヲ迎フル場合ニ於テモ必ス遺妻ハ一旦實家ヘ復籍ノ上ニアラサレハ結婚不相成哉

指令　（二十八年五月十七日）

第二條　前段伺ノ通

第三條　遺妻戸主ト爲リテ後夫ヲ迎ヘ其儘結婚スルモ差支ナシ

鹿兒島縣伺　（二十八年四月十七日）

第一條　私生子ヲ有スル婦女ヲ娶リ入籍セシムルニ當リ其私生子ヲ夫己レノ子ト認ムルモノハ明治六年第二十一號布告但書ノ手續ヲナシ一旦庶子トシテ男籍ニ入籍セシメタル上更メテ父母結婚ニ依リ嫡出トナルノ手續ヲナスヘキ儀ニ候處妻携帶子女トシテ入籍セシメタル上夫己レノ子ト認メ婦女現住地市町村長ノ免許ヲ得テ嫡出トナルノ手續ヲナシ或ハ母子入籍ト同時ニ嫡出トナルノ屆出ヲナスヲ得ル儀ニ候哉

内務司法兩大臣指令　（二十八年六月十四日）

第一條　私生子ハ其生家ニ在ルト既ニ携帶シタルトニ拘ラス明治六年第二十一號布告但書ノ手續ヲ爲スニ非サレハ其父母ノ結婚ニ因リテ嫡出子ニ引直スコトヲ得ス

鹿兒島縣伺　（二十八年四月十七日）

第二條　養子ト實子ト同年月日生ナルトキ養嗣子ナレハ實子ヲ養弟妹ト稱シ養子ナレハ實子ヲ養兄姉ト稱スヘキ義ト心得可然哉

内務司法兩大臣指令　（二十八年六月十四日）

第二條　養子ハ其嗣子ナルト否トニ拘ラス實子ヲ養兄姉ト稱スヘキモノトス

沖縄縣伺　（二十八年六月二十日）

家女ヘ婿養子甲ヲ迎ヘ長男二男ヲ擧ケタル後該養子ヲ離縁シ更ニ同家女ヘ婿養子乙ヲ迎ヘテ又長男二男ヲ擧ケタリ（婿養子乙ハ甲養子ノ子ヲ己ノ子ト認メス）而シテ乙養子ハ該家ヲ

相續スルニ至ラスシテ死亡セリ此時ニ當リ該家督ヲ相續スヘキ權ヲ有スルハ甲養子ノ長男嫡孫ヲ承祖トシ當然繼承スヘキ者ト認ムルモ若シ乙養子其養父ノ跡ヲ相續シタル後ニ於テハ其長男相續權ヲ有シテ甲養子ノ長男ニハ相續權ナキモノニ候哉

指令　（二十八年七月十三日）

乙養子カ其養父ノ養嗣子ト爲リ又ハ其跡ヲ相續スルニ付テハ甲養子ノ長男ハ之ヲ廢嫡スヘキモノナルヲ以テ特ニ乙養子ノ嗣子ト定メラレサル限リハ相續權ヲ有セサルモノトス但之ニ反スル其他ノ習慣アルニ於テハ之ニ從フヲ妨ケス

鹿兒島縣伺　（二十八年八月一日）

一　甲某ナル者乙某ナル弟ヲ有シ乙ヲ丙家ノ養子トシ其後甲ハ家名ヲ廢シ家族携帶丁家ノ養子トナリ其養家ヨリ分家シ戊家戸主タリ然ルニ乙ハ養子入籍後間モナク養父等死亡シ單身戸主トナリ今般家名ヲ廢シ甲ノ籍則チ戊家ヘ復籍ノ儀出願スルモノアリ右ハ實家既ニ廢滅スルヲ以テ直チニ復籍スルヲ得ヘキ歟將廢家ヲ再興又ハ一戸新立セシムヘキヤ

内務司法兩大臣指令　（二十八年八月二十二日）

第一項　後段伺ノ通

鹿兒島縣伺　（二十八年八月一日）

二　結婚正當ノ手續ヲ履行セスシテ一男甲ヲ擧ケ私生子トシテ母籍ニ編入シタル後其父母正婚ノ手續ヲ履行シテ又一男乙ヲ擧ケタリ然ルニ先キニ出生シタル甲ハ未タ明治六年一月太政官布告第二十一號但書ノ手續ヲナササルヲ以テ乙ヲ長男トシテ屆出之ヲ公認シ然ル後成規ノ手續ヲ了シ甲ヲ庶子トシテ入籍セシメ父母正婚ニ依リ嫡出成ノ屆出ヲ爲シタリ右ハ父母正婚ノ日ヨリ嫡出トナルノ權利ヲ得ルノミナラス父母ヲ同フスル兄弟ニシテ秩序ヲ顚倒スルカ如キアリテハ倫理上甚タ不都合ニ付甲ヲ長男乙ヲ二男ト訂正ノ儀出願セシムヘキヤ將タ父母正婚嫡出成ノ結果トシテ市町村長ニ於テ直チニ訂正スヘキ筋ナルヤ

内務司法兩大臣指令（二十八年八月二十二日）

第二項　私生子ハ其父母正婚スルモ父籍ニ入籍ノ日ヨリ嫡出タルノ權利ヲ得ルモノナルヲ以テ其入籍以前出生ノ長男アレハ年長ト雖モ次男ト稱スヘキモノトス

鹿兒島縣伺（二十八年八月一日）

三　甲某乙ナル長男ニ家督ヲ讓リ己レハ退隱セリ然ルニ乙モ病氣其他事故ノ爲メ退隱シ甲某再相續ヲナシ乙ハ長男ノ位置ニ復セリ右ノ場合ニ於テ二三男又ハ養子アルトキハ別ニ嗣子成ノ手續ヲ爲ササルモ相續權ハ直チニ該二三男又ハ養子ノ占得スヘキ筋ナルヤ之ニ反シ他ニ子女ナク唯退隱ノ長男ノミアルトキハ疾病等ノ事故止ムト否トヲ問ハス該長男ハ相續權ヲ有スルモノナルヤ

内務司法兩大臣指令（二十八年八月二十二日）

第三項　前段後段共伺ノ通

靜岡縣照會（二十八年九月六日）

廢家ノ上尊族親等携帶他家ヘ縁組ハ戸主ノ望ニ任セ苦シカラサル旨別紙寫ノ通曾テ愛知縣ヘ御指令ノ趣該縣ヨリ承知致居候處爰ニ尊族親ヲ有スル養戸主家計上止ムヲ得サル事故有之離縁實家ヘ復籍致度モ其尊族親等總テ失踪又ハ逃亡中ニテ跡相續セシムル能ハサル場合ニ限リ該尊族親等ヲ携帶實家ヘ復籍セシメ不苦候哉

前項携帶復籍苦シカラサルモノトセハ實家戸主ト携帶尊族親トニ於テハ續柄無之ニ付戸籍肩書等ハ其事實ヲ記載セシメ可然ヤ

民刑局長回答（二十八年九月二十五日）

右ハ第一項第二項共總テ貴見ノ通ニテ然ルヘキ義ト思考ス

（參照）

愛知縣伺（二十年八月一日）

第九條　女戸主退隱ノ上他家ニ嫁センコトヲ欲スルモノ有之然ルニ母及弟アリテ現今失踪中ニ付家督ヲ讓リ或ハ家名ヲ廢スル等ノ事ハナシ能ハサ

ル義ニ候得共止ヲ得サル者ニ限リテハ本人ノ諾否ニ拘ハラス失踪ノ家族ニ戸主ヲ讓リ其旨屆出シメ可然義ニ候哉

内務省司法省指令（二十年十一月三日）

第九條　失踪者ニ家名ヲ讓ル義ハ不相成廢家ノ上家族携帶他ヘ嫁スルハ戸主ノ望ニ任セ苦シカラス

東京府伺（二十八年九月十九日）

他人ヲ養兄姉等ノ名義ヲ以テ入籍スルハ不相成旨明治二十五年九月二十日當廳伺ニ對シ御指令ノ次第モ有之候處茲ニ華族ニシテ宮内大臣ノ許可ヲ受ケ他人ヲ養妹名義ヲ以テ入籍屆出テ候モノ有之右ハ最前ノ御指令ニ依レハ入籍難取扱儀ハ勿論ニ候得共華族令第八條並ニ同第二十九條ニ依ルトキハ華族ノ戸籍ハ宮内大臣ノ管掌ニ屬スル而已ナラス其養子女等ニ關スル儀ハ先以テ同大臣ノ許可ヲ受クルコトニ相成居候ニ付テハ同大臣許可ノ上ハ設令一戸籍取扱ノ例ニ反スルモ其儘入籍取扱ヒ候外無之トハ存候得共爲念一應相伺候也

内務省司法省指令（二十八年十月十二日）

華族ト雖モ他人ヲ養妹名義ニテ入籍スルコトヲ得サル義ト心得ヘシ

茨城縣伺（内務省ヨリ）（二十八年十月十五日）

第一項　死亡者ノ妻トシテ入籍方ニ就キ明治二十六年九月十八日長野縣知事ヨリ内務省庶務局長並ニ司法省民刑局長ヘ照會相成候處同年十月二十三日附ヲ以テ男子ノ親族協議ノ上出願スルニ於テハ聞屆不苦例ニ有之云々回答相成候處如斯ハ其入籍セル婦ノ事項欄ヘ假令ハ「明治二十六年二月　日縣郡村大字何某女結婚明治二十六年十月二十三日願濟入籍ス」ト記載爲致可然哉

第二項　明治二十一年二月二十八日長男某ヘ婦ヲ（正式ノ結婚）迎ヘ長男ハ徵兵現役當選ナルヲ以テ同年四月中某營所ヘ入營服役滿期後ニ至ルモ婦ノ送入藉ノ手續ヲ爲ササル内二十五年二月及ヒ二十六年八月中子女ヲ擧クルモ入籍セサルハ私生子トシテ婦ノ原籍ヘ入籍シ然ルニ長男ハ昨年八月中召集ニ應シ金州ニ於テ病死ス今回其死亡者ノ妻トシテ入籍出願スルモノ有之右ハ長野縣照會

御省回答ニ據リ聞屆可然哉

第三項　前項婦ノ私生子ヲ亡長男ノ父ニ於テ明治六年太政官第二十一號公布ノ手續ヲ以テ亡長男ノ子トシテ引取ルヲ得ヘキヤ

内務司法兩大臣指令（二十八年十一月一日）

第一項　戸籍ニハ當初結婚ノ日ニ遡リ單ニ「年月日縣郡村族氏名何女入籍ス」ト記シ入籍願濟等ノ事由ハ登記目錄ニ記載スヘキモノトス

第二項　六年有餘ヲ經ルモ入籍ノ手續ヲ爲ササルノミナラス二子女ヲ擧クルモ皆婦籍ニ編入シ數年間已レノ子トシテ引取ノ手續ヲ爲ササリシハ男子ニ於テ婦及ヒ已レノ子トシテ入籍セシムルノ意思ナク婦及ヒ婦家モ之ヲ認諾セシモノト推測スヘキヲ以テ許可スヘキ限リニアラス

第三項　私生子ノ認知ハ父タル男子ニ限ルヲ以テ已レノ子ト認メタル確證アル場合ノ外祖父ニ於テ引取ルヲ得ス

福岡縣伺（二十八年十月三十日）

第一、戸主死亡後其相續人未タ戸籍上戸主トナラサル以前幼少又ハ病氣或ハ不取締等ノ故ヲ以テ親族ヨリ廢嫡ノ義願出タルトキ事實無餘義モノハ許可シ不苦ヤ

第二、戸主死亡後相續人ニ於テ相續ヲ忌避或ハ辭退スル時ハ忌避或ハ辭退者及更定相續人タルヘキモノ竝ニ親族連署ヲ以テ相續人定立ヲ併セ願出サシメ可然ヤ

内務司法兩大臣指令（二十八年十一月八日）

第一項　伺ノ通

第二項　伺ノ通但正當ノ事由アルニアラサレハ相續ヲ辭スルヲ得サルモノトス

福岡縣伺（二十八年十月三十日）

第三、養子戸主ノ家族額書及肩書ニ養字ヲ冠セシムルハ祖父母、父母及兄弟姉妹ニ限ルヘキヤ

内務司法兩省指令（二十八年十一月八日）

第三項　高祖父母以下伯叔父母甥姪ノ如キ養方ニ於ケル親族ハ總テ養字ヲ冠セシムヘシ

香川縣伺　（二十八年十月三十日）

爰ニ幼少ノ一男子ヲ遺棄シテ失踪セシ戸主ノリ然ルニ該家ハ勿論親族モ亦赤貧ニシテ養育上困難ノ折柄當時離婚ト相成居候實母他家ヘ縁參シ居リシカ親子ノ情詭黙止難キヨリ夫婦協議ノ上之ヲ引取リ丁年ニ達スル迄養育セシカ相續スヘキ男女子無之ヨリ該家ノ嗣子ト爲サンコトヲ切望セリ然ルニ本人義ハ實父ノ跡ヲ相續スヘキコト當然ナルモ實母及實母ノ後夫ニ對シテハ幼少ノ頃ヨリ養育ヲ受ケタル恩義モ有之殊ニ實父ハ失踪後既ニ十箇年餘ヲ經過スルニ今以テ復籍セス生死ノ程モ難計ニ付親族協議ノ上失踪者ノ家名ハ其儘ニ存置シ廢嫡ノ上他家養嗣子ニ縁參ノ義願出ルモノアリ右ハ幼年ノ頃ヨリ養育ヲ受ケタル恩義モ有之事情一應無餘義相聞候得共元來本人義ハ失踪者相續ヲ爲スヘキモノニシテ幼少ノ頃トハ異ナリ相當ノ能力ヲ有シ一家經營ノ途可相立モノニ付強テ實母縁付先ノ家名ヲ繼承セサルモ他ニ恩義ヲ報ユル道モ可有之ニ付聽許スヘキ筋ニ無之ト認ノ候得共類例モ無之ニ付爲念相伺候

指令　（二十八年十月十四日）

戸主失踪中長男ヲ他家ノ養嗣子トスル件ハ見解ノ通

東京府伺　（二十八年十一月二十六日）

幼者ノ家ヲ廢スル件ニ付テハ明治二十四年十二月二十七日御指令ノ旨趣ニ基キ事情止ムヲ得サルモノニ限リ親族協議出願ノ上ハ聽許致來候處若シ其幼者ニ對スル親族一名モ無之近隣又ハ亡父母知己ノ者ニ於テ保育シ居タルモノノ將來保育ノ途難相立等ノ事情ニ依リ廢戸ノ上他ヘ縁組若クハ婚姻セシメントスルモノノ如キハ實際止ムヲ得サル儀ニ付親族無之トモ現時ノ保育者則チ近隣又ハ亡父母知己ノ者ヨリ連署出願ノ上ハ特ニ許可シ不苦哉

内務司法兩省指令

近隣又ハ亡父母知己等ノ出願ニ依リ廢家ヲ許可スルヲ得サル儀ト心得ヘシ

大阪府伺（二十八年十二月二十日）

玆ニ長二三男（二男ハ前ニ分家又ハ他家ノ養子トナリテ復歸シタルモノ）ヲ有スル戸主アリ長男死亡スルトキハ該家相續權ハ年長ノ順序ニ依リ二男ニ移ルヤ又ハ二男ハ一旦他ヘ送籍シ復籍シタルモノニ付キ三男ヲ廢嫡スルニ非サレハ直チニ相續權ヲ有セサル義ニ候哉

指令（二十八年十二月二十八日）

次男復籍前ニ三男ヲ嗣子ニ定メサリシニ於テハ前段見込ノ通

埼玉縣照會（二十八年十二月二十六日）

伯叔父ヲ幼年戸主ノ相續人トスルハ戸主幼年疾病其他不得已事情ニ依リ年長者ナシテ家督繼承セシメサレハ一家ノ整理上差支アル場合ニ限リ許可シ幼年者戸主ト成リ居ル儘故ナク伯叔父ヲ相續人トシテ屆出ツルモノノ如キハ事實上相續者ヲ定メ置クノ必要ナキノミナラス元來戸主ノ意思ノ未タ定マラサルニ其繼承權ヲ定ムルハ權理上不都合ノ義ト思考候ニ付キ右等ノ屆ハ受理スヘカラサル義ト相心得可然哉

民刑局長回答（二十八年十二月二十八日）

貴見ノ通

東京府伺内務省ヨリ合議（二十六年十一月十六日）

私生子ヲ男子ヨリ己ノ子ト見留メ明治六年第二十一號布告但書ノ手續ヲナシタル上ハ其子ヲ其男子ノ戸籍ヘ引取ルヘキ筋ノ處茲ニ私生子ヲ有スル女戸主戸主ヲ其私生子ニ讓リ縁組若クハ親族入籍等ノ廉ヲ以テ他家ヘ入籍シタル後私生子ノ實父ト婚姻シタルニ依リ其私生子ヲ正子ニ引直サントスルモノアリ右ノ場合ニ於テ前顯ノ手續ヲ履マントセハ私生子ハ已ニ相續シタル家ヲ廢セサルヘカラス然ルニ家ヲ廢スルハ素ヨリ容易ナラサル義ニ有之將又私生ノ稱呼ノ除却ヲ望ムハ是亦事情尤ナル次第ニ付戸籍ヲ動カサス其儘身分ノ引直ヲナスモ差支ナキヤ

内務司法兩省指令（二十七年一月四日）

伺ノ通

埼玉縣伺（二十七年一月十七日）

戸主死亡跡男女子アルモ幼年ナルヲ以テ祖父再相續ヲ爲ス場合ニ於テハ其男女

子成長ノ上家督ヲ讓ルヘキ契約アルモノト否ラサルトノ區別アルモ要スルニ何レモ權利ノ得喪ニ關スルモノニ付出願部類ニ屬スルモノト相心得然ルヘキヤ將タ男女子ノ相續權ヲ留保スルモノハ屆出ニ止メ然ルヘキヤ

指令（二十七年一月二十五日）

前段伺ノ通

長野縣伺（内務省ヨリ合議）（二十六年十二月二十五日）

甲家ノ二三男ニシテ妻子ヲ有スル者其妻ハ離婚シ其子女ハ實家ニ置キ單身乙家女子ノ聟養子トナリ長二男ヲ擧ケタル後甲家卽チ實家ニ殘シタル男子ヲ願濟引取リタル場合ニ於テハ年齡ノ長幼ニ依リ長二男ト順次訂正スヘク繼嗣モ亦其順序ニ依ルヘキ義ト心得可然哉甲家ノ二三男ニシテ長男ヲ携帶乙家女子ノ聟養子トナリ子女ヲ擧ケタル場合ニ於テハ携帶兒ヲ長男トシ乙家入籍後出生ノモノヲ二三男トナシ其長男嫡嗣タルヘキ義ト心得可然哉

（内務司法兩大臣指令）（二十七年一月二十六日）

前段後段共相續權ハ養家ノ子女ニ屬スルヲ以テ戸籍ニハ養家ニ於テ擧ケタル長二男ノ次ニ實家ヨリ引取リ若クハ携帶シタル子ヲ實家長二男若クハ携帶ノ稱ヲ以テ登記スヘシ

長崎縣照會（二十七年一月十七日）

幼戸主後見人ノ義ハ其親戚ニ於テ選定スヘキ當然ノ處村長ヨリ再三説諭ヲ加フルモ親戚ニ於テ選定ヲ肯ンセサル時ハ村長ヲシテ相當人物ヲ後見人ニ選定セシメ可然哉

民刑局長回答（二十七年一月二十七日）

貴見ノ通

栃木縣照會（二十七年一月八日）

第一項　玆ニ被後見ノ幼戸主アリ（未結婚）平素身弱ニシテ到底成長ノ目的ナキヨリ親戚協議ノ上後見人ヨリ該幼戸主ヘ養嗣子（戸主ヨリ年少者）ヲ貰受度旨申出

ノ者有之右等ハ幼者カ幼稚ノ養嗣子ヲ迎フルハ普通養子ノ例トモ異ナリ少シク不穩ノ儀ト被考候得共敢テ出願ニ及ハス町村長限リ取扱候モ差支無之候ヤ

第二項　幼年ノ戸主ハ疾病其他事故ナキニ於テハ親族會議ノ結果ト雖モ養嗣子(戸主ヨリ年少者)ヲ迎フルハ不相成義ニ候ヤ

民刑局長回答（二十七年二月二日）

第一項及ヒ第二項ノ場合共ニ幼年戸主ハ年少者タリトモ之ヲ其ノ養嗣子ト爲スコトヲ得サル義ト思考ス

神奈川縣伺（内務省ヨリ合議）（三十六年十一月八日）

外國人ニシテ本邦人ノ聟養子トナリ本邦人タルノ分限ヲ取得シタル上現今戸主トナリ一家ヲ經營ス然ルニ該夫婦間不和ヲ生シ家事上差支候趣ヲ以テ雙方熟議ノ上婦女離婚ノ儀親族連署出願候モノ有之候處右聟養子ハ元外國人ナルモ既ニ本邦人タルノ分限ヲ取得シタルモノニ付通常本邦人相互ノ家女ノ妻離婚ニ於ケルモノト同樣取扱可然義トハ相考候得共元來右聟養子タルヤ結婚ニ由リ特ニ本邦人ノ分限ヲ取得シタルモノナレハ假令雙方ノ協議ニ出ツルモ聟養子當事者ヨリ其婦離婚ノ義ハ難相成筋ニ可有之哉且無餘義事情アリテ離婚セサルヲ得サル場合ハ其結婚ヲ解除スルト同時ニ夫婦ノ緣義消滅スルモ該聟養子ハ尙ホ本邦人タルノ分限ヲ失ハサル義ト相心得可然哉

内務司法　兩大臣指令（二十七年二月三日）

前段離婚不苦後段伺ノ通

徳島縣伺（内務省ヨリ合議）（三十七年一月十八日）

縣下名西郡浦庄村大字下浦村平谷吉平後見人ヨリ吉平母「シケ」私生子安平ナル者ハ父清八入夫前出生父母正婚ノ後ハ直チニ嫡出ニ可屆出ノ處無其儀數年ノ久シキ等閑ニ附候内父既ニ死亡セシモ全ク實兒ニ相違無之趣ヲ以テ其母及亡清八親族連署訂正方出願有之候處右ハ已レノ子ト見留ムヘキ本人ノ既ニ死亡シタルモ村長添申等ニ依リ推想スルニ表面安平ノ私生子トナリ居ルハ畢竟清八入籍屆出ヲ怠リタルニ起因シ且正婚ノ後ニ於テモ嫡出ト爲スヘキ途アリシニモ拘ラス其

之ヲ爲ササルハ規則等ヲ辨ヘサルニ座スル義ニシテ事實申出ノ通相違無之ト被認候ニ就テハ之ヲ許可シ可然哉

内務司法　兩大臣指令　（二十七年二月十四日）

父ナリト稱スル男子死亡後ニ係リ其意思ヲ確認スヘキモノナキヲ以テ許可スヘキ限リニ在ラス

東京府伺　（二十七年二月十六日）

丁年以上ノ戸主タリトモ瘋癲白痴ナルトキハ之ニ後見ヲ附スル例ハ有之候得共茲ニ丁年以上ノ戸主腦溢血症ニ罹リ事理辨明セサルヲ以テ後見ヲ附セントスルモノアリ右ハ重症ニシテ全ク事理辨明シ難キ旨醫師ノ證明アルトキハ前例ニ準シ其後見ヲ承認シ可然哉

指令　（二十七年二月二十一日）

伺ノ通

茨城縣伺　（二十七年二月二十一日）

分家ノ叔父退隱ノ後本家甥ノ相續人トシテ入籍スルハ出願セシムヘキヤ

指令　（二十七年二月二十二日）

出願ヲ要セス

東京府伺　内務省ヨリ合議　（二十六年十二月二十八日）

男子庶子ハ母ヲ後妻ニ迎ヘタル爲メ其庶子ノ嫡子トナリタルトキ前妻所生ノ子アレハ假令後妻ノ出庶子ノ嫡子トナリタルモノ年長ナリトモ戸籍順序竝ニ稱呼ハ年齡ニ拘ハラス前妻ノ出ヲ先トシ後妻ノ出ヲ後トスヘキ旨去明治十七年中内務卿ヨリ岩手縣ヘ御指令ノ例モ有之候處茲ニ私生子ヲ有スル女子ノ入夫トナリ嫡子ヲ擧ケタル後入夫ニ於テ其私生子ヲ己ノ子ト認メタルモノアリ右ハ前例ノ異母弟ノ場合トモ異リ候得共其出生ノ時ハ私生子ニシテ私通ノ子タリ之ヲ己カ子ト認ムルモ庶子タルヘキハ當然ニ有之同腹タリトモ正妻タル後ニ出生シタル嫡子ニ超上スヘキ理由ナキヲ以テ前例同樣取扱フヘキ筋ニ有之其相續順序モ先キニ嫡子トシ

テ入籍シアルモノヲ先トスヘキ義ト存候得共念ノ爲メ伺定メ置キ度此段相伺候也

内務司法兩大臣指令（二十七年三月一日）

總テ伺ノ通

岡山縣照會（二十七年三月十日）

嫡出男子ナク庶子男ノミヲ有スル者養嗣子ヲ貰受ケントスル場合ハ其庶子ノ廢嫡ヲ要スヘキ筋ニ候ヤ

民刑局長回答（二十七年三月十五日）

御見込ノ通

神奈川縣伺（二十七年三月十五日）

某戸主他ヨリ養女ヲ貰受ケ後チ之ヲ離緣シ更ニ其實弟ノ妻ニ娶ラントスル者アリ右ハ曩ニ養女タリシ時養父ノ弟トハ叔姪ヲ以テ稱呼シタル者ニ付一旦斷緣セシモノト雖モ結婚ハ不相成義ト心得可然ヤ

指令（二十七年三月二十二日）

事情止ヲ得サルモノニ限リ聽許シ苦シカラス

徳島縣伺（二十七年三月三十日）

後見人ノ義ハ其幼戸主滿二十歳ニ達セハ法律上之ヲ要セサル義ニ付直ニ解囑スヘキ筈ニ候處市町村長ヘ其屆出ヲ爲サス土地建物賣買讓與等登記請求ニ關シ依然後見人タルノ證明ヲ請フモノ有之趣右ハ假令解囑ノ屆出ナキモ戸主丁年ニ達シタル日ヲ以テ自然當初後見屆出ノ效力ハ消滅シタルモノト看做シ證明ヲ與フル外無之儀ト存候得共爲念此段相伺候也

指令（二十七年四月十日）

伺ノ通

徳島縣問合（二十七年三月三十一日）

長男他家養子ノ義ハ本末ノ間又ハ長次男アルモノ其親戚ニ於テ血統ノ男子無之不得止事情ヨリ長男差遣候義ハ格別不苦例ニ有之候處茲ニ一女子ヲ有スルモノ今又男子(則長男)出生而シテ其母ハ直チニ死亡セリ然ルニ該家ハ素來赤貧ニシテ其嬰兒ノ養育ヲ他人ヘ託スルノ資力ナク遂ニ餓死セシムルノ外無之ニ付餘義ナク他家養子ニ差遣度出願ノ者有之右等事情ノモノハ之ヲ聽許シ不苦候ヤ

民刑局長回答　(二十七年四月十一日)

長男廢嫡ノ上聽許相成差支ナキ義ト思考ス

内務大臣照會　(二十七年二月十七日)

戸主ノ退隱ハ必ス其相續者アル場合ニ限ル義ニ有之隨テ養子戸主又ハ入夫戸主退隱ノ上離緣復籍スルコトモ亦勿論其跡相續人ヲ定メタル後ニアラサレハ難相叶義ト存候且離緣復籍ニ際シ必ス先ツ跡相續人ヲ定ムヘキコトニ關シテハ別紙太政官裁令ノ例モ有之當省ニ於テハ退隱ノ上ニ於テスルト否トヲ問ハス離緣復籍ハ總テ同例ニ依リ取扱來リ候處昨二十六年二月中福島縣照會ニ對シ入夫戸主離緣ノ際相續人ヲ定メス退隱ノ上直チニ離緣スルモ差支ナキ旨貴省民刑局長ヨリ回答相成候處同照會ノ場合ト雖モ離婚スヘキ妻ニ相續セシムルニ於テハ敢テ相續者ナキニ苦シム場合ニモ無之同一事件ニシテ指揮兩樣ニ渉リ候テハ實際取扱上、差支候義ニ付右當省取扱ノ通御改正相成候樣致度

司法大臣回答　(二十七年四月十三日)

養子戸主又ハ入夫戸主カ離緣復籍セントスルニハ貴省伺ニ對スル太政官裁令ノ如ク必ス先ツ跡相續人ヲ定ム可キハ本則ニ可有之候得共福島縣照會ノ場合ノ如キハ夫婦ノ外他ニ相續者ナク妻ヲシテ相續セシメントスルモ妻タル者ハ夫ト同籍ニ在ル間ハ夫ノ相續ヲ爲スヲ得サルノ慣例ナルヲ以テ離緣復籍ヲ爲スニ先チ跡相續人ヲ定メシムルコトヲ得サルノ事情アリ又戸主ノ死亡ニ因リ相續ノ開始スル場合ニ於テハ相續人ヲ定ムルニ付猶豫ヲ與ヘ一時家ニ戸主ナキコトヲ許ス以上ハ養子戸主又ハ入夫戸主ノ離緣ニ因リ相續ノ開始スル場合ト雖モ亦特別ノ事情存スルトキニ限リ跡相續人ヲ定ムルニ付相續ノ猶豫期間ヲ與フヘキハ至當ノ義ト思考候依テ御照會ノ旨趣ニハ應シ兼候間此段及回答候也

靜岡縣照會（內務省合議）（二十七年三月二十八日）

爰ニ甲村某女私生兒アリ該兒ヲ殘シ置キ乙村某家ニ嫁シ然ル後チ丙村某男己ノ子ト認メ庶子トシテ引取ラントスルトキハ兒子現在地ノ甲村村長ノ免許ヲ請フヘキ筋ナルヤ將タ生母現在籍ノ乙村村長ノ免許ヲ請フヘキ筋ナルヤ明治六年布告第二十一號但書ニ婦女住所ノ戶長云云トアルニ因リ疑義ヲ生シ候間何分ノ御明示相成度

民刑局長回答（二十七年四月二十一日）

右ハ前段御意見ノ通

愛知縣照會（二十七年四月十二日）

管下南設樂郡海老村小野田喜作弟與平戶主失踪中分家セントス右ハ戶主失踪中ト雖モ該家親族熟議ノ上ハ差支無之筋ニ候ヤ果シテ然ラハ別紙戶籍寫ノ通戶主喜作ハ相續スヘキ子孫ナキモ死亡又ハ退隱ノ場合トモ異リ候ニ付與平分家ノ際廢嫡ニ準スルノ取扱ヲ爲スニ及ハサル哉

民刑局長回答（二十七年四月二十一日）

右ハ親族協議出願ノ上ト雖トモ難聞屆義ト思考ス

岡山縣照會（內務省ヨリ合議）（二十七年三月二十八日）

第一項　親族トシ入籍シ得ヘキモノハ戶主ノ祖父母父母子孫等ハ勿論雙方合意ノ上ハ其家族ナル妻又ハ養子ノ子女（戶主ヨリノ續ナキモノ）ヲ該實家ヨリ引受ケ若クハ戶主ノ兄弟姉妹等ノ他家ニテ擧ケタル子女（父母ノ曾テ嫁妻又ハ養子女トナリタル際出生）ノ如キモ親族ニ準シ入籍スルコトヲ得ヘキ哉果シテ然ラハ養戶主又ハ分家戶主ニシテ傍系親ナル其兄弟姉妹等ヲ入籍スルコトヲ得ヘキ義ニ候ヤ

民刑局長警保局長回答（二十七年四月二十三日）

第一項　前段御意見ノ通但家族ノ子女ニ在テハ其父又ハ母ノ籍（卽在籍中）ニ引取ル場合ニ限ル後段本分家間ニ限リ御意見ノ通

岡山縣照會（內務省ヨリ合議）（二十七年三月二十八日）

第二項　亡夫ノ死跡ヲ繼承セル成年以上ノ女戸主赤貧且疾病ノ爲メ强壯者ヲシテ繼承セシメサルトキハ忽チ其生活ニ差支ユルモ他ニ相當ノ者ナク無止年長ノ養子ヲ貰受ケントスル場合ハ母子其年序ヲ顚倒シ不倫ノ稱呼ヲ生スヘキ嫌アルヲ以テ先々代卽チ亡夫ノ亡父養子トシ女戸主ノ相續人トスヘキ義ニ候ヤ

果シテ然ラハ其養子(戸主)ヨリ其亡夫ヲ亡養兄トシ女戸主ヲ養妹ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

第三項　前項分家女戸主ナル時ハ其先代ナキヲ以テ單ニ戸主ノ相續トシ入籍スルヲ得ヘキ義ニ候ヤ

第十項　子女アル寡婦ヘ長男(明治元年生携帶入夫相續後前夫子(明治十八年生)ヲ嗣子ニ確定シタル場合ハ二男トスヘキ筋ニ候ヤ

第十八項　私生男及實弟アル女戸主退隱又ハ死亡シタル場合ノ繼嗣ハ雙方ノ協議ニ任セ其順序之レナキヤ

第二十四項　戸主退隱長男廢嫡二男ヲ以テ相續セシメ其廢嫡長男携帶分家シタル其分家ニ於テ該長男ハ自ラ嗣子權ヲ享有セル筋ニ候ヤ

第二十五項　子孫ヲ有セサル戸主ノ死跡ヲ其尊族(祖父母父母)ニ於テ相續若クハ再相續スル場合ハ願濟セシムヘキ事項ニ候ヤ

第二十七項　伯叔父母ノ跡ヲ繼承セルモノハ養父子ヲ以テ稱スヘキノ處伯叔母夫若クハ伯叔父ノ妻ノ跡ヲ相續シタル場合モ亦養父子ヲ以テ稱スヘキ筋ニ候ヤ

第二十八項　戸主退隱シ妹ノ夫ヲシテ繼承セシムル場合ハ先々代(退隱者ノ亡夫)ノ養子トシテ戸主ノ相續人トスヘキヤ果シテ然ラハ其妹夫ヨリ退隱者ヲ養兄トスヘキカ將タ妻ノ兄ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

民刑局長
警保局長　回答　(二十七年四月二十三日)

第二項　御意見ノ通リ

第三項　入籍セシムルヲ得ス

第十項　嗣子ト定メタル前夫ノ子ハ養嗣子ト記シ其旨ヲ事項欄內ニ記スヘシ但携帶シタル子ハ携帶長男ト記スヘシ

第十八項　御意見ノ通

第二十四項　御意見ノ通

第二十五項　出願ヲ要セス

第二十七項　御意見ノ通

第二十八項　前段單ニ相續人ト稱ス後段前段御意見ノ通

岡山縣照會（内務省ヨリ合議）（三十七年三月二十八日）

第四項　登記目錄送籍ノ部門中何月何日送籍狀發送ノ下ニ何月何日入籍報告書受領ト有之ノミニテ其入籍月日ヲ登記セサルヲ以テ除籍月日ヲ戸籍ニ登載スルニ方リ其目錄ニ依リ登錄シ能ハサルモ差支サル筋ニ候ヤ

第十六項　定籍ハ其町村ナルモ一町村甲番邸ヨリ乙番邸ノ養子女又ハ婚嫁セルモノノ如キモ送入籍ノ名稱ヲ付スヘキヤ

第二十項　單身士族戸主死亡後五十日以内ニ其相續者ヲ確定シ難キヨリ相當猶豫ノ許可ヲ與ヘタル事項ハ戸籍簿ニ登記セサル筋ニ候ヤ

第二十六項　單身戸主死亡後滿六箇月ヲ經過シタル絶家處分ヲ假令ハ一月一日死亡ニ係ルモノヲ八月五日（延滯ヲ處分ス）ニ至リ處分スル場合ト雖モ滿六箇月經過ノ日卽チ七月一日付ヲ以テ戸籍ニ登記處分スヘキ筋ニ候ヤ

第二十九項　婦妻入嫁ノ際携帶セル子女若クハ妻（家女）ノ私生子等ノ列次ハ又從弟夫妻ノ次ニ登記スヘキ筋ニ候ヤ

第三十項　入籍報知書式中今又ハ昨何日入籍取計云々ト之アル其月日ハ入籍屆書受領卽チ戸籍ニ加籍セル月日ヲ掲記スヘキハ勿論ノ處屆出期限アル願濟送入籍事項ニ係ルモノノ如キハ其指令月日ヲ掲記スヘキ筋ニ候ヤ

民刑局長　警保局長　回答（二十七年四月二十三日）

第四項　戸籍登記ハ入籍報知書ニ據ルヘキモノニ付差支ナシ

第十六項　御意見ノ通

第二十項　御意見ノ通

第二十六項　御意見ノ通

第二十九項　御意見ノ通

第三十項　御意見ノ通

岡山縣照會（二十七年三月二十八日）

第五項　養子戸主廢家シ其家族携帶直チニ他ノ養子女トナル場合ニ於テ孰レカ其一方ナル養父母ノ死歿シ同時ニ養父母兩名ヲ帶セサル者ハ送籍上敢テ差支ナキモノノ如シ果シテ然ラハ養子（嗣子權ヲ有ス又ハ養父母ヲ有ス）ニシテ養家ヨリ直チニ他ノ廢家絶家（死亡）ヲ再興又ハ他ヘ入夫（分家女戸主ヲ除ク又婦女ハ家女ニシテ其父母ナシ）等ハ假令養父母累加スルモ差支之レナキヤ

第八項　聟養子（嗣子權ヲ享有セサルモノ）其妻（嫁）携帶分家後其妻ヲ離婚シタル場合ハ養姉妹ノ續柄ヲ以テ分家籍ニ其儘差置キ本家ヘ復歸セシメサルモ差支ナキヤ

第十一項　妻ノ携帶セル女子ニ聟養子スル場合ハ其女子ヲ同時ニ養子トスルカ將タ婦ト稱シ得ヘキヤ

第十二項　養子女又婦妻等離縁ノ際其子女（嗣子權ヲ享有セサルモノ）携帶復歸スル場合ハ願濟セシムヘキ事柄ニハ無之ヤ

第十九項　戸主廢家他ノ養子女トナリタル其廢家跡（前戸主生存シ再興者ヨリ年少）ヲ再興（前戸主ヨリ年長者）スル場合ハ前戸主ノ養子トシ差支無之ヤ

第二十一項　幼戸主赤貧ニシテ他ニ相當後見人ナク無止實母ニ後夫（幼戸主ノ繼父）ヲ迎ヘ後見トシ該家ヲ繼承セシメサルトキハ單ニ實母ノ入夫トシ先々代（幼戸主ノ亡夫）ノ養子トスヘカラサル筋ニ候ヤ

第二十三項　姪ニ聟養嗣子ヲナシタル場合ハ同時ニ其姪ヲ養女トナスヘキ筋ニ候ヤ

第三十一項　孫女ニ聟ヲ迎ヘタル場合ハ孫聟トスヘキカ將タ孫夫ト稱スヘキヤ又其孫聟ヲ嗣子ニ確定シタルトキハ養嗣子トナスヘキカ將タ養孫ト稱スヘキヤ若シ養嗣子トスルトキハ孫（外孫ニアラス）ノ名稱ハ其儘差措キ差支無之ヤ

民刑局長
警保局長　回答（二十七年四月二十三日）

第五項　前段御意見ノ通後段廢家再興ノ外不相成

第八項　御意見ノ通

第十一項　單ニ養子ノ妻トナシタルトキハ婦ト稱ス但養女ト爲シタル上之ニ聟ヲ迎ヘタルトキニアラサレハ聟養子ト稱スヘキモノニアラス

第十二項　御意見ノ通

第十九項　養父子ノ關係ヲ生セス

第二十一項　繼父ト額書シ母名後夫ト肩書ス

第二十三項　姪ヲ養女ト爲シタル上聟養子ヲナスヘキモノトス

第三十一項　嗣子ニ定メタルトキハ其旨ヲ事項欄内ニ記シ額書ヲ養孫肩書ヲ孫名夫ト記ス

宮城縣伺（二十七年四月十八日）

亡兄ノ遺妻ト結婚ノ義ハ經營上差閊ヘ一家ノ浮沈ニモ關スル場合ニ於テハ特ニ許可ヲ與ヘ來リ候處實際右等ノ關係無之候モ既ニ夫婦同樣ノ生活ヲ爲シ小兒ヲモ出産致居候向ハ至重ノ事故ト看做シ聞屆ケ可然哉

指令（二十七年四月二十六日）

事實止ヲ得サル事情アルモノト認メ聽許シ苦シカラス

大阪府伺内務省ヨリ議（二十七年四月十一日）

私生子ヲ男子已レノ子ト認メ其籍ニ編入セントスルトキハ明治六年第二十一號公布但書ニ據ル義ニ有之候處公布ハ男子ニ於テ私生子ヲ庶子トシテ引取ル場合ヲ規定シタルモノニシテ父母正婚シ右私生子ヲ嫡出トナサントスル場合ニ於テハ該公布規定ノ外ニ屬シ明治十九年内務省訓令第二十號及二十年同省訓令第十三號登記目錄異動ノ部第七項等ニ參考スルモ又右ノ場合ニ於テハ別ニ許可ヲ請フノ手續ヲ要セサルモノト認メラレ候ニ付從來當府ニ於テハ其私生子カ既ニ母ノ携帶子トシテ父方ニ入籍アルト猶ホ母ノ生家ニ殘シアルトニ拘ハラス屆出限リ嫡子ニ引直シ來リ候處他府縣ニ於テハ此場合ニ於テモ右公布但書ニ依リ願濟ノ上嫡出ニ引直シ居候向モ有之趣ニ付其取扱方區々ニ渉リ送籍狀ノ交渉等ニ於テ不都合ヲ生スル義モ可有之候得共右ハ從來ノ取扱振ニテ差支無之候ヤ將タ父母正婚後ト雖モ未タ父ノ籍ニ入ラサル私生子ハ總テ該公布但書ニ據ルニアラサレハ嫡出子ニ引直スコトヲ得サル義ニ有之候哉

内務司法兩大臣指令（二十七年四年二十八日）

繼令結婚後ト雖モ其生家ニアルト既ニ携帶シタルトニ拘ハラス明治六年第二十

一號布告但書ニ據ルニアラサレハ嫡出子ニ引直スヲ得サル義ト心得ヘシ

山口縣伺（二十七年四月十八日）

一長男廢嫡他家養子又ハ分家後二男死亡スルカ又ハ廢嫡セントスル場合ニ於テ曩キニ廢嫡セシ長男已ニ復歸シ居ル如キ廢嫡ノ事故止ミタルトキハ相續權ハ長男ニ在ルヤ將タ長男ハ一旦廢嫡シタルモノニ付再ヒ立嫡セサル上ハ相續權ハ順次三男又ハ長女等ニ移轉シ若シ長男ヲシテ立嫡セントスルトキハ三男又ハ長女ノ廢嫡ヲ要スルヤ

指令（二十七年四月三十日）

第一項　後段伺ノ通

山口縣伺（二十七年四月十八日）

一女戸主夫ヲ迎フルカ養子ヲ爲ストキハ直チニ戸主ヲ讓ルヘキ成規ナル處夫死亡長二男女等幼少ニシテ家事上差支フルニ付右子女ハ廢嫡スルニアラス追テ成長スルマテ自分戸主タランコトヲ願出ルモノハ許可シ可然哉又女戸主ニシテ二三男ヲ携帶分家スルトキハ其二三男女ハ順次相續權ヲ有スヘキノ處分家後直チニ戸主ヲ讓ラサルモ差支ナキ哉

指令（二十七年四月三十日）

第二項　前段後段共伺ノ通

山口縣伺（二十七年四月十八日）

一養家ヨリ直ニ他ノ絶家ヲ再興スルハ養父母兩名ヲ携帶スル義ニ付不相成旨嘗テ内務省指令ノ趣モ有之候處廢家他ノ養子トナル場合ニ於テ同時ニ養父母兩名ヲ有スルニアラサレハ養父母ヲ携帶スルヲ得ル點ヨリ考フルトキハ養家ヨリ直チニ絶家ヲ再興スルモ差支ナキ義ト心得然ルヘキ哉果シテ然ラハ同時ニ養父母兩名存在セサル限リハ養家ヨリ直チニ他ノ養子ト爲ル義モ差支無之哉

指令（二十七年四月三十日）

第三項　養子ハ一旦實家ニ復籍スルニ非サレハ絶家ヲ再興スルコトヲ得ス

京都府照會（内務省ヨリ合議）（二十七年四月六日）

第一項　爰ニ甲家戸主アリ其妻女子三人ヲ擧ケ死亡セシヲ以テ更ニ後妻ヲ娶リ二女ヲ擧ケ然ルニ故アリテ後妻離縁乙實家ヘ復籍ノ上戸主トナリ甲家ヘ在ル已レカ所生ノ二女ヲ編籍セリ此場合ニ於テ該二女甲家ニ在テハ其續柄四女五女ナルモ乙家ニ入テハ則チ戸主ナル母ヨリ續柄ノ生スルモノナルニ付無論長次女ノ位置ニ立ツモノト思考シ可然哉

民刑局長警保局長回答（二十七年五月二日）

第一項　母ノ籍ニ入ルモ續柄ヲ變スルモノニ無之ニ付戸籍額書ニハ元嫁家四女五女ト記シ可然

京都府照會（内務省ヨリ合議）（二十七年四月六日）

第二項　去ル明治二十四年十一月當府問合庶務局長回答第六七項ニ據レハ廢戸緣組等ノ際子女召連ントセハ連子ノ名義ヲ以テ入籍セシメ得ヘク尤モ其緣組者ナル妻又ハ養子女離緣ノトキハ携帶復歸セシムヘシトアリ右ハ妻又ハ養子女斷緣スルト同時ニ連子ニハ戸主ヨリノ續柄消滅スルカ故ト存セラレ候果シテ然ルトキハ入籍ノ上其妻又ハ養子女ノ存亡孰レヲ問ハス其連子ナルモノニ分家又ハ相續セシムルコト不相成筋ニ候ヤ

第三項　前項果シテ見込ノ通ニ候ハヽ一家アリ連子ヲ携帶セシ養子貰受ケ後嗣子ニ定メ更ニ其嗣子戸主トナルモ其遺子ニ相續權ナキハ勿論戸籍上續柄ハ單ニ連子ト記載シ置クヘキヤ

民刑局長警保局長回答（二十七年五月二日）

第二項　分家ハ勿論親族協議ノ上ハ相續セシムルヲ得ヘシ

第三項　相續權ナキハ御意見ノ通額書ハ携帶長次男ト記シ可然

滋賀縣照會（二十七年三月三十一日）

第一項　夫婦ノ内約ノミニシテ未タ戸籍ニ結婚ノ登錄無之内已ニ一子ヲ產シ而シテ其後公然結婚ノ手續ヲ爲シタル上尚又一子ヲ產シタル場合ニ於テハ戸籍登記ノ前後ヲ以テ兄ハ庶子トナリ弟ハ嫡出トナリ事實父母ヲ同フスレトモ嫡

庶ノ故ヲ以テ兄弟其位置ヲ顚倒スルハ穩當ナラサルニ付右ハ生母結婚ノ義屆出候上ハ渾テ嫡出ト爲シ不苦哉ノ旨明治十四年四月二十日福井縣ヨリ內務省ヘノ伺ニ對シ明治十八年二月二十三日伺ノ通ト御指令有之候處右伺ノ事實ハ前ニ擧ケタル子ハ父母結婚以前已ニ男子ニ於テ己レノ子ト認知シ父子ノ分限確定セルモノニ付（庶子トシテ父ノ籍ニ引取リタルモノ）其父母結婚ノ日ヲ以テ嫡出ト爲ルヘキモノト被存候就テハ縱令父母ヲ同フスルモノト雖モ前ニ出生ノ子ハ私生子トシテ母ノ籍ニ編入シ母婚嫁ノ後其夫タル男子ニ於テ己レノ子ト認メ引受ケタル場合ニ在テハ其之ヲ引受ケタルトキハ初メテ父子ノ分限確定シ嫡出トナルヘキモノト思考致シ候ニ付其引受以前已ニ出生ノ嫡出子アルトキハ其者ヲ以テ長男トシ後ニ引受ケタル子ハ年長者ト雖モ二男ト稱シ戶籍ニ登記可致筋ニ有之候ヤ

第二項　明治六年第二十一號布告但書ニ據リ私生子ヲ己レノ子ト認メ許可ヲ得テ庶子トスルヲ得ルハ其生兒カ生存ノ場合ノミニ限ラス已ニ死亡シタル私生子ト雖モ其私生子カ曾テ成長ノ後子女ヲ擧ケタルモノナルトキハ其子女ノ存在スルモノニ限リ其子女ノ爲メ之ヲ庶子トスルヲ得ヘク候ヤ又ハ右果シテ庶子トスルヲ得ヘク候得ハ其庶子ノ子ハ男子ニ於テ（庶子ノ父）必ス己レノ籍ニ引取ルヘキモノニ候ヤ

民刑局長
警保局長　回答　（二十七年五月十四日）

右ハ總テ御見込ノ通ニテ可然

岡山縣照會（二十七年三月二十八日）

第六項　婦妻（夫死亡且他女ニシテ父家ヲ相續セサルモノ）ニシテ分家シタル姓氏ハ生家ノ姓ヲ稱スヘキカ將タ嫁家ノ姓氏ヲ冒用スヘキ筋ニ候ヤ

第十三項　祖先累代ノ通字ニ改名シ得ルハ名乘ヲ稱用セルモノニ限リ假令ハ舊家等ニテ忠太郎、忠太夫、忠吉等忠ノ字ヲ代々通稱セルモノノ如キハ累代通字ヲ以テ改名スルヲ得サル義ニ候ヤ

民刑局長
警保局長　回答　（二十七年五月十四日）

第六項　後段御意見ノ通

第十三項　改名ヲ許シ苦シカラス

岡山縣照會（二十七年三月二十八日）

第七項　實母（亡父妻）離縁實家ヘ復歸後更ニ戸主ノ叔伯父ノ妻（亡兄遺妻ニ付結婚特許ヲ受ケタルモノ）ニ入嫁シタルトキハ其離縁實母ヲ伯叔父ノ妻ト額書スヘキヤ

第十七項　前夫子ヲ後夫ノ嗣子ニ確定已レノ長男トシ相續セシメタル其肩書ハ繼父ヲ父ト稱シ（亡父名長男父名繼父長男）ト併記スヘキ筋ニ候ヤ

民刑局長警保局長回答（二十七年五月十四日）

第七項　額書ヲ母トシ肩書ヲ伯叔父妻ト記スヘキモノトス

第十七項　養父名（即繼父）養嗣子ト記ス

岡山縣照會（二十七年三月二十八日）

第九項　養嗣子ニアラスシテ家女ノ妻ヲ離婚スル場合ハ願濟セシムヘキ筋無之候ヤ

民刑局長警保局長回答（二十七年五月十四日）

第九項　御意見ノ通

岡山縣照會（二十七年三月二十八日）

第十四項　甲ノ妹ヲ乙ノ妻ニ又タ乙ノ妹ヲ甲ノ妻トスルハ差支無之哉

第三十三項　長女縁女ニ配偶セシムヘキ聟養嗣子ヲ廢嫡シ他ノ養子ヲ以テ嗣子トスル場合ハ同時ニ其縁女ヲ解縁スルカ將タ廢嫡セシメサルヲ得サル筋ニ候ヤ果シテ然ラハ其解縁若クハ廢嫡セル長女ヲシテ更ニ嗣子ニ確定セル養子ニ配偶若クハ其縁女トナサンカ爲メ一旦他ノ養女トシ更ニ養嗣子ノ妻トシ入籍セントスルモ異倫ノ結婚ニ係ルヲ以テ其廢嫡セル養子ノ養家ニ存在中ハ結婚スルヲ得サル筋ニ候ヤ

民刑局長
警保局長　回答　（二十七年五月十四日）

第十四項　御意見ノ通

第三十三項　前段解縁又ハ廢嫡ヲ要セス後段解縁ノ上更ニ定メタル養嗣子ノ配偶若クハ縁女トスルニハ他ノ養女ト爲スヲ要セス

岡山縣照會　（二十七年三月二十八日）

第十五項　妹ニ夫ヲ迎ヘタル後退隱シ其實父再相續シタルトキ該父ヨリ家女ノ夫（前戸主ノ妹ノ夫）ヲ聟養子ト稱スヘキヤ

第二十二項　私生子ノ男子ヲ己レノ子ト認メ庶子トシ父籍ニ編入後更ニ生母（女戸主）ノ實子トシテ引受クル場合ノ續柄ハ夫子トスヘキヤ將タ夫ノ庶子男、女トスヘキ筋ニ候ヤ

第三十二項　尊親屬トハ高祖父母、祖父母、父母、伯叔父母、兄姉ナルカ將タ其父母ヨリ始親ニ至ル親系卽チ高祖父母、曾祖父母、祖父母、父母ニ限リ候ヤ又タ卑屬トハ子、孫、弟、妹、甥、姪等ナルカ將タ子孫ニ至ル直系卽チ子孫ニ限リ其他直系ニアラサル伯叔父母、甥、姪、從兄弟等ヲ傍系ノ親屬ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

民刑局長
警保局長　回答　（二十七年五月十四日）

第十五項　戸籍ニハ單ニ養子ト記ス

第二十二項　私生子ト額書ス

第三十二項　尊屬親卑屬親トハ傍系親ヲ包含ス

富山縣照會　（二十七年五月一日）

數人ノ男子ヲ有スル者最初二男ヲ他家ノ養子ト爲シ爾後長男ヲ願濟廢嫡ノ上他ヘ養子ニ遣ハシ三男ヲ以テ嗣子ニ定メタル後三男死亡シ其際四男ヲ以テ嗣子ト爲スノ屆出ヲ爲サヽルモ相續權ハ當然四男ニ移リタルモノト被存候然ル三男死亡後未タ四男ノ公定嗣子タル手續ヲ爲サヽルトキ二男養家離縁復籍セリ此場合ニ於テハ二男ヲ嗣子ト爲シ得ヘキ歟將タ一旦他家養子ト爲リ當時相續權ヲ失シタルモノニ付無論四男ヲ嗣子ト定ム可キ歟

民刑局長回答　（二十七年五月十七日）

四男ヲ未タ嗣子ニ定メサル前二男復籍シタル場合ニ於テハ二男ヲ嗣子ニ定ムヘキモノト思考ス

山口縣照會（二十七年五月七日）

一、長二三男及孫其他老幼ノ家族ヲ有スル老年戸主アリ從來漁業稼ヲ爲シ長二三男ノ助力ヲ以テ生活スルモノニ有之候處客年十月出漁ノ際暴風ノ爲メ長二三男共行衛不分明ニ付失踪屆出ノ處素ヨリ漁業ヲ以テ漸ク糊口ヲ凌クヘキ赤貧者ニシテ一家ノ柱石タル成年ノ者ヲ失ヒ目下生活上困難ニ付糊口ノ目途ヲ立ツル爲メ一家ノ都合ニ依リ親族協議ノ上老年戸主退隱失踪ノ長二三男ヲ廢嫡シ孫ヲ以テ跡相續爲致度旨請願スルモノ有之事情憫然ノ次第ニ候得共右ハ實際如何ナル事情アリト雖モ失踪後十箇月ヲ經過セサレハ廢嫡不相成義ニ候也

二、長二三男アルモノ廢嫡ノ許可ヲ得スシテ養嗣子ヲ貰受ケ已ニ戸籍ニ登記セシモノ有之右ハ廢嫡ノ許可ヲ得サルモノニ付養嗣子ノ入籍ハ無效ニ屬スルヤ將タ又許可ヲ得サルモ戸籍ニ登記ノ上ハ自然長二三男ハ廢嫡ニ屬シ養嗣子ノ入籍ヲ無效トスル義ハ不相成義ニ候也

民刑局長回答（二十七年五月二十四日）

第一項　事實明確ナルニ於テハ死亡者ニ準シ跡相續聞屆相成然ルヘシ

第二項　入籍ニ付親族間異議ナキ限リハ其儘差置然ル可シ

山口縣照會（二十七年五月七日）

三、離緣ノ養女ヲ妻ニ娶ルハ不相成候處離緣セシ妻ヲ更ニ養女ニ貰受クル等モ等シク倫理上穩當ナラサルニ付不相成義ト心得可然哉

民刑局長回答（二十七年五月二十四日）

第三項　御意見ノ通

山口縣照會（二十七年五月七日）

四、父ノ離緣セシ實母ヲ孝養ノ爲メ分家後其籍ヘ引取ルハ父存生スト雖モ父ト同籍セサルヲ以テ差支無之ヤ又ハ父死亡後ニアラサレハ假令籍ヲ同フセスト雖

モ入籍不成義ニ候ヤ

民刑局長回答（二十七年五月二十四日）

第四項　父生存中ト雖モ、親族協議出願ノ上ハ入籍聞屆相成然ルヘシ

岡山縣問合（二十七年四月十日）

第一項　裁判宣告ニ係ル戸籍加除異動等ハ屆出期限ナキヲ以テ戸籍取扱手續第十條ニ依リ其宣告月日ヲ記セス屆出月日ヲ登記スヘキ筋ニ候ヤ

第三項　男子ヲ有セサル養戸主ノ長女ヲ養父ノ長男（戸主ノ養弟）ニ配偶セシムル爲メ其長女ヲ一旦他ノ養女トシ更ニ入籍スルト同時ニ該長男ヲ繼嗣者ニ確定スル場合ノ長女額書ハ其儘登記シ其養弟額書ヲ養弟トスヘキカ將タ猶子ト記載スヘキ筋ニ有之候ヤ

第五項　女戸主ヨリ亡夫ノ亡前妻ノ子女（亡父ノ長男女）ヲ亡夫ノ子ト額書シ亡夫名長男女ト肩書シ又亡夫ノ後妻卽女戸主ノ實子女（亡夫ノ二男）ノ肩書ヲ亡夫名二男トシ其額書ハ長男ト稱シ登記スヘキヤ

第八項　養實戸主ノ養實姉妹ニ夫ヲ迎ヘ戸主ノ相續人トシ相續セシメタル該戸主ヨリ妻（家女）ノ尊族及傍系親ニ對スル續柄ハ妻ノ父母兄弟姉妹トシ得ヘキカ將タ養父母兄弟姉妹ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

第九項　長女ニ聟養嗣子ヲ貰受ケ相續セシメタル後該養戸主ヨリ妻ノ父母ヲ養父母トシ其傍系親ヲ妻ノ兄弟姉妹トシ得ヘキカ將タ養兄弟姉妹ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

第十項　緣女ヨリ其未婚夫ヲ夫トシ得ヘキカ將タ未婚夫ト稱スヘキヤ

第十二項　長女ヲ養嗣子ニ配偶セシムル爲メ該長女ヲ一旦他家ノ養女トナシ更ニ入籍セシムル場合ハ依然長女ト額書スヘキ義ニ候ヤ

第十五項　妻ノ實家ノ弟妹ヲ養子女トナシタルトキハ其姉（戸主ノ妻）ヲ養母ト稱スヘキヤ

第十六項　傍系者ヲ有スル女戸主ニシテ夫ヲ迎ヘ繼承セシメタル該戸主ヨリ其傍系者ヲ養兄弟姉妹ト稱スヘキヤ

第十八項　孫女ニ夫ヲ迎ヘタルトキハ孫聟トシ得ヘキカ將タ孫夫ト稱スヘキヤ

第十九項　長孫ニ妻ヲ娶リタルトキハ孫婦トスヘキカ將タ孫妻ト稱スヘキ義ニ候ヤ

第二十一項　外孫ヲ以テ繼嗣ニ確定シ入籍同時ニ孫女ノ聟養嗣子トナス場合ノ孫女ノ額書ヲ婦ト登記スヘキ筋ニ候ヤ

民刑局長
警保局長　回答　（二十七年五月二十六日）

第一項　屆出ノ日ヨリ效力ヲ生スヘキモノハ御見込ノ通

第三項　血緣ナキ叔姪ナラハ特別ノ事情アルモノニ限リ結婚聽許相成可然養弟額書ハ相續人ト記シ其妻ハ普通結婚入籍者ノ例ニ同シ

第五項　前妻ノ子ト己ノ子トヲ分タス長次男女ト額書シ亡夫名義男女ト肩書ス

第八項　後段御意見ノ通

第九項　後段御意見ノ通

第十項　稱呼ナキモノトス

第十二項　婦ト額書ス

第十五項　御見込ノ通

第十六項　御見込ノ通

第十八項　養孫ト稱ス

第十九項　前段御見込ノ通

第二十一項　孫女ニ配偶スル者ニ付養孫トシテ入籍セシムヘク其孫女ノ額書ハ更ムルニ及ハス養孫名妻ト肩書スヘキモノトス

岡山縣照會　（二十七年四月十日）

第二項　子女ナキ實養戸主退隱シ其實養父母再相續シタル場合ノ退隱者ハ其事故ノ解否ニ不拘更ニ嗣子ノ確定屆ヲ爲サヽル以上ハ嗣子權ヲ享有セサル筋ニ候ヤ

第四項　曾テ廢嫡他ノ養子ニ送籍セル長男離緣復歸シ其家ニ女子ノミナルカ若クハ子女アラサルトキハ自ラ該長男ニ於テ嗣子權ヲ享有スヘキカ將タ嗣子ノ確定屆ヲ爲サヽル以上ハ其權利ヲ有サセル筋ニ有之候ヤ

第七項　分家戸主ノ嫡子孫ヲシテ子女ナキ本家戸主ノ死跡ヲ繼承セシムル場合

ハ該長男ノ廢嫡ヲ要セス直ニ届出ニ就キ送籍シ得ル義ニ候ヤ

第十一項　養嗣子ヲ有スル女戸主ニシテ養嗣子幼弱ノ爲メ夫ヲ迎ヘテ相續セシメ該養嗣子ヲ嗣子ニ確定スル場合ハ依然養嗣子トシ得ヘキカ將タ長男ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

第十三項　子女ナキ戸主ニシテ豫メ其養實兄弟(長男女ヲ有ス等ヲシテ相續人ニ確定シ得ヘキ筋ニ候ヤ果シテ然ラハ右確定後該戸主ニ於テ實子女ヲ擧クルモ勿論其子女ハ嗣子權ハ無之儀ニ候ヤ

民刑局長
警保局長回答　(二十七年五月二十六日)

第二項　御見込ノ通

第四項　子女ナキトキハ前段御見込ノ通子女アル場合ハ後段御見込ノ通

第七項　廢嫡願ヲ要ス

第十一項　前段御見込ノ通

第十三項　前段弟ハ相續人ニ豫定スルヲ得ヘシ兄ハ不相成後段御見込ノ通

岡山縣照會　(二十七年四月十日)

第六項　養子女又ハ婦妻ニシテ其携帶セル子女ハ其父母離縁ノ際携帶復歸スルカ將タ實家戸主ノ親族入籍ニ相當スルモノヽ外其實家ヘ復歸モシムルコトヲ得サル筋ニ候ヤ

第十七項　養父母並養兄弟等ヲ有スル養戸主家計窮迫維持ノ目的ナク且其尊族等ハ老幼等ニシテ自活シ能ハサル場合ハ廢家シ該尊族等携帶復歸シ得ヘキ義ニ候ヤ

第二十項　養子(嗣子ニアラス)其妻(家女)携帶分家離縁復籍スル場合ハ出願セシムヘキ事柄ニ有之候ヤ、

第二十三項　婦妻若クハ養子女等離縁他ノ養子女又ハ改嫁スルニ際シ其實家廢絶セル場合ハ一旦斷縁ノ上直ニ該家ヨリ送籍スルコトヲ得ヘキ義ニ候ヤ

民刑局長
警保局長回答　(二十七年五月二十六日)

第六項　前段御見込ノ通

第十七項　御見込ノ通

第二十項　御見込ノ通

第二十三項　御見込ノ通但實家ノ氏ヲ採用スヘキハ勿論ノ義トス

岡山縣照會（二十七年四月十日）

第十四項　棄兒ヲ拾ヒ揚ケテ戸籍ニ登錄スヘキ月日ハ其旨告知ニ依リ該市町村長ニ於テ立會本人骨格等ヲ檢査シ一旦市町村ノ戸籍ニ登記ノ處分ヲ爲シタル月日ニ有之候ヤ

民刑局長
警保局長　回答（二十七年五月二十六日）

第十四項　現ニ拾上ケタル年月日ヲ記ス

岡山縣照會（二十七年四月十日）

第二十二項　女戸主貧窮ノタメ無止廢家シ他ヘ改嫁ノ際一旦其實家ヘ復歸セスシテ直ニ嫁家ヘ送籍スルヲ得サル筋ニ候ヤ

民刑局長
警保局長　回答（二十七年五月二十六日）

第二十二項　廢家再嫁ハ實家ヘ復歸スルニ及ハス

京都府伺（二十七年五月二十三日）

一、後見人ノ人員ニ關シテハ未タ法律上ノ規定ナシト雖モ通常一人ニ限ルヘキコト勿論ト相考候處地方舊來ノ慣行ニ依リ若クハ財產管理上ノ必要等ニ依リ親族協議ノ上二人以上ノ後見人選定屆出候モノ往々有之右ハ別段制限モ無之義ニ付市町村長ハ其儘受理シ可然ヤ若シ如何ナル事情アルモ二人以上ヲ置クヘキモノニ非ストセハ從來屆出タルモノニシテ二人以上ノモノハ此際總テ一人ニ改メサセ候義ト心得可然ヤ

二、後見人甚シキ不行跡アルカ又ハ不能若クハ不正實等ノ事由ニ依リ解任セントスル場合ニ於テ其後見人解任ヲ肯ンセサルトキハ遂ニ司法處分ヲ仰クニ至ルヘシト雖モ元來後見人ハ親族ノ協議ヲ以テ選任スヘキモノナルニ付市町村長ニ在テハ其諾否及改選ノ當否ヲ問ハス親族連署ヲ以テ屆出ルトキハ有效ニ其屆書ヲ受理スヘキコト勿論ト相心得可然ヤ

指令（二十七年六月七日）

第一項　後段伺ノ通

第二項　伺ノ通

茨城縣照會（二十七年六月四日）

一、長女ニ壻養子ヲ迎ヘ一女子ヲ擧ク然ルニ事故アリテ該養子ヲ離縁シタル後再ヒ壻養子ヲ迎ヘントスルトキハ長女ノ前夫子則一女子ノ廢嫡ヲ要スル義ニ候ヤ又ハ該長女ハ素相續者ナルニヨリ再ヒ壻養子ノ入籍ハ一女子ノ廢嫡ヲ要セサル義ナルヤ

一、前項廢嫡ヲ要スル義ニ候ハヽ其相續者ハ孫則一女子ヲ承祖孫ノ地位ニ置キ相續者ニ無之壻養子ヲ迎フルハ普通ノ壻養子ヲ爲ス場合ノ手續ニテ屆出ニ止メシメ差支無之候ヤ

民刑局長回答（二十七年六月九日）

第一項　前段御見込ノ通

第二項　御見込ノ通

德島縣伺（二十七年六月二十三日）

茲ニ妻子（男女二兒）ヲ有スル戸主失踪（其弟アルモ是亦數ケ月前失踪）ノ者アリ一箇年餘ヲ經過スルモ復歸セサルヨリ遺族殆ント饑餓ニ頻スルノ場合ニ立至リ候ニ付親戚協議ノ上其遺妻離婚ノ上子女携帶復籍ノ義願出ノ者有之然ルニ其男兒ハ失踪者ノ跡相續ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ容易ニ難聞屆筋ト存候得共右等事情不得止モノハ特ニ聽許不苦哉

指令（二十七年六月二十八日）

失踪者ノ跡相續ヲ爲スヘキ子女ハ之ヲ携帶スルヲ得サル義ト心得ヘシ

京都府問合（二十七年七月十九日）

長女ヲ有スル女戸主後夫ヲ迎ヘタルニ其後夫長男ヲ連子トシテ携帶シ其後親族協議ノ上其連子ヲシテ家督相續セシメタル場合ニ於テハ連子ト父ノ配偶者トハ

自然養母子ノ關係ヲ生シ隨テ其長女ハ養姉妹トナルヘキ筈ト存候處果シテ然ラハ右連子相續ノ上ハ假令血緣ナシト雖モ長女ト結婚不相成コト勿論ト被相考候得共聊カ疑義ニ亘リ候

民刑局長回答（二十七年八月十八日）

右ハ長女ヲ一旦他家ノ養女ト爲シ更ニ結婚スルハ差支ナキ義ト思考ス

内務大臣照會（二十七年七月十日）

養子戸主又ハ入夫戸主離緣復籍ノ件ニ關シ其復籍セントスルニハ必ス先ツ跡相續人ヲ定ムヘキハ本則ニ可有之モ福島縣照會ノ場合ノ如キハ夫婦ノ外他ニ相續者ナク妻ハ夫ト同籍ニ在ル間ハ相續ヲ爲スヲ得サルノ慣例ナルヲ以テ離緣復籍ニ先チ跡相續人ヲ定ムルヲ得サルノ事情アリ又戸主死亡ノ場合ニ於テ相續猶豫期間ヲ與フル以上ハ戸主離緣ノ場合ト雖モ特別ナル事情存スルモノニ限リ相當ノ猶豫期限ヲ與フルハ至當ノ義ト思考セラルヽノ旨御回答有之候處一旦家督ヲ相續シ戸主トナリタル以上ハ永久ニ其家ヲ保續スヘキ義務アルヲ以テ戸主タル者ハ如何ナル事情アル場合ト雖モ相續者ヲ定ムルニアラサレハ戸主ヲ罷ムルヲ得サルモノニ有之戸主死亡ノ場合ノ如キハ一家ノ保續者卽チ跡相續人ヲ定ムヘキ義務アル者已ニ死亡シ其責務ヲ果サシムルヲ得サルノ故ヲ以テ其遺族ヲシテ戸主ヲ選定セシムル爲メ相當ノ猶豫期間ヲ與フルモノニシテ相續者ヲ定ムヘキ義務者ノ現存スル場合ニ對シ猶豫期間ヲ與ントスルノ引例トハ難相成元來特例ヲ用フルハ一般ノ規則ヲ以テ律スルヲ得サル卽チ特例ニ依ルヲ要スル著大ノ理由ナカルヘカラス福島縣照會ノ如キハ卽チ然ラス同場合ノ如キ相續人ヲ定メタル上ニアラサレハ離緣復籍スルヲ得ス但夫ノ離緣復籍スルトキノ如キ同籍ニ在ラサル場合ハ妻ヲシテ相續セシムルヲ得ルモノトシ夫ノ送籍ト同時ニ妻ヲシテ戸主タラシムルニ於テハ毫モ差支ナク一般ノ規則ニ依ラシムルヲ得ヘク決シテ特例ヲ用ヒサルヘカラサルノ必要ハ無之義ニ有之假令離緣ヲ屆出ルモ跡相續者ヲ定メサル間ハ數十年準用セル慣例モ有之候次第ニ付戸籍上復籍ヒシメ難キモノト思考致候條御再考相成度此段重ネテ及御照會候也

司法大臣回答（二十七年九月二十六日）

養子戸主又ハ入夫戸主離縁復籍セントスル場合ニ在テハ通例跡相續人ヲ定ムルハ戸主ノ義務ニ可有之候得共福島縣照會ノ場合ノ如キハ妻ノ外他ニ相續人タル可キモノナク且速ニ離縁復籍ヲ要スル事情等アルニ於テハ妻ヲシテ相續セシメントスルモ妻ハ夫ト同籍ニ在ル間ハ夫ノ跡相續ヲ爲スヲ得サルヲ以テ直チニ妻ヲ以テ跡相續人ト爲スコトヲ得ス故ニ戸主ヲシテ跡相續人ヲ定メ戸主タル義務ヲ盡サシムルコト能ハサルヲ以テ本件ノ場合ノ如キハ特例ニ屬スヘキモノニ付戸主死亡ノ場合ト同シク相續人選定ノ爲メ相當猶豫期間ヲ與フルコト至當ナルヘシ又夫ノ離縁送籍ト同時ニ妻ヲシテ相續セシムルハ差支ナキカ如シト雖モ夫ニシテ離縁復籍ノ手續終ラサル間ハ仍ホ戸籍上夫妻タルノ關係ヲ有スヘキモノニ付夫ヲシテ必ス送籍ト同時ニ妻ヲ跡相續人ニ定メシムルヲ得サル義ト思考ス

滋賀縣伺（内務省ヨリ合議）（二十七年八月一日）

第二條　家族ノ遺留財産ハ失踪ト死亡トヲ問ハス二十四箇月經過ノ後ハ前戸主所有ニ係ルモノハ當戸主ニ於テ相續シ其他ノ所有ニ係ルモノハ子孫ニ子孫ナキモノハ配偶者ニ配偶者ナキモノハ當戸主ニ於テ相續スヘキモノナル乎果シテ然ルモノトスルトキハ失踪者ニ數子アル場合ニ在テハ家督相續ノ順序ニ依リ相續可致筋ニ有之候ヤ

但財産ノ所有權ヲ繼承スヘキモノカ承諾シタル上ハ戸主ニ於テ本文ノ順序ヲ變更スルモ妨ケ無之候ヤ

内務大臣　司法大臣指令（二十七年九月二十七日）

第二條　失踪ノ場合ニ於テハ除籍ノ日ヨリ五箇年間保管ノ後又死亡ノ場合ニ於テハ二十四箇月ノ經過スルヲ待タス直チニ遺産ヲ相續スルコトヲ得其相續方ハ總テ伺ノ通

山口縣問合（二十七年九月二十九日）

一去二十年八月二日附愛知縣知事伺第三條第四條ニ對シ同年十一月三十日附内務司法兩大臣御指令ノ旨ニ據レハ分家後妻ヲ娶リ男子ヲ擧ケタル後分家前嘗テ養家ニ於テ擧ケタル男子ヲ分家ニ引取リタルトキハ長幼ニ從ヒ長男二男三

男ト額書シ相續順序モ之レニ由ル義ニ有之然ルニ去二十四年十一月二十五日附京都府知事伺同年十二月二十四日附兩大臣御指令第四項ニ據レハ分家後入籍セシ長男ハ更ニ嗣子ト定メサレハ分家ノ際携帶セシ長女ニ先ツテ相續權ヲ有セサル趣ニ有之前後ノ御指令聊カ矛盾セシ哉ニ被相考候處如何心得可然哉

民刑局長回答（二十七年十月十九日）

第一項　明治二十年八月愛知縣伺ニ對スル指令ハ明治二十四年十一月京都府伺ニ對スル指令ニ依リ變更セラレタルモノトス

山口縣問合（二十七年九月二十九日）

第二項　甲家ヨリ乙家ノ養子ニ入籍相續シ丙家ノ女ヲ娶リ一男子ヲ擧ク然ルニ乙家ヘ入籍前ニ於テ右丙家ノ女ト私通シ私生子ヲ擧ケ已ノ子ト認メ已ニ庶子トシテ實家卽チ甲家ノ籍ヘ引取リタルモノアリ右庶子ヲ更ニ乙養家ノ籍ヘ引取リタルトキハ其父母ハ已ニ結婚セルヲ以テ嫡出子タルヘキニ付右庶子ヲ長男トシ乙養家ニ於テ擧ケタル長男ハ二男ニ訂正スヘキ哉但乙養家ニ於テ擧ケタル長男ハ出生ノ際已ニ相續權ヲ有スルモノニ付二男ニ訂正スルニ拘ハラス相續權ハ依然乙養家ニ於テ擧ケタル男子ニ存在スルハ勿論ニ可有之哉

民刑局長回答（二十七年十月十九日）

第二項　庶子ハ其母正婚ノ日ヨリ嫡出子タルヘキモノニシテ出生ノ日ニ遡リ其權利ヲ得ヘキモノニ非サルヲ以テ養家ノ長男ニ先チ相續權ヲ有セス隨テ戸籍ニハ年長者ト雖モ次男ト記載スヘキモノトス

三重縣照會（二十七年十月一日）

一、親族中結婚スヘカラサルモノ

一、養繼父母及養繼父母タリシモノ

二、繼父母ノ子女

三、繼父母ノ兄弟姉妹

四、養子ノ兄弟姉妹

五、兄弟姉妹ノ養父母

六、配偶者タリシモノヽ子女
七、養兄弟姉妹
八、養實子孫ノ配偶者タリシモノ
九、養兄弟姉妹ノ子女
十、養實父母ノ兄弟姉妹
十一、配偶者タリシモノヽ父母
十二、兄弟ノ配偶者タリシモノ
但其者ト結婚セサレハ一家ノ浮沈ニ關スル等至重ノ事アリ特ニ官許ヲ得タルモノハ此限リニアラス
十三、子女ノ配偶者ノ兄弟姉妹
十四、兄弟ノ配偶者ノ父母

民刑局長回答（二十七年十月二十六日）

親族中相互ニ結婚スルコトヲ得サル者ハ大略御意見ノ通ト存候得共左記ノ者ハ特許ノ上結婚許可相成然ルヘキ義ト思考ス

一、血縁ナキ兄弟姉妹及伯叔父姑甥姪
右ハ特別ノ事情アルモノニ限リ聽許スヘキモノ
一、伯叔父母甥姪ノ前配偶者
右ハ離縁セシ場合ノ外特別ノ事情アルモノニ限リ聽許スヘキモノ

長崎縣照會（二十七年十月十五日）

長女ヲ有スル戸主明治十六年中ニ死亡シ該長女ハ父死亡前明治十四年ニ於テ失踪シ親戚中ニモ相續セシムヘキモノ無之趣ヲ以テ親戚協議ノ上失踪ノ長女ヲ廢嫡シ他ヨリ相續セシメ度段願出ツルモノアリ然ルニ明治十八年鹿兒島縣伺ニ對シ單身戸主失踪逃亡ノ場合ニ於テハ相續方不相成旨内務省指令有之右ニ依リ推考スレハ假令戸主ニ非スト雖モ失踪ノ長女ヲ廢嫡シ他人ヲシテ相續セシムル義モ許可難致樣被考處分方疑義ニ渉リ候條何分ノ御回報相成度候

民刑局長回答（二十七年十月二十六日）

右ハ已ムヲ得サル事情アル場合ニ於テ親族協議ノ上出願セシトキハ聽許相成可

然義ト思考ス

三重縣問合（二十七年十一月八日）

一、血緣ナキ兄弟姉妹及伯叔父姑甥姪ニシテ特別ノ事情アルモノハ聽許スヘキ趣
然レハ養兄妹等續柄ノ儘結婚セシムル趣旨ニ候哉
但伯叔父姑トハ伯叔父母ノ意ナルカ

一、前項果シテ然ラハ一且養兄妹等ノ續柄ヲ生シタルモ既ニ斷緣ノ上ハ隨テ其稱
呼消滅ニ付是等ハ無論出願セシムルヲ要セサル義ニ候哉

一、伯叔父母甥姪ノ前配偶者ハ離緣セシ場合ノ外特別ノ事情アルモノトハ前配偶
者生存スルモノハ許可セサル趣意ニ候哉

刑民局長回答（二十七年十一月二十四日）

第一項　特別ノ事情アルモノニ限リ聽許スヘキ場合ト雖モ續柄ノ儘結婚セシム
ル旨趣ニハ無之一且實家ニ復籍シ又ハ他家ノ養女等ト爲シタル上結婚セシム
ル義ニ有之候

但書御見込ノ通

第二項　一且養兄妹等ノ續柄ヲ生シタル者ハ斷緣ノ上ト離モ其結婚ニ付テハ出
願ヲ要スヘキモノトス

第三項　御見込ノ通

千葉縣照會（二十七年十一月十九日）

戸主死亡遺族ハ長男女ノミナルモノ及戸主失踪其妻及長男女等アルモノ一家維
持上長男幼少ノ故ヲ以テ長女ニ聟養子ヲ迎ヘ相續セシメントシ右長男廢嫡ノ義
親族又ハ尊屬ヨリ願出タルモノ有之候處戸主死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テハ廢嫡
スルヲ得サル義ト存候得共判明不致候ニ付否ヤ御回報相成度候

民刑局長回答（二十七年十一月二十九日）

第一戸主死亡シ其長男女アルモ長男幼少ナルヲ以テ長女ニ聟養子ヲ爲サントス
ルトキハ明治九年太政官第五十八號達ニ依リ養子ヲ爲スヘキモノニ付キ事情
止ヲ得サルモノニ限リ廢嫡聽許相成然ルヘシ

第二戸主失踪シ其妻及ヒ長男女アルモ長男幼少ナルヲ以テ長女ニ聟養子ヲ爲サントスルトキハ失踪後十箇月經過ノ上親族協議出願シ事情止ムヲ得サルモノニ限リ廢嫡聽許相成然ルヘシ

山口縣問合（二十七年十月二十九日）

實家ニ在ル子女ヲ分家及ヒ養家ヘ引取リタル場合其相續權等ニ關シ客月二十九日附問合ニ對シ本月十九日附御回答ノ趣了承致候然ルニ第二項庶子ハ其母正婚ノ日ヨリ嫡出子タルヘキモノ云々ト有之由テ考フルニ曩ニ御問合セ及ヒタル場合ハ實家ニ在ル庶子ヲ養家ニ引取リタルハ養家ニ於ケル長男出生後ナルモ其父母ノ正婚セシハ養家長男出生前ナルヲ以テ其際右庶子ハ已ニ嫡出子タルヘキモ其當時父母ト籍ヲ同フセサルヲ以テ依然庶子ヲ以テ取扱ヒ父母ノ籍ヘ引取リタルトキヲ以テ始メテ嫡出子ノ取扱ニ爲スヘキ義ナルヤ果シテ然リトスル甲家ノ二三男妻ヲ娶リ長男ヲ擧クルノ後チ其長男ヲ遺シ夫妻共乙家ヘ養子入籍更ニ長男ヲ擧ケタル後右實家ヘ遺シタル長男ヲ乙養家ヘ引取リタル場合ハ最前及御問合候如ク養家ノ長男ハ二男ニ訂正而シテ相續ノ權ハ依然其二男ニ存スル哉

民刑局長
警保局長　回答（二十七年十一月三十日）

一、前段庶子カ父母正婚ノ日ヨリ嫡出子ト爲ルハ父母ト同籍ニ在ル場合ニ限ルモノニシテ若シ同籍ニ在ラサル場合ニハ庶子ヲ父母ノ籍ヘ引取リタル時ヨリ嫡出子タル身分ヲ得ルモノトス

一、後段長男ヲ擧ケタル後他家ノ養子ト爲リタル場合ニ於テハ養家ノ相續權ハ養家ノ長男ニ屬シ戸籍ニハ養家ニテ擧ケタル長男ノ次ニ實家ヨリ引取リタル長男ヲ實家長男ノ名稱ヲ以テ記載スヘキモノトス

岩手縣伺（二十七年十一月二十七日）

嗣子タル者壯年ニ及ヒ實子ナキ場合ノ外非戸主タル者ハ養子致候義不相成旨明治十年二月中内務省ヨリ福島縣ヘ指令ノ趣モ相見候處右嗣子タルモノ壯年ニ及ヒ實子ナキカ爲メ養子ヲ爲サントスル場合ハ單ニ市町村長ニ屆出ノミニテハ不相成モノトシ先ツ其事實ヲ具シ出願セシメ無餘義モノト認メル分ニ限リ聽許候

義ト相心得可然哉

指令（二十七年十二月七日）

嗣子タル者壯年ニ至ルモ尚ホ實子ナキ時該家繼承ノ爲メ養子ヲ爲スモノニ限リ聽許スヘキ義ト心得ヘシ

德島縣問合（二十七年十二月六日）

戸籍上ニ唱フル所則九年第五十八號公達等ノ寡婦トハ先夫ノ死別シタルモノ而已ニ對スル名稱ニ候ヤ將タ先夫ノ離緣者ニ對シテモ亦寡婦ト稱スヘキヤ一般ノ定義モ有之候ハヽ御示シ相成度此段及御問合候也

民刑局長回答（二十七年十二月二十日）

右ハ場合ニ依リ區別可有之モ通例後段御見解ノ通ト思考ス

長崎縣伺（二十五年十二月二十八日）

華士族家督相續ノ義ニ付テハ明治六年第二十八號布告ノ旨モ有之總領男子ニ於テ不得止事故アルモノハ素ヨリ廢嫡聽屆可然存候得共他ニ事故アルモ非ラス長男ハ分家セシメ二三男ヲシテ相續セシムル地方ノ習慣アル趣ヲ以テ廢嫡出願スルモノハ聽許スヘキ隙ニ無之義ト相心得可然哉尚ホ平民家督相續ノ義ニ付明治八年五月廣島縣伺ニ對シ同年十月御省御指令ノ趣モ有之立嫡違法律廢滅ノ今日ニ在テハ據ルヘキ成規モ無之ニ付平民廢嫡ノ如キハ特許ヲ要セサル義ト相心得可然哉

指令（二十六年一月十二日）

平民家督相續廢嫡等ノ義ハ華士族家督相續法ニ準據スヘキ義ト心得ヘシ

三重縣照會（二十六年一月九日）

亡兄ノ遺妻其ノ弟ト結婚ノ義ニ付テハ明治十六年十二月二十日付內務大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之然ルニ亡弟ノ遺妻其ノ兄ト結婚ノ義モ右訓令ニ準シ取扱可然

哉

民刑局長回答（二十六年一月十三日）

右亡弟ノ遺妻ト結婚ノ如キ凡ソ倫理上ニ關スルモノハ亡兄遺妻ト結婚同樣事實ヲ具シテ御伺ノ上許可相成ヘキ義ニ有之候

石川縣伺（二十六年一月十二日）

女戸主ニ入夫ヲ迎ヘ該入夫家督相續ノ後ハ妻ノ父母存亡ニ拘ラス養ノ字ヲ用ユルハ曾テ御指令モ有之候得共妻ノ姉妹ニハ養ノ字ヲ用ヰサル義ナルヤ

指令（二十六年一月二十日）

妻子ヲ除キ他ノ家族ニハ養ノ字ヲ附スヘキ義ト心得ヘシ

山形縣伺（二十六年一月二十四日）

實子ナキモノ二人ノ養子ヲ貰受ケ第一養子ヲ嗣子ト爲シタル後長男出生セリ然ルニ第一養子死亡シタル場合ニ於テ第二養子又ハ長男ヲ選定シ相續者トナスハ差支無之ト存候處茲ニ相續ノ順位上ヨリ考フルトキハ第二ノ養子未タ嗣子ニ定メサル以前ナルヲ以テ長男ヲシテ相續セシメ不苦義ニ候ヤ

指令（二十六年二月一日）

養父又ハ親族協議ニ於テハ長男又ハ第二養子孰レニ相續セシムルモ苦シカラス

長崎縣照會（二十六年一月二十六日）

他家相續ノ者事故アリ實家ニ復歸セントスル場合ニ於テハ跡相續者ヲ定メシムヘキ筈ニ有之候處茲ニ家族一人（亡養父ノ兄ニシテ數十年前失踪シ今猶ホ除籍年限以内ノモノ）ヲ有スル某戸主養家維持ニ堪ヘ難キ事故ヲ以テ實家ニ復歸センコトヲ出願スルモノアリ維持困難ノ爲メ復歸出願候程ノモノニ付跡相續者ヲ定メントスルモ到底相當ノ者ヲ得サル場合ニ於テハ無餘義事情ニ付相續者ヲ設ケスト雖モ復歸差許可然ヤ果シテ右差許可然義ニ候ハヽ養家ハ失踪者除籍迄無戸主ノ儘家名ヲ存スル義ト相心得可然ヤ

民刑局長回答（二十六年二月二日）

右ハ廢家ノ上家族ヲ携帶シテ實家ヘ復籍スルハ事情止ムヲ得サルモノニ限リ聽許相成可然義ト思考ス

德島縣伺（二十六年一月二十四日）

長男ニシテ一旦該家ノ戸主トナリ疾病又ハ其他ノ事故ニヨリ退隱シ父(母)再相續セルモノアリ然ルニ當主則チ再相續人ハ二三男ヲ有シ且再相續ノ後出生ノ男女子若クハ養子シタルモノ有之此場合ニ於テ該相續權ハ二男之ヲ有スル義ト相心得可然ヤ

指令（二十六年二月三日）

伺ノ通

佐賀縣伺（二十六年一月十九日）

戸主死亡ノ際男子ナキヲ以テ女子家督相續ノ後數月ヲ經テ亡父ノ遺胤（卽チ現戸主ノ實弟）分娩男子出生セリ右ハ當時胎內ニ在リシト雖モ其利益ヲ保護スル儀ニ付既ニ出生シタルモノト看做シ相續權ハ後生ノ男子ニ歸スヘキモノト心得可然ヤ

指令（二十六年二月三日）

女子家督相續ノ後出生シタル男子ハ當然相續權ヲ有セサルモノトス

福島縣照會（二十六年二月十八日）

夫生存中ハ如何ナル事情アルモ妻ヘ相續セシムル義ハ不相成筋ニ有之候處茲ニ單身女戸主ヘ入夫シテ戸主トナリ其後故アリテ離緣セントスルトキハ自然戸主ノ儘離緣セサルヲ得サル筋ニ相成候ニ付右等ノ場合ニ於テハ相續者ヲ定メスシテ一旦退隱ノ上直ニ離緣スルモ苦シカラサル筋ニ可有之ヤ

民刑局長回答（二十六年二月二十五日）

御意見ノ通ニテ差支ナキ義ト思考ス

福岡縣伺（內務省ヨリ協議）（二十六年二月九日）

茲ニ兄(甲)弟(乙)(丙)三人在籍ノ一家アリ其戸主タル兄(甲)ハ明治三年中失踪ニ付弟(乙)家名相續シ爾後退隱分家シ其跡ハ弟(丙)相續セリ然ルニ(丙)戸主ハ明治二十二年中

失踪(乙)分家者ハ明治二十四年中死亡ニ付當甲丙二人共失踪中ニシテ他ニ家族無之候處兄(甲)ニ一子アリシヲ曾テ妻離縁生家ヘ復籍ノ際携帶シ數年經過今日ニ於テ其一子ハ全戸失踪ノ生家戸籍ニ復シ失踪中ノ戸主ヲ退隱セシメ跡相續者ト爲サンコトヲ親族協議出願スルモノ有之右ハ已ニ全戸失踪ニシテ家族アラサリシモノナレハ單身戸主失踪中ニ等シク他ノ者ヲシテ相續方不相成義ト可相心得哉將タ失踪後ニ復籍スト雖モ血統者タルノ故ヲ以テ失踪後十ケ月ヲ過キタルモノナレハ相續聞屆可然筋ニ候哉

内務省司法省指令　(二十六年三月二日)

後段伺ノ通

青森縣照會　(二十六年三月十一日)

妻妾(妾ハ刑法施行前入籍ノ者)ニシテ離婚ヲ請ハントスルモ夫顛狂病等ニ罹リ其意思ノ表明ヲ得ルコト能ハサルトキ雙方ノ親族熟議ノ上町村長ヘ屆出候ハヽ其儘受理セシメ可然ヤ

民刑局長回答　(二十六年三月十八日)

御見解ノ通ニテ差支ナキ義ト思考ス

熊本縣照會　(二十六年三月十六日)

戸主死亡後嗣子無之妻及實弟有之候場合ニハ何レニ於テ遺跡相續致候順序ニ候ヤ

民刑局長回答　(二十六年三月二十四日)

右ハ實弟ヲ相續人ト爲スヘキ義ト思考ス

茨城縣照會　(二十六年四月四日)

姉夫伯叔父母又ハ母(寡婦)アルモ子女ナキ戸主退隱セントスルトキハ養子ヲ爲シ相續セシムルヲ以テ當然ノ順序ト被存候得共事故アリテ養子致シ難ク依テ姉夫伯叔父母又ハ母(寡婦)ヘ相續セシメントスル場合ニ於テハ至當ノ順序ニアラサルヲ以テ六年第二十八號布告第一章次男三男女子無之者ハ血統ノ者ヲ以テ相續願出ツ

ヘシトアルニ該當スルニ依リ出願ヲ要セシムル義ト被存候處二十四年十一月十七日三課第三二七號照會ニ對シ同年十二月司法省參民第一五一九號ヲ以テ出願ヲ要セサル旨御回答有之就テハ右布告ニ於テ出願ヲ要スルモノト否トノ區別了解致兼候間其區分御示有之度

伯叔父母又ハ母(寡婦)ニ於テ相續セントスルトキハ六年第二十八號第七章ニ依リ出願ヲ要セシムル義ト被存候處是又出願ヲ要セサル旨御回答ニ依レハ同章ハ婦女子相續ノ場合ニ限リ出願ヲ要シ伯叔母又ハ母(寡婦)ノ相續ハ等シク女戸主トナル場合ト雖モ出願ヲ要セサル義ニ候ヤ

民刑局長回答　(二十六年四月十四日)

明治六年第二十八號布告相續法中從前出願ヲ要セシ事項ハ明治十二年第八號公達ヲ以テ單ニ戸長ニ屆出ニ改正相成候義ニ有之候但戸主死亡シ男女子アルモ幼稚ナルヲ以テ成長迄父再相續スルトキ又男女子ナキ戸主死亡シ弟妹アルモ之ヲ擱キ戸主ノ父再相續スル場合等變例ニ屬スルモノハ仍ホ出願ヲ要スヘキ慣例ニ有之候

福井縣問合　(二十六年四月十五日)

婦タル者夫死亡又ハ離縁ヲ受ケシ日ヨリ三百日ヲ過キサレハ再婚爲スヲ得ス然レトモ醫師ニ於テ遺胎ノ徵ナキ旨保證スル以上ハ素ヨリ該日限内ト雖モ再婚不苦旨曾テ御指令ノ次第モ有之然ルニ客年五月二十八日付三戸甲第四二五號伺ニ對シ同年六月三日參民第三六二號御指令ノ旨趣ニ依レハ假令遺胎ノ徵ナキ旨醫師ニ於テ保證スルモ六箇月以上ニ非サレハ再婚爲シ能ハサルモノヽ如シ然ルトキハ啻ニ亡兄遺妻ニ限ラス一般ニ夫死亡又ハ離縁ヲ受ケシ日ヨリ六箇月經過スルニ非サレハ遺胎ノ徵ナキ旨醫師ノ保證書ヲ添ヘ再婚屆出ツルモ受理スヘキモノニ無之哉

民刑局長回答　(二十六年四月二十一日)

御見解ノ通ニテ然ルヘキ義ト思考ス

三重縣照會　(二十六年四月十四日)

豫備役及後備役中ノ者結婚セントスル時ハ陸軍武官結婚條例ニ依リ其筋ノ允可

ヲ得テ結婚スヘキハ勿論ノ處爰ニ數年以前許可ヲ得ス結婚シ今回子女分娩ニ際シ事發覺セシ者アリ然ルニ戸籍上ニ於テハ相當ノ手續ヲ經テ妻ニ入籍シタル者ニ付戸籍上ハ有效トシ其分娩セシ子女ハ嫡出子トナシ戸籍登載可然哉

民刑局長回答（二十六年四月二十一日）

右ハ御見解ノ通ニテ然ルヘキ義ト思考ス

内務省庶務局長照會（二十六年四月二十六日）

亡弟ノ妻タリシ者ヲ養女トシテ入籍セシムル件ニ付別紙之通埼玉縣ヨリ照會有之候處右ハ養女ト爲スコトヲ得ルヤ否御意見承知致度此段及照會候也

（別紙）埼玉縣照會（二十六年四月二十一日）

子女アル亡弟ノ遺妻ヲ離縁復籍セスシテ其儘養女トナシ聟養子ヲ貰受ケントスルモノアリ右ハ直ニ養女トナスコトハ相成ラサルモ一旦離縁復籍ノ上更ニ入籍セシムル義ハ差支ナキ哉

民刑局長回答（二十六年四月二十九日）

右ハ埼玉縣照會ノ通ニテ差支ナキ義ト思考ス

宮崎縣伺（二十六年四月二十二日）

妻ト實弟トノ有スル戸主死亡シ跡相續人選定ノ際遺妻ト實弟トノ間ニ於テ相續ヲ爭フ場合ニ於テハ實弟ヲ以テ相續セシムル方順序ニ可有之存候處若シ遺妻懷胎ナルトキハ胎内ノ子ハ生後正當相續ノ權利ヲ有スルモノニ付直ニ實弟ニ於テ相續スル義ハ不相成候ヤ

前項相續不相成モノトセハ出生迄ハ相續見合スヘキヤ果シテ然ラハ其間財産管理方等ニ於テハ親族ノ協議ニ任セ可然ヤ

指令（二十六年五月二日）

親族協議ニ任スヘシ但親族ニ於テ異議アルトキハ裁判所ノ處分ヲ仰カシムヘキモノトス

東京府伺（二十六年五月二十四日）

婦女ニシテ後見人トナルハ母祖母ニ限レル旨是迄內務大臣ヨリ夫々ヘ指令ノ例モ有之候處茲ニ幼者ノ家族中伯母アルノミニシテ其他後見人トナルヘキ相當親族無之モノアリ此ノ如キ場合ニハ事情止ムヲ得サルモノニ付伯母ヲ以テ後見人トナスモ差支無之哉

指令　（二十六年五月二十九日）

家族中ノ伯母ヲ後見人ト爲スノ件ハ認許スヘカラサル義ト心得ヘシ

長崎縣伺　（二十六年六月五日）

第一條　有子ノ寡婦後夫ヲ迎ヘ配偶後子女ヲ擧ケタルトキ該子女相續權ノ義ニ付群馬縣伺ニ對シ明治十年十一月十六日內務省御指令ノ旨モ有之候處有子ノ寡婦後夫ヲ迎ヘ該後夫實子ヲ携帶シ配偶後子女ヲ擧ケサル場合ニ於テハ先夫ノ子ヲ相續者ト定ムルモ後夫ノ携帶子ヲ相續者ト定ムルモ親族ノ協議ニ任セ若シ協議不調ノトキハ他ヨリ養子ヲ迎フルモ差支無之ヤ

第二條　果シテ前條ノ通ナレハ親族ノ協議ニ依リ先夫ノ子若クハ携帶子ヲ相續者ト定メタル後ニ至リ子女ヲ擧クルモ相續ノ權利ハ依然携帶子ニ存スルモノト相心得可然ヤ

指令　（二十六年六月十三日）

第一條　伺ノ通

第二條　先夫ノ子又ハ携帶子ノ中嗣子ニ定メタルモノハ相續權ヲ有スルモノトス

福島縣照會　（二十六年五月十五日）

傍系血緣アラサル兄弟姉妹及伯叔父母姑甥姪及傍系ノ姻族妻ノ姉妹及血緣アラサル伯叔父ノ妻間ハ其關係止ミタル後ハ總テ婚姻苦シカラサル筋ニ可有之哉

民刑局長回答　（二十六年六月十九日）

一血緣ナキ兄弟姉妹及伯叔父姑甥姪

右ハ特別ノ事情アルモノニ限リ聽許相成然ルヘシ

二伯叔母甥姪配偶者

右ハ離縁セシ場合ノ外特別ノ事情アルモノニ限リ聽許相成然ルヘシ

三前配偶者ノ兄弟姉妹

右ハ離縁セシ場合ノ外聽許相成然ルヘシ但婦ノ再婚ニ付テハ相當ノ時日ヲ經ルヲ要ス

（民刑局長ヨリ福島縣知事ヘ通牒）（二十六年六月）

第三項前配偶者ノ兄弟姉妹ト結婚ハ離縁セシ場合ト雖モ特別ノ事情アルモノニ限リ聽許相成然ルヘキ義ニ付此段爲念及御通牒候也

東京府照會（内務省ヨリ合議）（二十六年五月十五日）

離婚ノ夫死亡ニ因リ其家絶家トナリタル場合ニ於テ之ヲ再興シタル婦ハ先婦（婦ハ夫ノ誤ナラン）ニ對スル稱呼ハ普通絶家再興ノ例ニ依リ養父子ト稱シ可然哉果シテ養父子ノ稱呼アリトスレハ右再興ノ後先夫ノ子女（再興シタル妻トノ間ニ養ヒタル子女）他ヨリ復籍スル場合ニハ其子女ニ對シテハ如何ナル稱呼ヲ生スヘキヤ

内務省庶務局長回答（二十六年）

右ハ前段御意見ノ通後段養弟妹ノ稱呼ヲ生スヘキモノト存候

東京府伺（二十六年六月十日）

後見人ニ於テ其後見スル未成年者ヲ養子ト爲スハ弊害ヲ生スヘキ恐レモ有之認許難相成義トハ被存候得共未タ類例モ無之義故何分ノ御指揮ヲ得度候

指令（二十六年六月二十一日）

親族協議出願ノ上事情止ヲ得サルモノニ限リ聽許苦シカラス

長崎縣問合（二十六年六月十九日）

妻死去ノ後該亡妻ノ姉妹ヲ娶リ不苦段内務省御指令ノ旨モ有之候處妻死去セシニ非ス事故アリ離縁セシ場合ニ於テモ該先妻ノ姉妹ト結婚ノ義ハ不苦且ツ右ハ違例結婚ノ取扱ヲ要セサルモノト相見込候得共爲念此段及御問合候

民刑局長回答（二十六年六月二十八日）

右ハ特別ノ事情アルモノニ限リ聽許相成然ルヘキ義ト思考ス

千葉縣伺（二十六年六月十六日）

失踪者ニ家名ヲ讓ル義ハ不相成旨去二十年十一月愛知縣ヘ御指令ノ趣モ有之候處茲ニ別紙戸籍寫ノ如キ失踪ノ家族一名ヲ有スル養戸主アリ該家ハ無資產ニシテ維持難相成故ヲ以テ養家離緣生家ヘ復籍ノ義養實親戚連署出願有之候處右ハ實家ニ在リテ家名ヲ繼承シタル者ト他家ヨリ來リテ養家ヲ相續シタル者トノ別ハ有之候得共其他ノ點ニ於テハ彼是異ナル所無之ニ付本願モ愛知縣ヘノ御指令ニ準シ取扱フヘキ義ニ候ヤ

内務司法兩省指令（二十六年七月八日）

伺ノ通

長野縣照會（二十六年六月二十六日）

離婚後三百日以內ノ出生兒ハ先夫ノ籍ニ入ルヘキ義ニ候處茲ニ三百日以內ノ出生兒ヲ後夫ノ長女トシ戸籍ニ登記シタルモノアリ全ク送入籍ノ手續ノ後レタルモノニシテ實際ハ後夫ノ嫡子ニ相違ナキ趣先後夫連署據置願出ノモノ有之候處右ハ事實ニ於テ無相違ヲ認メラルヘキ場合ニ於テモ送入籍事項ハ戸籍ニ登記セサル上ハ效力ナキモノナレハ必ス先夫ノ籍ニ引戻サシムヘキ義ニシテ其儘據置タハ不相成候ヤ

内務省庶務局長　司法省民刑局長　同答（二十六年七月十一日）

右ハ雙方協議屆出ノ上ハ其儘據置差支ナキ義ト思考ス

佐賀縣伺（内務省ヨリ合議ヲ）（二十六年六月二十一日）

第一條　茲ニ庶子アリ其母正婚妻トナリ入籍スルトキハ嫡出タルノ權利ヲ得ルモノニシテ市町村長ニ於テ結婚屆出ノ際直ニ長男ト記載替可然哉果シテ然ラハ結婚後男子出生ノ者ヲ長男ト記載シ庶子其儘據置キシモノアリ右ハ庶子ヲ長男ト結婚後出生者ヲ二男ト市町村長ニ於テ戸籍訂正可然哉

内務司法兩省指令（二十六年八月十八日）

第一條　伺ノ通

佐賀縣伺（内務省ヨリ合議）（二十六年六月二十一日）

第二條　茲ニ年長ノ庶子年少ノ嫡子アリ其母死亡ニ付庶子ノ母正婚ノ上妻トナリ入籍スルトキハ市町村長ニ於テ戸籍上庶子ハ長男嫡子ハ二男ト記載替スヘキヤ就テハ長男（元庶子年長者）ト雖モ二男（元嫡子年少者）廢嫡特許ヲ經サレハ相續ノ權利ハ無之モノト被存候條戸籍上其事由額書スヘキヤ

（内務司法兩大臣指令）（二十六年八月十八日）

第二條　前段庶子ハ其母正婚ノ日ヨリ嫡出子タルヘキモノニシテ出生ノ日ニ遡リ其權利ヲ得ルニアラサルヲ以テ年長ト雖モ前妻ノ出ノ次ニ列シ次男ト記載スヘク後段指令ニ依リ解スヘシ

香川縣伺（二十六年八月二十三日）

一人ノ幼戸主ヘ二名ノ後見人ヲ附シ候義ハ後見人間ニ於テ自然意見ヲ異ニシ不和ヲ生スル等ノ恐アリテ從テ幼者ノ不利益ヲ來スヘキ義ニシテ理論上及實際上到底後見人又ハ一人ニ限ル義ト確信致居候處明治十五年二月中愛媛縣ヨリ御省ヘ別紙伺出ノ次第モ有之候得共右ハ既ニ十數年以前ノ事ニシテ今日實施上多少疑念モ有之候折柄現ニ親族協議ノ上二名ノ後見人ヲ選定屆出候者有之ニ際シ聊カ疑義ヲ生シ候

指令（二十六年九月七日）

後見人ノ件ハ一人ニ限ル義ト心得可シ

秋田縣照會（内務省ヘ合議）（二十六年七月五日）

明治十二年第八號公達ヲ以テ尋常ノ家督相續ハ出願ニ及ハサル旨相達サレ同年四月二日兵庫縣伺ヘノ指令ニハ子女ナキ戸主疾病等ノ爲メ姉妹ノ夫若クハ伯叔父母實母（寡婦）等ヲシテ相續セシメ其身退隱又ハ離縁復籍スル場合ハ總テ願濟ヲ要セスト有之依テ案スルニ凡ソ家督相續上ニ付出願セシムヘキモノハ廢嫡又ハ入夫失踪跡等ニ關スルモノニシテ明治六年第二十八號布告第一項ノ順序ヲ越エサル相續ハ縱令直系尊族並傍系親族（尊卑族ヲ問ハス）タリトモ親族協議撰定ノ上ハ出願セ

シムルヲ要セサル義ナルヤ

果シテ前段ノ如クナルトキハ戸主死亡血統ノ者ナク又他ニ養子スヘキモノナキ場合親族協議ノ上獨身ナル遺妻或ハ正當相續權ナキ私生子ニ於テ家督相續ノ場合モ出願セシムルニ及ハサルヤ將タ相續法ノ順序ニ關係セサルモ出願セシムヘキヤ

内務省庶務局長
司法省民刑局長　同答（二十六年九月十八日）

第一項　御意見ノ通

第二項　前段御意見ノ通

長崎縣照會（二十六年十月十八日）

私生子ハ父ノ認知ニヨリ相當手續ヲ經テ庶子トナスヲ得ヘキ成規ニ有之候處茲ニ戸主某朝鮮國釜山ニ寄留中明治十八年家婢トノ間ニ一ノ私生子ヲ擧ケ產婦ハ間モナク歸國シ其原籍詳ナラス私生子養育中戸主モ亦明治二十年中彼地ニ於テ死亡致候然ルニ該遺兒ハ出生屆洩ニテ無籍者タルヲ發見シ今般現戸主ノ從妹トシテ入籍爲致度段親族連署ヲ以テ願出候右亡戸主實子ニ無相違旨近隣者保證書ノ外遺兒ノ父タリシモノカ生存中實子ト認メタル證據物等無之候得共生母原籍不明且親族ニ於テ亡戸主ノ實子ト認メ候上ハ願ノ通入籍聽屆可然哉若シ事實ノ如何ニ關セス父カ認知ノ手續ヲナサヽリシヲ以テ入籍不相成義ニ候ハヽ母モ亦誰タルヲ知ルヲ得サルニ付棄兒ノ取扱ヲナスノ外方法ナキカ如シ然ルニ該兒ハ朝鮮國ニ於テ出生シ父母ノ誰タルヲ知ルヘカラサルモノトセハ日本人ノ棄兒トシテ取扱ヒ致シ難キ義ト思考致候右ノ場合ニ於テハ如何處分シ可然哉

私生子出生當時入籍ノ手續ヲナサス父母結婚後ニ至リ嫡出子トシテ直ニ父家ノ戸籍ニ編入ノ義屆出ルモノ有之候處私生子取消方ニ付テハ明治六年第二十一號御布告ノ旨モ有之當初其屆出ヲナサス數年經過父母結婚ノ後ニ至リ嫡出子トシテ直ニ父家ニ入籍セシムルトキハ第二十一號御布告ノ旨趣ニ戻リ候義ト相認候因テ母ノ實家アルモノハ一旦私生子トシテ該家ニ入籍ノ手續ヲ了シ然ル後嫡出子トシテ更ニ父家ニ入籍セシメ已ニ母ノ實家斷絶ノモノハ事情不得止ニ付特別ヲ以テ嫡出子トシテ直ニ父家ニ入籍セシメ可然哉

民刑局長回答

（二十六年十月三十日）

第一項　親族ノ願出ニ因ルモ認可ヲ與フル限リニ在ラス但私生子ハ本邦人ノ遺胤ト認メ得ヘキ事實アルモノハ棄兒ニ準シ取扱相成然ルヘシ

第二項　貴見ノ通

愛知縣照會（二十六年十月二十六日）

管下渥美郡和地村葉山善作ナル者先代兄喜平明治十六年十二月居村地先海面ニ漁業中暴風ノ爲メ難船シ爾來行衞不分明ニ付失踪屆濟ノ處一家生計困難ニ付明治二十二年十一月願濟兄喜平及同人子女ヲ廢シ相續セリ其後喜平妻（ゐこの）ナル者ハ都合ニ依リ明治十八年一月實家ヘ復籍シ爾後元夫ノ弟タル喜作ト私通シ既ニ兒子三名ヲ擧ケ善作庶子ニ引受罷在且兄喜平遺子養育等ニ付善作儀前顯（ゐこの）ト結婚セサレハ一家ノ浮沈ニ關スル趣ヲ以テ結婚願出候右ハ喜平儀失踪後殆ント十年ノ久キニ及フモ死亡ノ義判然セサルニ付テハ亡兄ノ遺妻トモ異リ結婚允許シ難キ筋ニ候哉

民刑局長回答（二十六年十月三十日）

聽許相成然ルヘキ義ト思考ス

東京府伺（二十六年九月二十六日）

父ノ離緣セシ養子女ヲ其子ニ於テ父分籍ノ後更ニ養子女トナスハ差支無之哉或ハ父分籍シタリト雖モ生存中ハ養子女トナスヲ得サル義ニ候ヤ若シ後段ノ通ニ候ハヽ既ニ其緣組ヲ整ヘタルモノハ入籍後數年ヲ經過シタル後ナリトモ取消ヲ命スヘキ筋ナルヤ

指令（二十六年十月二日）

前段伺ノ通

東京府伺（二十六年九月十九日）

幼年戸主滿十五歲以上ニ至リ家政相整候見込有之者ハ必シモ後見ヲ要セサル旨

是迄夫々へ御指令ノ例モ有之候處右後見ヲ要セサル幼年戸主ニ於テ其家ヲ廢シ其戸主ヲ退ク等ノ場合ハ丁年以上ノ戸主同樣其存意ニ任カシ可然ヤ

指令　（二十六年十月三日）

親族連署出願ヲ要スヘキ義ト心得ヘシ

千葉縣照會　（二十六年十月六日）

實養子ヲ問ハス一旦相續セシモノ疾病又ハ其他ノ事故ニヨリ父母ニ相續ヲ讓リタルモノハ退隱者ト稱シ一旦相續權無之旨明治十五年中（月日不詳）京都府伺ニ對シ內務省指令ノ趣モ有之候處明治十八年六月十九日山口縣伺ニ對スル同省指令ニ依レハ戸主疾病ノタメ退隱長男相續ノ後其父疾病平癒セサルヲ以テ父再相續ヲ爲シタル場合ニ長男ハ尙再相續權アリト有之兩指令ヲ對照スルニ長男再相續權ノ有無ハ自身ノ事故ノ有無ニヨリ決定スルモノヽ如ク相見候得共等シク退隱者ナルヲ以テ其間ニ區別アルモノトモ不被考聊疑義ヲ生シ候ニ付及御問合候

民刑局長回答　（二十六年十月十一日）

一旦退隱シタル長男ハ疾病平癒若クハ事故解クルト雖モ更ニ嗣子ニ定ムルニ非サレハ當然相續權ナキモノトス但長男獨子ニシテ他ニ嗣子ナキ場合ハ此限ニ在ラサル義ト思考ス

長野縣照會（內務省ヨリ合議）　（二十六年九月十八日）

茲ニ本年二月中結婚セシ未タ送入籍ノ手續ヲナサヽル內其夫六月中死亡ノ處遺婦已ニ懷姙シ居ルニ付死者妻ノ名義ヲ以テ送入籍ノ義願出候モノ有之事實相違無之被認候得共婚姻ナルモノハ戸籍ニ登記シテ始メテ公認スヘキモノニ付其登記以前ニ夫妻タリシ事實ヲ以テ送入籍事項訂正ヲ出願スルモ詮議セラレサル例ニ候得ハ右ノ如キ一方ノ死亡セシニ拘ハラス內緣當時ニ遡リ夫妻タルヲ公認スルハ不相成筋ト被存候然ルニ去十六年五月石川縣ヨリ本件類似ノモノ處分方伺出ニ對シ同年六月十六日結婚セシ年月日ニ遡リ戸籍ヘ登記スヘキ趣指令相成候義モ有之疑義ニ涉リ候ニ付一應及御問合候

內務省庶務局長
司法省民刑局長　回答　（二十六年十月二十一日）

男子ノ親類協議ノ上出願スルニ於テハ聞屆不苦例ニ有之候

東京府伺　（二十六年十月二十八日）

一長女ヲ有スル者長女ヲ廢嫡ノ上二女ヲ嗣子ニ定ムル旨屆出ノ後男子出生セリ右ノ場合ニ於テハ二女ノ相續權ヲ廢罷シタル上ニアラサレハ男子ニ相續權移ラサルモノト心得可然哉

一前項伺ノ通ニ候ハヽ其男子他ヨリ復籍シタルモノナル時モ同樣相心得可然哉

指令　（二十六年十一月七日）

第一項第二項共伺ノ通

長野縣照會（内務省ヨリ合議）　（二十六年十一月十六日）

男子ナク女子數人アリテ長女ヲ措キ二女ニ相續セシメントスルトキ其長女ハ廢嫡ノ手續ヲ爲スヘキハ去二十三年中鹿兒島縣伺指令ノ趣九月二日付內務省書記官御通知ノ次第モ有之候處數女子アル相續ノ義ハ順序ニ拘ハラス親族ノ協議ニ可任旨九年三月中舊置賜縣伺指令及ヒ十四年三月山形縣伺指令等ノ趣旨ニ依リ廢嫡ノ手續ヲ爲サヽリシモノ本縣下ニモ往々有之今日ヨリ之ヲ觀レハ不穩當ナルモ當時ノ成例上差支ナカリシモノニ付今更其引戻又ハ據置願等ノ手續ヲナサシムルニ及ハサルヘク思考候ニ付該御通知以後ハ其儘差措クノ意見ニ有之候得共右ハ元ト人權上ニ關スル義ニ付必ス引戻據置願ヲナサシムヘキヤ

御意見ノ通引戻又ハ據置願等ノ手續ヲ爲サシムルニ及ハサル義ト思考ス

內務省庶務局
司法省民刑局長回答　（二十六年十一月二十八日）

德島縣問合　（二十六年十二月九日）

茲ニ夫婦間實子ナク他ヨリ養女ヲ貰受ケタル者アリ然ルニ夫死亡ニ付相續權ハ養女ニ有之候處失踪ノ故ヲ以テ遺妻ニ相續ノ義親族ヨリ願出ルニ於テハ養女廢嫡ヲ爲サス又失踪後二十四ケ月若クハ十ケ月ヲ經過セサルモ聞屆不苦義ニ候ヤ

民刑局長回答　（二十六年十二月十四日）

失踪後十ケ月經過シ養女廢嫡ノ上ハ相續スヘキ義ト思考ス

三重縣照會（二十六年十二月二十一日）

甲家ノ長男妻携帶一男子ヲ擧ケタル後チ廢嫡ノ上乙家ヘ夫婦養子トナリ其家ヲ繼承シテ復タ長次男ヲ擧ケタリ然ルニ事故アリ曩ニ甲家ニ遺留セシ長男某ヲ乙家ニ引取リタルトキハ戸籍上之ヲ乙家ノ長男トシ乙家ニ於テ擧ケタル長次男ヲ更ニ次三男ト改メ其相續權ハ甲家ニ在テ擧ケタル男子ノ所有ニ候ヤ

民刑局長回答（二十六年十二月二十八日）

甲家ニ在テ擧ケタル長男ハ乙家（養家）ニ引取リタル場合ト雖トモ別段嗣子ニ定ムルニ非サレハ乙家ノ長次男ニ先チ當然相續權ナキモノト思考ス

島根縣問合（二十四年十二月二十二日）

養兄弟姉妹（姉妹ノ夫トシ又ハ兄弟ノ妻トスルモノニアラス）ノ稱呼ヲ以テ貰受クルハ不苦義ニ候ヤ果シテ然ラハ爰ニ戸主ノ養兄弟姉妹ト戸主ノ父母トハ養父母養子女ノ緣義ヲ生スヘキヤ

總務局長回答（二十五年一月七日）

第一項　養兄弟姉妹ノ稱呼ヲ以テ貰受クルハ相成ラス

島根縣問合（二十四年十二月二十二日）

血緣ナキ養兄弟姉妹又ハ叔姪ハ籍ノ內外ヲ問ハス結婚不苦ヤ

總務局長回答（二十五年一月七日）

第二項　血緣ナキモノト雖モ結婚相成ラス但事情止ムヲ得サルモノハ事實ヲ具シテ伺出相成然ルヘシ

島根縣問合（二十四年十二月二十二日）

實子孫ナキ者ノ養女ハ實女ト同シク繼嗣權ヲ有スルヤ果シテ然ラハ之ヲ他家ノ婦ニ送籍スル等ノ場合ニ於テハ廢嫡ノ手續ヲ履行セサルヘカラサルヤ

總務局長回答（三十五年一月七日）

第三項　御見込ノ通

香川縣電信伺（三十五年一月七日）

女戸主ノ外婦女ニテ他家ノ後見人トナルコトヲ得サルヤ

指令（三十五年一月八日）

母祖母ニ限リ親族協議ノ上他家ノ後見人トナルコトヲ得ヘシ

徳島縣問合（三十四年十二月二十七日）

平民ノ戸主死亡シ遺族ハ養子一人ノミアルモ幼年又ハ赤貧ニシテ一家維持難相成モノト雖モ養子一旦相續ノ上ナラテハ非戸主ニシテ一家ヲ廢シ實家ヘ復籍致候義ハ不相成義ト存候得共其當時親族ヨリ追テ相應ノ者ヲ選定シ相續可爲致旨ニテ其養子ハ實家ヘ復籍セシモノアルトキハ戸主死亡ノ日ヨリ起算シ六ヶ月ヲ經過スルモ相續人ヲ定メサルニ於テハ絶家ノ處分ヲ爲スヘキヤ

總務局長回答（三十五年一月十四日）

戸主死亡シ養子一人アル場合ニ於テハ養子ハ當然跡相續ヲ爲スヘキモノニ付一旦相續シ廢家ノ上實家ヘ復籍スルハ格別跡相續人ヲ定メス直ニ復籍スルハ相成ラサル義ト思考ス

大阪府伺（二十四年十二月二十三日）

明治十二年中茨城縣伺内務省御指令ニ據レハ聟養子離縁ノ際妻(他女)携帶實家ヘ復歸ヲ請求スル場合ハ夫婦ノ存意ニ任セ養父之ヲ拒絶スヘキモノニアラス故ニ當府ニ於テモ其精神ニ基キ右等ノ場合ニ在テハ養實家等協議ノ上ハ直ニ携帶送籍差支無之旨部下ヘ指令致置候處今般他地方村役場ニ於テ他女ノ妻ハ一旦生家ヘ復籍セルニ非サレハ入籍難取扱旨ヲ以テ返籍致候向モ有之趣ニ候然ルニ之ヲ生家ヘ復籍スルハ取モ直サス夫妻ノ名分ヲ失ヒ其相受ノ良縁ヲ絶タシムルモノ

ニシテ其處置穩當ナラスト存候又民法人事編中離縁ヲ原因トシテ離婚ヲ請求シ又離婚ヲ原因トシテ離縁ヲ請求スルコトヲ得云々トアルニ參考スルモ其離縁ノ爲メニ直ニ離婚ノ效力ヲ生ズヘキモノニアラサルヘシ因テ他女家女ニ拘ハラス其良縁アルモノハ凡テ養家ヨリ夫ノ實家ニ直チニ送籍差支ナキ義ト心得可然ヤ

內務司法兩省指令（二十五年一月二十日）

伺ノ通

愛知縣照會（二十五年一月二十日）

瘋癲又ハ白痴ノ無能力ハ後見人ヲ置クモ妨ケナキ義ト存候處茲ニ單身戸主七十五年餘ト相成老衰且精神痴鈍症ニ罹リ思考力幷判斷力全ク缺如セシ趣ヲ以テ醫師診斷書添附親族熟議後見人ヲ選定屆出ツルモノアリ右ハ前顯無能力者ニ準シ該屆受理セシムルモ差支ノ筋無之候ヤ

總務局長回答（二十五年一月二十五日）

御見解ノ通差支ナキ義ト思考ス

滋賀縣伺（二十五年一月十四日）

第一條　養子戸主トナラサル前養家ニテ擧ケタル男子ヲ携帶離縁復歸スルハ双方ノ協議ニ任セ苦シカラサル旨明治二十年六月福島縣伺ニ對シ貴省御指令有之候處右ハ養子戸主トナラサル以前離縁復歸スルモ養家ニ於テ擧ケタル男子ハ卽チ養子戸主ノ嫡孫タルヲ以テ養子ヲ離縁セシ上ハ隨テ其嫡孫カ相續者タルヘキハ當然ノ順序ト存候依テ前記御指令中双方ノ協議ニ任セ云々トアルモ本人及養實家等ノ協議ニ一任スルハ難相成モノト思考致候ニ付右協議ニ任ス云々ハ其協議ノ整ヒタルモノハ其望ミニ任セラルルノ意ト解釋シ嫡孫ヲ携帶復歸スルハ矢張リ儀式上出願許可ヲ經ヘキモノト相心得可然ヤ

指令（二十五年一月二十九日）

第一條　嫡孫嗣子ナルトキハ伺ノ通

滋賀縣伺（二十五年一月十四日）

第二條　茲ニ長男ヲ有スルモノニシテ其長男ニ又長二男及長女アリ右戸主退隱ニ際シ長男失踪其跡ヲ繼承スヘキ筈ナルモ事故アリテ相續ヲナササルニ依リ更ニ嫡孫ヲ以テ其跡ヲ繼カシムヘキノ處此嫡孫モ亦疾病等ノ爲メ相續爲シ難キ場合ニ在テハ仍ホ嫡長男ノ二男ヲシテ相續セシメ若シ此二男事故アリテ相續ヲ爲ササルトキハ縱令女子ト雖モ戸主ノ二男ニ先チ該孫女ニ於テ相續權ヲ有スル義ト相心得可然哉云々去ル明治二十一年中本縣ヨリ貴省ヘ相伺候處嫡孫事故アリテ相續シ難キトキハ戸主ノ二男ヲシテ相續セシメ戸主ノ二男事故アルトキハ嫡長男ノ二男ヲシテ相續セシメ次ニ女子ニ移ルヘキ順位ナリト雖モ相續ヲ爲スモノ傍系ニ係ル場合ニ於テハ戸主ノ選定ニ任セ苦シカラスト御指令相成候然ルニ右伺ヒタル何レノ舅屬親モ未タ相續セサルモノニ付二男以下ノモノト雖モ傍系ノ親ト稱スルヲ得サルモノニ有之候得ハ是等相續方ノ義ハ卽チ戸主選定以外ノモノト存候處該御指令面ニテハ二男以下（戸主ノ二男ト嫡長男ノ二男以下ヲ云フ）ノ男子ニ在テハ其親等ノ近キモノ相續權ヲ有スヘキモノト相見ヘ候ニ付女子ト雖モ嫡孫女ヲ除クノ外ハ男子同樣其親等ノ近キモノ相續權ヲ有スル義ニ有之候ヤ

但本文御指令ニ據レハ總テ男子ヲ先キトシ次ニ女子ニ移ルヘキ順位ニ相見ヘ候得共戸主ニ二三男アリテ嫡孫女ナルトキハ矢張リ此孫女ニ於テ相續權ヲ有スヘク乎又ハ明治二十年六月福島縣ヨリ養嗣子死亡跡相續方ノ義ニ付養子ニ女子ノミニテ戸主ニ男子アルトキト雖モ該孫女ニ養子相續セシムル筋ナルヤト貴省ニ伺出タルニ亡養子ニ女子ノミニテ戸主ニ男子アルトキハ該女子ニ相續セシムルモ戸主ノ男子ニ相續セシムルモ戸主ノ選定ニ任カスト御指令有之ヲ以テ此場合ニ在テハ何レニ相續セシムルモ戸主ノ任意ニアルモノトシ現今ノ相續法ニ於テハ其順位ハナキモノニ候ヤ

指令（二十五年一月二十九日）

第二條　女子ト雖モ男子同樣ノ相續順序ニ依ルヘキモノトス

滋賀縣伺（二十五年一月十四日）

第三條　戸主失踪中遺兒廢嫡等ノ義ニ付テハ客年九月貴省ヘ相伺タルニ失踪戸

主ノ遺兒ハ失踪者ノ跡相續ヲ爲スヘキモノニ付他ニ養子女ト爲スハ相成ラスト御指令相成候處右ハ其伺書前段ニ記シタル如キ遺子數人有之場合ト雖モ其長男ヲ他ヘ養子ニ差遣シ候義ハ縱令不得止事情有之ト雖モ難相成候ヤ又其伺書但書ニ對シテハ別ニ何等御指令無之候得共戸主失踪中遺族者（遺兒ニアラスシテ兄弟姉妹等ノミアル場合ヲ云フ）ヲ他ヘ送籍シ戸主ノミ在籍スルトキハ其遺族者送籍ノ日（遺族者數人アルトキハ最終ノ送籍）ヨリ單身戸主失踪跡ヲ以テ取扱可然ヤ

但本文後段ハ若シ內務省御主管ノ義ニ有之候ハハ便宜同省ヘ御移牒御指令相成候樣致度候

第四條　前條前段ハ果シテ伺ノ通リニ候ハハ茲ニ戸主及長女失踪シテ二女ノミ存在スルトキ此二女他ヘ婚嫁センコトヲ願出ル場合ニ在テモ失踪中ノ長女ハ相續爲シ難キニヨリ是亦他ヘ送籍スルハ不相成候ヤ又ハ長女ハ縱令失踪中ト雖モ未タ相續權ヲ失却セサルモノニ付二女送籍ノ義ハ差許シ不苦候ヤ

指令　（二十五年一月二十九日）

第三條　前段失踪者ノ遺兒數人アルトキハ其長子（娘）ハ事實止ムヲ得サル場合ニ於テハ親族協議出願ノ上ハ他家養子女苦ラス後段遺族者（兄弟姉妹等）一人ナルトキハ事情止ヲ得サルモノニ限リ一旦相續ノ上廢家シ失踪者（父母兄弟等）ヲ携帶他家ニ養子女トナルハ親族協議出願ノ上ハ聽許苦ラス

第四條　前條ニテ了解スヘシ

滋賀縣伺　（二十五年一月十四日）

第五條　後見人其後見ノ任務ヲ怠リ又ハ其權ヲ濫用スルトキハ親族會議ヲ以テ其後見人ヲ免黜シ更ニ幼者ノ爲メ有益ナル後見人ヲ選定セサルヲ得サル義ニ候其後見人罷黜ノ義ヲ肯ンセサル場合ニ在テハ之ヲ如何スヘキヤ未タ民法實施セラレサルノ今日何等據ル所無之ト雖モ後見人更選スルニ當リ其後見人解任ノ義ヲ肯ンセサルモ其者ニ對シ親族ヨリ後見人更選ノコトヲ通知シタル上ハ更ニ選定シタル後見人ニ於テ其之カ任務ヲ行ハシメ而シテ後見人解任不承知ト否トハ別ニ其筋ノ裁判ニ依ル義ナル乎ノ旨曩ニ明治十八年五月二十八日福島縣ヨリ內務省ヘ伺出タルニ伺ノ通リト御指令相成居候ニ付右ハ現今ニ在

テモ之ニ準據取扱可然ヤ又ハ其後見解任ノ義ヲ承諾セサル上ハ其解任ノ義ヲ裁判所ニ申立之カ處分ヲ受クルニ非サレハ他ノモノヲシテ後見人タラシムルヲ得サル義ニ有之候ヤ

但若シ後段見解ノ通リトスルトキハ其後見解任ノ處分ヲ受クル迄一時親族中ヨリ後見人ニ代ルヘキモノヲ選定屆出サセ其者ヲ以テ後見人ノ職務ヲ行ハシメ可然ヤ

指令　（二十五年一月二十九日）

第五條　明治十八年五月二十八日福島縣伺同年六月八日內務省指令ノ通

長野縣問合　（二十五年一月二十六日）

單身戸主ノ男子ト私通婦女ノ間ニ私生子ヲ擧ケ出生屆ヲナササル儘其婦女男子ノ家ニ入嫁シ尙ホ出生屆ヲナササル內其夫死亡セリ此場合ニ於テハ一旦私生子トシ遺妻實家ノ戸籍ニ登記スルハ當然ナレトモ之レヲ公生ニ引直サントスルニハ亡夫ノ親戚（親戚ナキハ隣保）ニ於テ其事實ヲ保證シ亡夫在籍町村長ノ認許ヲ受ケシメ可然ヤ

總務局長回答　（二十五年二月四日）

夫死亡後ニ於テハ嫡出子ニ引直スコトヲ得サルモ私生子トシテ入籍スルハ差支ナキ義ト思考ス

滋賀縣照會　（二十五年一月十四日）

長女ノ配偶者ト次女ノ配偶者ノ續柄ハ年ノ長幼ニヨリ兄又ハ弟ト稱スヘキヤト去ル明治二十八年八月福島縣ヨリ司法省ヘノ伺ニ對シ年ノ長幼ニ拘ハラス其配偶シタル長次女ノ順序ニ隨ヒ養兄弟ト稱スヘキ旨御指令相成タル趣ニ候處右果シテ御指令ノ通トスルトキハ長ヲ弟幼ヲ兄ト云フカ如キ其年序ヲ顚倒シテ人倫秩序ノ稱呼上甚タ穩當ナラサルヤト被存候得共右ハ家女ノ婿養子トナリタルモノニ在テハ各互ニ如斯相稱セサルモノニ有之候ヤ

但本文ハ年序ニ拘ラサル義ニ候ハハ其理由ヲモ御示シ相成候樣致度

內務省庶務局
司法省總務局　長回答　（二十五年二月十七日）

第一項　養子タル者ハ年ノ長幼ヲ問ハス姉ノ夫ヲ養兄妹ノ夫ヲ養弟ト稱スヘキモノトス但相續順位ハ先ニ入籍シタル養子ヲ以テ相續セシムヘキモノトス

滋賀縣照會（二十五年一月十四日）

第二項　客年六月內務省訓令第十一號ヲ以テ戶籍登記書式中養子入籍ノ登記例改正相成所謂夫婦養子ト稱スルモノハ夫ハ養子婦ハ養女トシテ入籍セシムヘキ筋ニ有之候處右夫婦養子ト稱スルヲ得ルハ戶主家名ヲ廢スル場合ニ限ルモノニシテ其他ハ假令夫婦同時ニ入籍スルトモ他女ノ妻ハ夫家ヨリ直ニ他ヘ養女ニ入籍スルハ難相成筈ニ付家名ヲ廢スル場合ニ非サレハ總テ携帶入籍ヲ以テ取扱フヘキ筋ニ有之候ヤ又前記訓令ニ依リ戶籍登記書式中養孫トアルヲ以テ養子携帶ト改正セラレタルニ付養子入籍ノ際携帶セシ子女ハ養孫トハ稱シ得サルモノト存候就テハ此携帶セラレタル子女ノ額書ハ單ニ携帶子ト記シ肩書ニハ養子某ノ何男女ナルコトヲ記載シ可然ヤ

第三項　前項後段ノ如ク養子ノ携帶子ハ養孫ト稱シ得サルモノニ候ハハ養子入籍後舉ケタル子女（孫）ニ先チ相續權ハ無之モノニ候ヤ

但養子戶主トナリタル上ハ携帶子ヲ以テ長男トシ養家ニテ舉ケタル長男ハ二男ニ引直スヘキモノト被存候ニ付此場合ニ在テハ無論携帶子ニ於テ相續權ヲ有スヘク候ヤ

內務省庶務局
司法省總務局　回答（二十五年三月十七日）

第二項　前段他女ノ妻ト雖モ夫家ヨリ夫ト共ニ他ノ養子女トナルヲ得ルハ廢家ノ場合ニ限ラス後段額者ハ養子携帶子ト記載スヘシ肩書御見込ノ通

第三項　御見込ノ通但書父子共ニ養子孫トナル場合ノ外ハ養子戶主トナルト雖モ携帶子ハ更ニ嗣子ニ定ムルニ非サレハ當然相續權ナキモノトス

岩手縣伺（二十五年二月二十六日）

第一項　戶主ニ非サルモノハ養子ヲナスヲ得サル義ハ明治九年十二月二十八日福島縣伺同十年二月十二日內務省指令ニ相見候處非戶主ナリト雖モ實女子アリテ之ニ聟養子ヲナスモノハ專ラ其婚姻ヲ主トスルニ在リテ通常養子ト異ナ

ルモノニ付戸主ノ承諾アルトキハ差支ナキ義ニ候ヤ

指令（二十五年三月四日）

第一項　非戸主ニシテ聟養子ヲ爲スハ聽許スヘカラサルモノトス

岩手縣伺（二十五年二月二十六日）

第二項　戸主生計ノ目的ナキ爲メ其情願ニ基キ廢戸主ノ義後見人及親族協議願出ルトキハ聞屆不苦旨ハ昨二十四年九月三十日本縣伺同十月二十一日御省御指令ノ通ニ有之而シテ右ハ專ラ幼年戸主ヲ指シタル場合ニ候處元來幼年者ハ是非ノ辨別完全セサルモノナルニ依リ假令退隱ヲ情願セリト云フモ素ヨリ之ヲ確實ノモノト認ムルヲ得サルヘシ就テハ後見人及親族協議相整候モノハ該幼戸主ノ情願ニ基ケルト否トニ拘ラス聞屆可然ヤ而シテ右戸主ノ跡相續人ヲ選ムハ該家生計上有益ノ人ヲ求ムルニ在ルモノナレハ其家族タルト否トヲ問ハス相續人トシ差支ナキ義ト相心得可然ヤ

指令（二十五年三月四日）

第二項　前段伺ノ通後段跡相續人ヲ選ムハ戸主親族中相當順序ニ依ルヘキモノトス

愛知縣照會（二十五年三月九日）

一、丁年以上ノ戸主健忘症ニ罹リ後見人ヲ設ケ屆出ルモノアリ右ハ該病者ト雖モ能力アルモノハ後見人ヲ設定スヘキ限リニ無之ト被存候得共實際該病ノ爲メ治產上等無餘義差支アリ親戚連署醫師診斷書相添屆出ルトキハ受理セシメ不苦義ニ候ヤ

總務局長回答（二十五年三月十五日）

第一項　御見解ノ通

愛知縣照會（二十五年三月九日）

第二項　女子ヲ有スル戸主養子ヲ貰受ケ（一女子ノ聟養子ニアラス）後日ニ至リ右養子ヲ一女子ノ聟トシ嗣子養子ニスルハ養兄妹結婚セシムルノ嫌アルモ元來血統ノ聯結

ナキモノニ付養子一旦離縁生家ヘ復籍ノ上更ニ届出ル時ハ差支ノ筋無之候ヤ

總務局長回答　（二十五年三月十五日）

第二項　御見解ノ通

京都府問合　（二十五年三月十四日）

第一項　相續權ハ長幼ノ順序ニ據ルヘキ義ニ候處爰ニ長次三男ヲ有スル（次男ハ曩キニ分家又ハ他家ノ養子ト）ナリ復歸シタルモノ）戸主アリ長男死亡ノ場合其相續權ハ矢張リ長幼ノ順序ニ據リ次男ニ移ルヤ又ハ次男ハ他ヨリ復歸シタルモノニ付（其復歸シタルトキ初メテ此家ニ生レタルモノト假定ス）三男ニ先チ權利無之ヤ若シ前段見込ノ通リナレハ長男死亡後三男ニ於テ已ニ其權利ヲ有シタル場合次男復籍候ト雖モ同樣ニ候ヤ

第二項　客年十一月二十五日附ヲ以テ長女ニ聟養子ヲ迎ヘ一男子ヲ擧ケタル後其聟養子ヲ離縁又ハ死亡ノ場合其相續權ハ長女孫ノ孰レニ歸スヘキヤ男子ナルヲ以テ孫ニアリトスレハ其孫女子ナルトキハ如何ヤノ伺ニ對シ同十二月二十三日附ヲ以テ孫ハ男女ニ拘ハラス相續權ヲ有スルモノトスト御指令有之右養嗣子生存中ハ孫ト共ニ相續權有之モノニシテ養嗣子死亡ノ場合ト雖モ孫ハ既得ノ權利者ニ付長女ニハ相續權無之義ト心得可然ヤ

總務局長回答　（二十五年三月十九日）

第一項　次男復籍前ニ三男ヲ嗣子ニ定メサルトキハ前段御見解ノ通

第二項　御見解ノ通

千葉縣照會　（二十五年三月十六日）

曾テ分家シタル者其生家ニ在ル實妹ヲ養女ト爲サントスル者アリ右ハ血屬ト姻屬トノ差違ハ有之候得共妻ノ妹ヲ養女ト爲ス德島縣伺ヒ去十九年十二月十九日貴省大臣ノ御指令有之且ツ戸籍法中實弟ヲ兄ノ養子ト爲ス記載例有之旁以テ親屬ノ關係ニ因ラス實弟妹ヲ養子女ト爲シ差支無之ト存候得共聊カ疑義ヲ生シ候ニ付及御問合候

總務局長回答　（二十五年三月二十一日）

實弟妹ヲ養子女ト爲スハ御見解ノ通差支ナキ義ト思考ス

愛知縣照會（二十五年三月十七日）

家女ニアラサル祖母及母等再緣ノ義ハ實家ヘ復籍ノ上結婚スヘキハ當然ニ候處其實家絶家シ復籍シ難キ場合ニ在テハ嫁家斷緣ノ上直ニ再嫁シ不苦義ニ候ヤ

總務局長回答（二十五年三月二十三日）

御見解ノ通ニテ然ルヘキ義ト思考ス

島根縣問合（二十五年三月三十一日）

玆ニ天資暗愚ナル故ヲ以テ實子廢嫡ノ義出願スルモノアリ右ハ明治六年一月第二十九號布告前略廢篤疾等不得止事故アレハ云々トアル事項ニ據リ難キ樣存候得共其廢篤疾等アル等ノ字ハ範圍モ狹小ナラサレハ此等ノ種類モ包含スル義ナルヤ

總務局長回答（二十五年四月七日）

御見解ノ通

山口縣問合（二十五年三月三十日）

一、養嗣子トシテ貰受ケタルモノヲ疾病若クハ放蕩其他事故ニ依リ廢嫡セントスル場合ニ於テハ最初貰受クル際ノ約束ヲ變更スル義ニ付實家戸主ノ協議ヲ要シ若シ協議整ハサルトキハ處分難相成ヤ將又タ已ニ貰受タル上ハ其子孫ヲ廢嫡スルハ素ヨリ父タルモノノ權内ニ在ルヲ以テ離緣復籍セシムルニアラスシテ單ニ相續權ヲ移轉スルニ止マル如キ實家ニ關セサル限リハ實家ノ協議ヲ要セス廢嫡ノ處分ヲ爲シ可然ヤ

一、前項若シ實家ノ協議ヲ要スルモノトスルモ實家戸主失踪逃亡中ナルトキハ協議ヲ待タス直ニ廢嫡ノ處分ヲ爲シ可然ヤ又タ戸主失踪中ト雖モ他ニ家族アレハ其家族ノ協議ヲ要スルヤ

總務局長回答（二十五年四月八日）

第一項　後段御見込ノ通

第二項　前項ニテ御了解アリタシ

山口縣問合（二十五年三月三十日）

一、失踪逃亡中ノ養子若クハ妻等ヲ離縁スルハ失踪逃亡後年月經過ノ如何ニ拘ラス屆出シメ可然ヤ

一、戸主失踪逃亡中其家族ノ離縁又ハ他ヘ養子女ニ遣ハス等ノ場合ニ於テ相續權ナキモノハ戸主失踪逃亡後年月經過ノ如何ニ拘ラス屆出シメ可然ヤ

總務局長回答（二十五年四月八日）

第三項　二十四箇月ヲ過キ養實又ハ夫妻兩家親戚協議ノ上願出ル時ハ聞屆苦シカラス

但止ムヲ得サル事柄アリテ速ニ離縁ヲ要スル者ハ十箇月ヲ過キ兩家親戚協議願出ツルニ於テハ聞屆苦シカラス

第四項　親戚協議願出ツルニ於テハ御見込ノ通

東京府伺（二十五年三月）

一、旦他家ノ養子トナリタルモノ養家ヨリ直ニ他ノ養子トナルハ不相成義ニ候處茲ニ明治八年頃既ニ養家ヨリ他ノ養子トナリ其再養家ノ家督ヲ相續シタルモノアリ右ハ今更斷縁復籍セシメ難キ事情モ有之候ニ付テハ此際前養家ト斷縁セシメ戸籍面ニ其斷縁ノ旨ヲ記入シ置キ可然ヤ

指令（二十五年四月九日）

其儘差置苦シカラス

島根縣問合（二十五年四月八日）

母祖母後見人ノ義ニ付テハ曾テ内務省御指令ノ趣ニ據リ是迄本縣ニ於テハ無去ノモノニ限リ候義ト心得居候處本年一月七日香川縣伺ニ對シ貴省電報御指令ニテハ夫ノ有無ヲ問ハス一同ニ後見人タルコトヲ得ヘキヤニ認メラレシカ果シテ然ルヤ

總務局長回答（二十五年四月十六日）

右ハ母、祖母其配偶者ノ有無ヲ問ハス子孫ノ後見人ト爲ルヲ得ヘキ義ト思考ス

宮城縣照會（二十五年四月十九日）

第一項　茲ニ長男ヲ有スル夫婦其長男ヲ携帶シ夫妻共ニ他ノ養嗣子トナリタル後二男ヲ擧ケタリ然ルニ該養嗣子死亡シ次テ養父(戸主)死亡又ハ退隱シ代替ヲ爲スニ當リ家督相續權ハ養嗣子ノ長男(携帶子)ニ可有之ヤ又ハ二男(養家ニ於テ擧ケタル子)ニ可有之ヤ明治十九年十月內務省訓令第二十號戸籍登記書式中登記目錄書式第十四管內異動目錄第八項ノ登記例ニ據ルトキハ該養嗣子ノ長男ハ戸籍上戸主ニ對シ養孫ノ名義無之單ニ養子携帶ノ子ニ過キサルモノナレハ無論養嗣子ノ二男(養家ニ於テ擧ケタル子ナルヲ以テ戸主ニ對シ戸籍上孫ノ名義アル)ニ家督相續權アルモノヽ如ク被存候得共又養嗣子戸主トナルトキハ假令携帶子ト雖モ家督相續ノ權ハ當然已レノ長男ニ可有之然ラハ養嗣子ニ相續セシムルコト能ハスシテ其子ニ相續セシムル場合ニ於ケルモ其順位ハ變更スヘキ筋ニ無之ヤ

第二項　前項養嗣子ノ携帶長男果シテ相續權ナキモノトスレハ若シ養嗣子離緣スル場合ハ其長男ハ元來携帶子ナルヲ以テ當然携帶シ去ルヘキ筋ノモノニ候ヤ又ハ別段ノ協議アラサル以上ハ當然養家ニ差置ク筋ノモノニ候ヤ

總務局長回答（二十五年四月二十七日）

第一項　父子共ニ養子トナル場合ノ外ハ養嗣子戸主トナルト雖モ携帶子(長男)ハ更ニ嗣子ニ定ムルニ非サレハ當然相續權ナキモノトス

第二項　別段ノ協議ナキ場合ニ於テハ前段御見解ノ通

宮崎縣伺（二十五年四月十八日）

爰ニ失踪者ノ遺妻アリテ生計上ノ困難ナルヨリ其子女ヲ携帶シ離婚復歸ヲ出願スル者アリ右ハ親族熟議ヲ遂ケ出願不得已モノニ限リ期限經過ノ後ハ聞屆可然ヤ又ハ假令生計上ニ困難ナルモ若シ其子女失踪者ノ家督相續スヘキモノナルトキハ之ヲ携帶スルハ不相成義ニ候ヤ

指令（二十五年四月二十八日）

何ノ通

埼玉縣照會（二十五年四月二十八日）

離婚婦又ハ寡婦再緣ノ義ハ前婚解消後別ニ日數ノ制限無之但三百日以上ヲ經過セサルモノハ遺胎ノ徵ナキ醫師診斷書ヲ添付セシメ處分致來候處本年一月十四日附甲第一八號亡兄遺妻結婚ノ件伺ニ對シ亡夫死亡後六ヶ月經過ノ上遺胎ノ徵ナキ旨醫師診斷書相添更ニ出願セハ聽許シ苦シカラサル旨參民第三八號ヲ以テ指令相成候ニ付テハ右六ヶ月ノ制限ハ唯リ亡兄ノ遺妻其弟ト結婚スヘキ場合ノミニ限ラス離婚婦又ハ寡婦再婚ノ場合ニ於テモ之ヲ適用スヘキ義ト相心得可然ヤ

總務局長回答（二十五年五月三日）

御見解ノ通

鳥取縣照會（二十五年五月七日）

父ノ離婚セシ母又ハ妾ニ入籍セシモノ即チ生母ヲ父生存中自家ニ引取入籍セシムル義ハ不相成筋ト存候處他家相續或ハ分家セシ實子ニシテ同上ノ母又ハ妻ヲ入籍セシメントスルモノアリ右ハ別段ノ手續ヲ以テ養育スルハ格別父生存中入籍セシムル義ハ不相成候ヤ

前項若シ父生存中ト雖モ入籍セシメ差支ナキモノトセハ其實子廢家ノ上家族即チ生母携帶實家ニ復歸スル義モ可有之果シテ然ルトキハ離婚セシ父母ヲ同居セシムルニ至レリ右ハ差支ナキヤ

總務局長回答（二十五年五月十三日）

右ハ親族協議出願ノ上ハ差支ナキ義ト思考ス

愛知縣照會（二十五年五月二十一日）

縣下丹羽郡榮村鈴木茂三郎ナル者妻キミヱ及ヒ養子（其實亡戸主ノ實弟）新次郎ヲ遺シ死亡セリ依テ養子ハ當然相續スヘキノ處同人義ハ數犯ノ前科モ有之品行甚タ不正ノ者ニテ該家相續セシムルトキハ實ニ一家ノ浮沈ニ關シ相續セシメ難キニ付之レ

ヲ廢嫡シ遺妻「キミヱ」ヲ以テ相續ノ義該家親戚ヨリ願出又養子ニ於テハ正當相續權ヲ主張シ協議整ハス右ハ鈴木家親戚ノ申立事情尤ニ相聞候得共畢竟相續相爭フモノニ付此場合ニ在テハ裁判所ノ處分ニ任セ行政上廢嫡ヲ許否シ又ハ相續屆受理セシムヘキノ限ニ無之候ヤ

總務局長回答（二十五年六月一日）

貴見ノ通裁判所ノ處分ヲ仰カシムヘキ義ト思考ス

千葉縣照會（二十五年五月二十三日）

分家者祖先ノ通字ヲ以テ改名セントスル者有之候處改名ハ營業ノ都合又ハ由緒等ニ依リ願出ルモノアルトキハ其ノ者自家ノ都合不得止差支アルモノト認ムルモノ又ハ祖先ノ通字ヲ以テスルハ許可スルヲ得ルノ例有之本件ノ如キ分家者ニアリテ單ニ宗家祖先ノ通字ニ改メントスルハ不穩當ノ感モ有之候得共系統家名等ノ關係ヨリスルトキハ許可シ差支無之ト存候得共適例無之義ニ付及照會候

總務局長回答（二十五年六月一日）

御見解ノ通

東京府伺（二十五年五月二十八日）

丁年ノ戸主瘋顛白痴ナルトキハ之レヲ後見ニ付スル義ハ先例モ有之候得共其後見人ハ右瘋顛白痴者ノ妻ヲ以テスルモ差支ナキヤ

指令（二十五年六月三日）

伺ノ通

鹿兒島縣照會（內務省ヨリ合議ヲ）（二十五年五月三十一日）

第一條　士族戸主ノ長男國事犯ニヨリ除籍トナリ分籍ニ付該家繼承權ハ自然ニ男ニ移轉セリ然ルニ該長男明治二十二年大赦令ニ依リ赦免セラレ願濟實家ニ復歸シタル場合ニ於テハ其相續權ハ二男廢嫡ノ手續ヲ要セス當然長男ニ復スヘキヤ

第七條　變例ノ相續卽チ左ノ如キ件々モ亦出願セシムヘキヤ

一、戸主死亡シ相續スヘキ男女子アルモ幼稚ニシテ家務上差支等ノ故ヲ以テ其幼者丁年ニ達スル迄戸主ノ父再相續ノ件（親戚熟議）

二、男女子ヲ有セス弟妹アル戸主死亡シ家政ノ都合ニ依リ戸主ノ父再相續ノ件（同上）

三、男女子ヲ有スル戸主死亡シ前第一項ノ事故ニヨリ戸主ノ妻相續ノ件（同上）

第八條　前條各項ノ場合ニ於テ其當然相續スヘキ男若クハ女子又ハ弟妹廢嫡ノ手續ヲ要セサルヤ

（内務省庶務司法省總務）兩局長回答（二十五年六月）

第一條　御意見ノ通

第七條　御意見ノ通

第八條　御意見ノ通

鹿兒島縣照會（二十五年五月三十一日）

第二條　士族ノ輩五十歳ヨリ隱居願勝手タルヘキ旨明治三年壬十月十七日太政官達ノ趣モ有之候處右ハ明治十二年第八號公達ニヨリ消滅セシヤ果シテ然ラハ五十歳未滿者隱居ト雖モ出願ヲ要セス市町村長ヘ屆出シメ可然ヤ

（内務省庶務司法省總務）局長回答（二十五年六月）

第二條　十二年第八號達ハ出願ヲ屆出ニ改メタル迄ニシテ三年十月太政官達ハ消滅スル限ニアラス故ニ五十歳未滿ニシテ隱居セントスルモノハ其由ヲ詳具屆出ツルノ例ニ有之候

鹿兒島縣照會（二十五年五月三十一日）

第三條　明治二十年十月千葉縣ヨリ家女離緣（男子ナキモノ長女ヘ夫ヲ迎ヘ其夫離婚スルモノ）ノ義云々中略其廢嫡ニ準スルモノニ限リ出願爲致候義ニ可有之乎ノ照會ニ對シ同年十二月六日貴省總務局民事部ヨリ御意見ノ通ト回答有之然ルニ二十三年三月愛知縣ヨリ養子戸主及養嗣子家女ノ妻ト戸内離婚ノ件照會ニ總務局戸籍課ヨリ出願セシムルニ及ハサル旨同年四月一日回答アリ果シテ出願ヲ要セサルヤ

内務省庶務局
司法省總務局　長回答　（二十五年六月）

第三條　御意見ノ通

鹿兒島縣照會　（二十五年五月三十一日）

第四條　女子ヲ有スルモノ婿養子ヲナスニ當リ之ヲ婿トシ結婚セシムルノ事故等入籍屆書ニ誤脫シタルモノ取扱方長野縣ヨリ照會ニ對シ戸籍訂正ヲ以テ取扱フヘキモノニアラス云々二十三年十二月二十二日圖書局長ヨリ回答アリ然ルニ前同樣ノ事ニ關シ島根縣照會ニ對シ二十四年四月二十二日同局長ノ回答ニ戸籍上既ニ養兄妹ノ續柄ヲ生シタル上ハ云々中略更ニ之ヲ娶ルノ手續ヲ爲サシメ可然トアリ又長野縣ヨリ養兄妹ト結婚許否ノ件ハ同年九月十七日聞屆苦シカラサル旨内務大臣御指令モ有之右ハ何レモ同一ノ事實ニシテ毫モ異ナルコト無之ト思惟ス就テハ婿養子若クハ縁女タル事故入籍ノ際屆漏ノ爲メ戸籍上養兄妹ノ續柄ヲ生シタルモノハ長野縣ヘ御指令及回答ノ通家女他家ヘ送籍ヲナサス依然同籍内ニアリテ結婚ノ義事實詳具出願セシムヘキヤ

但出願ノ都度内務省ヘ經伺ヲ要セサル義ト相心得可然ヤ

内務省庶務局
司法省總務局　回答　（二十五年六月）

第四條　島根縣ヘ回答ノ通御取扱相成可然

鹿兒島縣照會　（二十五年五月三十一日）

第五條　戸籍登記目錄保存期限ハ市町村長ノ見込ニ任セ可然ヤ又ハ縣廳ニ於テ之ヲ規定スヘキヤ

内務省庶務局
司法省總務局　長回答　（二十五年六月）

第五條　保存期限ヲ定ムヘキモノニ非ス

鹿兒島縣照會　（二十五年五月三十一日）

第六條　左ノ件々ハ出願許可ヲ要スヘキヤ

一、失踪ノ妻離縁ノ件　失踪後十ケ月以上經過シ雙方親戚熟議ノモノ

二、失踪ノ養子女離縁ノ件　失踪後十ケ月以上經過シ養實兩家熟議ノモノ